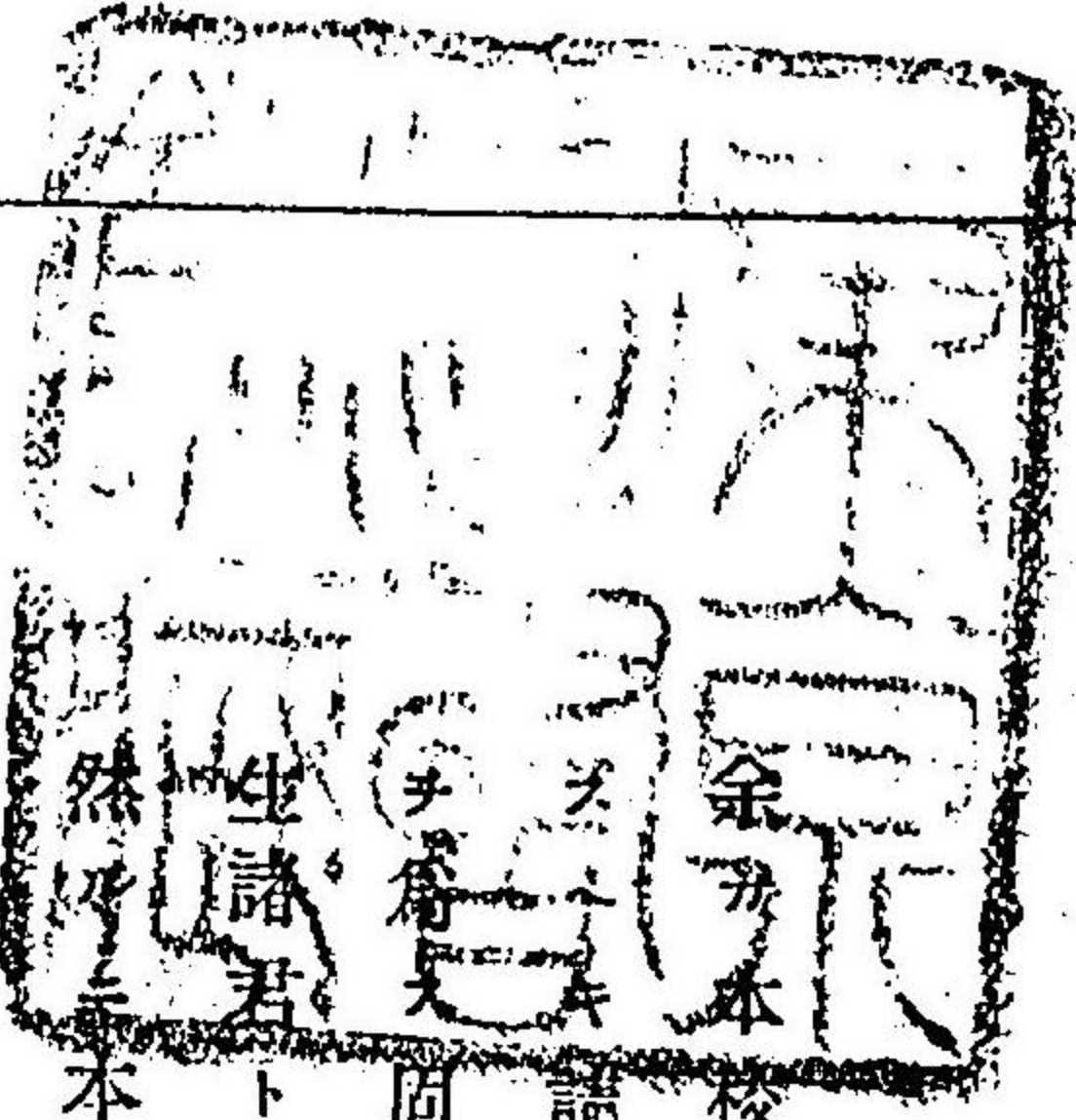


帝國憲法講義

佛國法律博士 本野 一郎 生先講述

本校校友 石河 恆治 君 筆記



余本校ニ於テ帝國憲法ヲ講スルヤ幹事諸君ヨリ之ヲ講義録ニ掲載
スルヲ請求アリシト雖トモ余之ニ應セザリキ何トナレハ余ノ此講義
ヲ爲メ固ヨリ之ヲ公ニスルノ意アルニアラス至ク自家講學ノ爲メ學
生諸君ト筋ニ之ヲ研究セント欲スルニ過キサレハナリ

然レ本校講義録ニ限り憲法ノ講義ナキカ故ニ近日ニ至リ校外生諸
君ヨリ頻リニ其掲載ヲ請求サル、ヲ以テ幹事諸君ヨリ強テ之ヲ余ニ
請ハレタリ余是ニ於テカ敢テ辭スルヲ得ス是レ余カ今日諸君ト相見
ル所以ナリ

今日ヨリ茲ニ掲載スル講義ハ余カ前學期來本校ニ於テ爲セシ講義ノ
(憲法)

緒言

筆記ニ過キノ而シテ未タ充分ニ之ヲ校正スルノ暇ナカリシヲ以テ或
ハ字句文ヲ爲サス或ハ意義貫徹セサルモノアルヤモ知ル可ラス讀者
諸君請フ之ヲ諒セヨ

明治廿三年十一月

講者誌

緒言

諸君ヨ余ハ諸君ノ前ニ於テ帝國憲法ヲ講スルノ前ニ一應余カ本校ニ於テ帝國
憲法ヲ講演スルノ囑托ヲ承諾シタル理由ヲ諸君ニ告ケサルヲ得ス余ノ佛國ニ
アルヤ和佛法律學校講師古賀君ヨリ本校ノ主意ヲ聞キ本校ノ爲メニ力ヲ盡ス
ヘキノ相談ヲ受ケタリ又昨年ノ十月ニ歸朝シタル節諸君カ最モ敬愛スル講師
富井君ヨリモ同シク相談アリタリ本邦ニ於テ我國ノ法律ト共ニ歐米諸國ノ法
律殊ニ我法律ノ基礎トナルヘキ佛國ノ法律ヲ研究スルハ我國法律ノ現在及ヒ
將來ノ爲メ實ニ必要ノ事ト信スル故ニ本校ノ如キ所ニ於テ諸君ト共ニ之ヲ研
究スルハ素ヨリ願フ所ナルヲ以テ喜テ之ヲ承諾シタリ去リ乍ラ余ノ昨年十月

ニ歸朝スルヤ再ヒ佛國ニ渡航スルノ考ヘナリシヲ以テ更ニ歸朝ノ上本校ニ出
席スヘキコトヲ約シタリ然ルニ少シク事故アリテ佛國ニ再ヒ渡航スルコトハ
暫ク見合タルヲ以テ之ヲ富井君ニ告ケタルニ富井君ハ余ニ本校ニ於テ何ナリ
ト一科ノ講義ヲ始ムヘキコトヲ勸メラレタリ余ノ本校ノ爲メニ盡シ度キ精神
ハ前述シタルカ如クナルヲ以テ余ハ敢テ之ヲ辭セザリキ
扱テ諸君ノ爲メニ何か一科目ノ講義ヲ致スヘキコトハ約シタルモノ、本校學
科中ニアル科目ハ各位講師諸君ノ受持アリ故ニ何か新科目ヲ設ケ之ヲ講スヘ
キ積リニテアリシニ此際憲法ノ講師ニ缺員アルヲ以テ憲法ノ講義ヲ引受ケ吳
レヨト幹事諸君ヨリ依頼セラレタリ公法學ハ余ノ最モ好ム所ナレハ我帝國憲
法ヲ諸君ト共ニ研究スルハ余ニ於テ幸ノ至リナリ去リ乍ラ憲法ナルモノハ固
ト是レ國家ヲ組織スルノ大原則ヲ規定シタル者ナルヲ以テ詳シク之ヲ講演セ
ント欲セハ余輩ノ如キ謏劣才ノ身ヲ以テ敢テ之ヲ能ク得ルモノニアラス
然リト雖トモ憲法ノ講義ハ諸君本年ノ科目中ニアリ諸君ハ此科目ニ付キ來ル
七月ニハ定期試験ヲ受ケサルヲ得ス憲法講義ノ必用實ニ切迫セリト謂ノヘキ

(憲法)

余不肖ト雖トモ本校ノ爲メニ應分ノカラ盡スコトヲ約シタル以上ハ豈ニ幹事諸君ヨリノ囑托ヲ辭スルヲ得ンヤ是レ余カ今日諸君ト相見ル所以ナリ余カ憲法講義ノ囑托ヲ諾シタル次第ハ前陳ノ如シ故ニ今諸君ノ前ニ於テ帝國憲法ヲ講スルニ當リ其甚タ不充分ナルコトニ付テハ何分ニモ諸君ニ於テ御宥恕アラシコトヲ乞フ又余ノ講義ノ不完全ナルヲ以テ充分ニ余カ意ヲ諸君ニ貫徹セシムルヲ得サルモ計リ難シ否ナ必ス諸君ノ疑ヒヲ解キ能ハサルヘシ然リト雖モ若シ諸君ニシテ余カ講義ニ對シ疑點アラハ余ハ飽マテモ諸君ノ質疑ニ應スヘシ又余ノ説ニシテ諸君若シ之ヲ非ナリト認ムルコトアラハ諸君乞フ決シテ余ニ抗辨スルヲ憚ル勿レ余ハ謹ンテ諸君ノ教ヲ受ケン

諸君ヨ余ハ帝國憲法ノ講義ニ取掛ル前ニ之ヲ講スルノ方法ニ付キ一言セサ可ラス講義ノ方法ニ種々アリ或ハ憲法ノ條文ヲ逐ヒ一々之ヲ説明シ之ヲ解釋スルモノアリ是レ今日普通ニ行ハル、所ノ方法ナリ或ハ可成學理ニ適合シタル順序ヲ設ケ其順序ニ從ヒ之ヲ講スルモノアリ第一ノ方法ハ至極簡便ニシテ講師ニ取リテハ最モ骨ノ折レサル方法ナリ然リト雖トモ學生諸君ニ取リテハ餘

リ面白カラサル方法ト云フ可シ第二ノ方法ハ講師ニ取リテ多少面倒ナリト雖トモ學生諸君ニ取リテハ面白味モ多ク又憲法上ノ大原則ヲ知ルニハ利益多カクヘシト信ス是レ余カ佛國在學中經驗シタル處ナルヲ以テ余ハ第二ノ方法ヲ取ル積リナリ知ラス其順序ノ果シテ學理ニ適合スルヤ否ヤ余ハ此講義ヲ大別シテ二編トスヘシ第一編ニ於テハ國家ノ組織例ヘハ主權、立法權、行政權及ヒ此諸權ヲ實行スル機關等ノ事ヲ説クヘシ第二編ニ於テハ國民ノ權利義務即チ我憲法第二章ニ記載スル所ノ事柄ニシテ例ヘハ信仰ノ自由、言論著作、印行集會及ヒ結社ノ自由又ハ兵徭、納稅ノ義務等ニ關スルコトヲ説ク積リナリ又此講義ハ帝國憲法ノ講義トハ申セトモ余ハ必スシモ帝國憲法ノ條文ニノミ拘泥スルヲ欲セス或ハ之ヲ外國ノ憲法ト比較シ或ハ之ヲ歐米ニ行ハル、學理ニ照シ其是非ヲ論究シ或ハ帝國憲法ノ實行ニ缺ク可ラサル議院法、撰舉法、貴族院令等ヲ參照スルコトアルヘシ諸君乞フ之ヲ諒セヨ

余ハ第一編ヲ分テ總論及ヒ三章トシ而シテ總論ニ於テ憲法制定前ノ日本ノ政體ト憲法制定後ノ政體ニ如何ナル變動ヲ生シタルヤヲ論究シ第一章ニ於テ主

權第二章ニ於テ立法權第三章ニ於テ行政權ノ事ヲ詳論セント欲ス

總論 憲法制定前後ノ比較

憲法制定
前後ノ比
較

余ハ本論ニ入ルノ前ニ憲法發布前ノ日本帝國ト憲法發布後ノ日本帝國トノ間ニ如何ナル差アルヤヲ論究スルコトハ甚タ必用ナリト信スルヲ以テ此點ニ付キ聊カ所見ヲ述ヘン

諸君ヨ憲法トハ抑モ如何ナルモノナルヤ余ハ其意義ヲ解釋スルニ佛國ノ碩學ロシー氏ノ語ヲ借ルヘシ同氏カ千八百三十五年ニ佛國ニ於テ初テ憲法ノ講義ヲ爲シタルトキニ憲法キル語ノ釋義ヲ與ヘタルコトアリ其大意ニ曰ク

憲法ノ定
義

「コンスタチューション即チ憲法トハ國家ノ組織ト其活動ヲ規定スル法規ハ全體ヲ云フ是レ恰モ人間身體ノ組織活動ヲ支配スル法規ノ全體ヲコンスタチューショント云フカ如シ是レコンスタチューション即チ憲法ナル語ノ汎博ノ意義ナリ憲法ナル語チ斯ク廣キ意味ニ取ルトキハ如何ナル國ト雖トモ憲法ノナキ國トテハナシ如何ナル國ト雖トモ之ニ立憲國ナリト言ハサル可ラス如何トナレ

ハ如何ナル國ト雖トモ既ニ一ノ國家ヲ組成スル以上ハ其組織ノ善惡ニ拘ハラズ之ヲ支配スルノ法則ナカル可ラフ然リト雖トモ今日所謂憲法ナル語ハ尙他ニ一ノ狹隘ナル意味チ有ス即チ國民ニ自由ヲ附與シタル國家ノ組織ヲ規定スルハ法ヲ云フト

ロシー氏カ憲法ナル語ニ與ヘタルノ釋義ハ實ニ名言ト謂フヘシ同氏カ言ヘル如ク憲法ナル語チ其汎博ノ意味ニ取ルトキハ魯西亞支那土耳其ノ如キ國ト雖トモ之ヲ立憲國ナリト言ハサル可ラス如何ントナレハ是等ノ國々ハ何レモ君主獨裁ノ國トハ申シナカラ其君主獨裁ノ國家ヲ組織スル成文又ハ不成文ノ法則ナカル可ラス此法則ハ即チ其國ノ憲法ナリ然リト雖トモ魯西亞支那土耳其ノ如キ國ヲ認メテ誰レカ之ヲ立憲國ナリト言フヘキヤ人ノ此等ノ國ヲ認メテ立憲國ナリト謂ハサル所以ノモノハ他ナシ是等ノ國々ニ於テハ國民ニ參政ノ權ナク其自由ヲ保護スルノ法則ナキカ爲メナリ然ラハ則チ今日ノ所謂憲法ナルモノハ國家ノ組織ト國民ノ權利義務トヲ制定スルモノナリト言フテ可ナラシカロシ一氏カ與ヘタル憲法ノ釋義ヲ以テ之ヲ我日本ノ政體ニ應用スレハ憲

(憲法)

法制定前ノ日本ト憲法制定後ノ日本トノ間ニ生シタル差異ハ誠ニ判然タルヘシ

我日本國ノ國家ヲ爲スヤ爰ニ二千五百有餘年其間或ハ純然タル君主獨裁ノ時代アリ或ハ封建ノ時代アリ其時代々々ニヨリテ國家ノ組織モ自ラ異ナル所アリシト雖トモ其時代ノ國家ヲ組織シタル法則アリシヤ疑ナシ憲法ナル語ヲ其汎博ノ意味ニ取ルトキハ當時ノ國法モ矢張り憲法ニシテ當時ノ政體モ矢張り立憲政體ナリシト言ハサル可ラス之ヲ狹隘ノ意味ニ取ルトキハ決テ然ラス其時代ニアリテハ國家ノ組織ニ關スル法律制度ハアリシト雖トモ今日ノ所謂憲法ナル者ハアラサリシナリ又近クハ維新後今日迄ノ日本ノ政體ニ付テ論スルトキハ矢張り同様ノ感アルヘシ憲法發布前ト雖トモ既ニ日本帝國アリ日本帝國アレハ之ヲ組成スル成文又ハ不成文ノ法アリ其法則ハ即チ憲法發布前ノ憲法ナリ然リト雖トモ憲法發布前ノ日本ヲ以テ未タ立憲政體ノ國ト言フ可ラス然ラハ即チ如何ナル點ニ於テ憲法制定前ノ日本ト憲法制定後ノ日本トノ間ニ差異ヲ生シタルヤ

諸君モ御承知ノ通り帝國憲法ハ七章七十六條ヨリ成立ス故ニ憲法制定前後ニ日本ノ政體上ニ如何ナル差異ヲ生シタルヤヲ知ラント欲セハ先ツ此七十六條ニ含蓄スル我憲法ノ原則トモ申スヘキ要點ヲ尋テ而シテ其原則ハ果シテ憲法制定以前ニ既ニ存在シタルヤ否ヲ論究セサル可ラス斯ノ如クニシテ初テ憲法制定前後ノ差如何ナル點ニアルヤヲ知ルヲ得ヘシ又我憲法ハ果シテロシ一氏カ與ヘタル解釋ニ附合シ眞ニ立憲政體ノ實アルヤ否ヤヲ知ルヲ得ヘキナリ夫レ人間ノ相集合シテ社會ヲ組織スルヤ必ス社會ノ安寧秩序ヲ保持シ其社會ノ一分子タル各個人ノ權利ヲ保護スルノ權力ナカル可ラス如何ントナレハ若シ此權力ナカリセハ社會ハ一日モ生存シ得可カラサレハナリ學者ノ所謂主權ナル者ハ即チ此權力ナリ故ニ主權ナル字ヲ解釋スレハ社會ヲ支配スル最上命令權ナリト言テ可ナラン然シ命令權トノミ申シテハ未タ其意ヲ盡サス社會ニ命令ヲ下シ之ヲ實行セシメ得ルトノ意ヲ含マサル可ラス故ニ主權トハ社會ニ命令シ之ヲ實行セシムル最上權ナリト云ハ、可ナラン我憲法ニ於テ所謂統治權ナルモノハ即チ是レナリ統治權ナル語ハ主權ヲ指スモノニアラストノ異說

ヲ唱フル人アリト雖トモ此説ハ敢テ辨駁スルニ足ラスト信ス如何トナレハ我
憲法ノ起草者カ佛語ニテ所謂スーヴレステー英語ニテ所謂ソヴレインチー即
チ主權ナル語ノ意ヲ取りテ之ヲ統治權トナシタルハ疑フ可ラサル事實ナリ其
事實ナル一ノ證據トモ申スヘキハ我政府カ爲シタル憲法ノ英譯ヲ見テモ明カ
ナリ其譯文ニ統治權チ Rights of sovereignty トシテアリ又或人ノ曰フ如ク統ハ佛
語ニテ Regner ノ意ニシテ治ハ Gouverner ノ意ナリトスルモ統治權ハ主權ニアラ
サルトノ證據トハナラサルナリ如何ントナレハ若シ一國ノ君主ニシテ其國ニ
君臨シ其國ヲ治スルトスレハ其國ノ主權ハ君主ニアリト云フテ何ノ不可カ之
アラシヤ要スルニ論者ハ主權ト統治權トノ間ニ如何ナル差異アルヲ明言セス故
ニ余ハ其論ニ服スル能ハサルナリ
主權トハ社會ヲ支配スル最上命令權ナルコトハ前ニ陳ヘタルカ如シ我國ニ於
テ此最上權ハ建國以來天皇ニアリ新定ノ憲法ニ於テ大日本帝國ハ萬世一系ノ
天皇之ヲ統治スト云ヒ又天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬スルト明記シ
アルハ取モ直サス古ヨリノ習慣法ヲ成文ニシタルマテノ事ナリ故ニ此一點ニ

十

於テハ憲法制定前後ニ於テ敢テ差異ナキナリ然ラハ則チ如何ナル點ニ於テ差
異アリヤ曰ク建國ヨリ今日ニ至ル迄ノ我國ノ政體ト憲法制定以後ノ政體ト相
分ル、所以ノモノハ憲法第四條ノ末文ニアリ其文ニ曰ク
天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニヨリ之ヲ行フ。
此憲法ハ條規ニヨリ之ヲ行フトノ數字ハ是レ實ニ君主獨裁ノ政體ト立憲政體
トノ區別ヲ立ツル最モ注目スヘキ要點ナリ是レ實ニ我憲法ノ制定アル所以ニ
シテ憲法ノ精神ハ蓋シ此數語ニアリト云フテ可トラン學理上ニ於テハ此數語
アルカ爲メ君主ノ大權ヲ制限シタルヤ否ヤニ付テハ多少議論アルヘシト雖ト
モ實際政治ヲ行フニ當リ正實ニ此憲法ヲ履行スルトキハ此數語アルカ爲メニ
主權ノ實行ニ付キ一大制限ヲ立テタルモノト言フテ可ナリ余ハ殊更ニ茲ニ主
權ノ實行ナル語ヲ用ユ如何トナレハ古ヨリノ習慣ト云ヒ憲法ノ明文ト言ヒ
主權ノ享有ニ付テハ敢テ制限ナシ此等ノ點ニ付テハ主權ヲ詳論スヘキ第一章
ニ於テ再ヒ之ヲ論究シ我憲法ハ主權ノ實行ヲ制限シタルヲ證スヘシ
然ラハ我憲法ハ如何ナル點ニ於テ主權ノ實行ニ付キ制限ヲ設ケタルヤ

(憲法)

十一

十二
夫レ主權ヲ實行スルニ當リ其作用ニアリ曰ク立法、曰ク行政、立法トハ法律規則ヲ制定スルノ意ナリ行政トハ法律規則ヲ實行シ又萬般ノ政務ヲ處分スノ意ナリ是レ佛國ノ學者カ所謂 *Pouvoir législatif*, *Pouvoir exécutif* ナルモノナリ司法モ是亦主權活用ノ一ナリト雖トモ是レ寧ロ行政ノ一部ト認ムヘキモノナルヲ以テ余ハ主權ノ實行ヲ分チテ立法、行政ノ二トス此點ニ付テハ種々議論モアレハ後章ニ於テ詳論スル所アルヘシ

立法權行政權ト言ヘハ恰モ主權ト相對峙スルモノ、如クコ聞ユレトモ決シテ然ラス立法ト云ヒ行政ト云ヒ何レモ是レ主權ノ一分子ニ過キス主權ヲ活用シテ法ヲ作ルトキハ之ヲ立法ト云ヒ其作りタル法ヲ實行シ又萬般ノ政務ヲ處分スルトキハ之ヲ行政ト云フ是皆主權ノ活用ニ過キサルナリ今之ヲ立法行政ト區別スル所以ノモノハ全ク爲政上ノ便宜ニ出ルモノナリ

憲法制定前ノ日本ニアリテハ立法行政ノ諸權ハ何レモ主權者自ラ之ヲ掌握シ自ラ之ヲ實行シタルモノナリ然ルニ憲法制定以後ニアリテハ此等ノ點ニ付キ種々ノ制限ヲ設ケタリ今其最モ著大ナル者ヲ擧クレハ左ノ如シ

主權ノ實
行ニ於ル
制限

第一 立法權ノ一部分ヲ帝國議會ニ附與シタルコト

第二 歳出歳入ノ豫算ヲ議定スルノ權ヲ帝國議會ニ附與シタルコト

第一立法權ノ制限

憲法第五條ニ於テ「天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フト云ヒ又第三十七條ニ於テ凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス」トアルハ即チ憲法ヲ以テ天皇ノ大權作用ノ一ナル立法ノ事項ニ於テ制限ヲ加ヘタルモノト言ハサル可ラス憲法制定以前ノ有様ヲ考フレハ如何ナル法律如何ナル命令ト雖トモ凡テ主權者ノ獨裁ニ放任シタルモノナリ然ルニ憲法制定後ニ在リテハ主權者ノ命令中法律ト稱スル一種ノ命令ニ至リテハ此度憲法ヲ以テ規定シタル帝國議會ト稱スル政務機關ノ協賛ヲ要スルニ至レリ是レ我國開關以來未曾有ノ改革ト云フヘキナリ

帝國憲法ヲ以テ如何ナル事項ハ法律ヲ以テ規定スヘク如何ナルモノハ勅令ヲ以テ規定スヘシトノ限界ハ未タ判然制定セスト雖トモ要スルニ國務ニ關スル最モ重要ノ事項ハ法律ヲ以テ規定スヘキノ精神ナルハ憲法中ニ法律ヲ以テ規

(憲法)

定スヘキモノトシテ列舉シタル事項ヲ見テモ明カナリ今二二ノ例ヲ舉ケレハ
 憲法第二章ニ於テ規定シタル日本臣民ノ權利義務ニ關スル事項ノ如キ租税ニ
 關スル事項ノ如キ(六十二條裁判所構成)ノ如キ(五十七條六十條衆議員撰舉法ノ
 如キ(三十五條)皆是レ法律ヲ以テ規定スヘキノ事項ナリ以上陳ヘタル所ノ事項
 ハ單ニ例トシテ舉ケタルノミニシテ此他法律ヲ以テ規定スヘキノ事項ハ敢テ枚
 舉スルニ違アラサルナリ要スルニ我憲法ハ法律ヲ以テ規定スヘキノ事項ヲ制限
 セハ然ルニ勅令ヲ以テ規定スヘキノハ之ヲ制限スルノ意アリシモノ、如キ
 憲法第八第九ノ兩條ヲ見レハ勅令ヲ以テ規定スヘキノ事項ノ區域ハ甚ダ狹隘ナ
 ルモノ、如キ此點ニ付テハ世ノ學者中ニハ異論モアルコトナレハ余ハ後章ニ
 於テ詳論スル所アルヘシ併シ我憲法ヲ以テ規定シタル立法上ニ於ケル制限ノ
 區域ニ付テハ論議スヘキ點アルヘシト雖トモ兎ニ角幾分ニモセヨ主權者ノ立
 法權ヲ制限シタルハ掩フ可ラサルノ事實ナリ是レ憲法制定前後ニ生シタル一
 大差異ナリト云フ可シ

第二豫算議定權

憲法第六十四條ニ曰ク「國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經
 ヘシ○豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國
 議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス」ト是亦實ニ憲法制定以來ノ一大新原則ト言フ可キ
 ナリ

古ヨリ被治者カ治者ノ行爲ニ對シ最モ苦痛ヲ感スル所ノモノハ何ンヤ蓋シ
 治者カ被治者ノ承諾ナクシテ濫リニ租税ヲ徵收シタルコトナルヘシ是レ即チ
 西洋諸國ニ於テ代議政體ナルモノ、起リシ一大原因ト云フヘキナリ我國ニ於
 テモ建國以來二千五百有餘年今日ニ至ル迄租税ヲ徵收スルニ被治者ノ承諾ヲ
 請求シタルコトナシ是レ我國法上ノ一大缺點ト云フヘキナリ然ルニ憲法第六
 十二條ヲ以テ新タニ租税ヲ課シ及ヒ税率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト
 云ヒ其第六十四條ニ於テ國家ノ歲出歲入ハ豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘ
 シト規定シタルハ被治者ニ大ナル安全ヲ與ヘタルモノト云フ可キナリ憲法第
 七十一條ニ於テ帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキ
 ハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシト定メタルヲ以テ是レカ爲メ第六十四條

十六
ヲ以テ被治者ニ與ヘタル權利ヲ大ニ殺キタリト雖トモ未ク其權利ヲ全ク消滅
セシメタリト云フ可ラス如何トナレハ政府ハ其意ノ儘ニ豫算ヲ立ツルコトノ
出來サルハ申スマテモナク必ス其前年度ノ豫算即チ前年帝國議會ニ於テ議決
シ其協賛ヲ經タル豫算ニ非ラサレハ之ヲ施行スルコトヲ得サレハナリ且又若
シ斯ル不幸ノ場合ニ立チ至ルトキハ帝國議會ニ於テ公然其是非曲直ヲ論議ス
ヘキヲ以テ被治者ハ其是非曲直ノ果シテ政府ニアルヤ將タ又帝國議會ニアル
ヤヲ認定シ得ヘキナリ故ニ容易ノ事コトハ此極端ノ不幸ニ遭遇スルコトナカ
ルヘシ要スルニ帝國議會ニ屬スル豫算議定ノ權ハ充分ナラスト雖トモ政府カ
豫算ヲ施行スルノ前ニハ必ス帝國議會ノ議ニ附シ之ヲ辨明セサル可ラサルノ
義務アルカ故ニ被治者ニ安全ヲ與フルノ點ニ至テハ從前ノ比ニアラサルナリ
憲法制定以來我日本ノ公法上ニ生シタル最モ重大ニシテ新タル原則トモ言
フヘキハ余カ前ニ陳ヘタル二點ナルヘシト信ス憲法第一章ニ於テ既ク處ノ天
皇ノ大權トモ稱スヘキモノ例ヘハ戰宜講和ノ權條約締結權陸海軍統帥ノ權ノ
如キモノハ凡テ從前ト毫モ異ナルコトナシ行政司法ノ如キモ亦然リ然レト雖

トモ司法裁判ト行政裁判トノ區別ヲ立テタル如キハ是レ憲法ニ於テ新正ナル
ル原則ナリ又憲法ヲ以テ裁判官ノ修身官タルコトヲ確認シタル如キハ國民ニ
一層ノ安全ヲ與ヘタモノナリ此外種々ノ新原則アリト雖トモ要スルニ余カ前
ニ陳ヘタル大原則ノ結果ニ過キサルナリ帝國議會ニ關スル諸規則ノ如ク又ハ
日本臣民ノ權利義務ニ關スルノ原則ノ如キハ全ク國民ノ一部分ニ立法ニ參與
スルノ權ヲ與ヘタル結果ニ過キサルナリ然リト雖トモ憲法ヲ以テ臣民ノ權利
ヲ保護シタルハ從前ニ比スレハ一大進歩ト云ハサル可ラス如何ントナレハ憲
法第二章ニ規定スル原則ノ如キハ憲法中ニ於テ法律ヲ以テ規定スヘキ事項ナ
リト定メタルヲ以テ良シ現在此點ニ付キ行ハル、法律ハ不充分ナルモノニモ
セヨ勅令ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得ス而シテ新ナル法律ヲ制定セント欲
スルトキハ必ス帝國議會ノ協賛ヲ經サル可ラサルヲ以テ政府擅ニ之ヲ變更シ
得サルハ論ヲ竣タサルナリ
憲法制定前ト憲法制定後トノ間ニ生シタル最モ重大ノ差異ハ前ニ述ヘタルカ
如ク第一立法權ノ一部分ヲ帝國議會ニ附與シタルコト第二歳出入豫算ノ議定

ルン等ノ如キ即チ是レナリ此等ノ國ニ於テハ一定ノ憲法アリテ君主ノ權力ヲ制限シ多少國民ニ參政ノ權ヲ與フルト雖トモ君主ハ國民ニ對シ責任ヲ有セス國務大臣モ君主ニ對シテハ責任アリト雖トモ國民ニ對シテハ責任ナシ議院ヲ設ケテ國民ノ代議者ニ國事ヲ議セシムルハ自由國ニ似タリト雖トモ君主ノ責任ナクシテ大臣ノ國民ニ對シテ無責任ナルハ大ニ獨裁國ニ似タリ故ニ是等ノ國ハ自由國ニモアラス亦獨裁國ニモアラス一種特別ノ政體ナリ是等ノ國ニ於テハ憲法ヲ以テ多少主權ノ實行ヲ制限シタルモノナルカ故ニ立憲政體ノ國ニハ相違ナシト雖トモ余ハ是等ノ國ヲ稱シテ未タ完全ナル立憲政體ノ國ト云フヲ得ス余ノ確信スル所ヲ以テスレハ立君國ニモセヨ又共和國ニモセヨ爲政ノ目的ハ國民ノ安全幸福ヲ謀ルニアリ夫レ之ヲ謀ラント欲セハ成ルヘク國民ニ満足ヲ與フヘキ政治ヲ布カサル可ラス國民ヲ満足セシメント欲セハ爲政ノ實權ヲ有スル者國民ニ對シ責任ヲ負ハサル可ラス余ノ所謂完全ナル立憲政體トハ治者ノ責任ヲ確定シ被治者ニ充分ノ安全ヲ與フルノ政體ヲ云フナリ我憲法ハ此點ニ付キ果シテ完全ナル原則ヲ規定シタリト云フ可キカ甚ク疑ナ

キ能ハス我憲法ハ其第五十五條ニ於テ國務大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任スルトハ規定シタリト雖トモ此責任ハ是レ君主ニ對スルノ責任ニシテ國民ニ對スルノ責任ニアラサルナリ我憲法ノ起草者ハ君主獨裁ノ政體ヨリ立憲政體ニ移ルニ際シ餘リ急速ニ充分ノ自由ヲ人民ニ與ヘテハ却テ國是ニ害アリトノ考ヘヨリ斯クハ制定シタルモノナラン我國今日ノ有様ニテハ此說或ハ其當ヲ得タルヤモ知ル可ラス余等ノ如キ短才淺學無經驗ノ青年輩豈ニ際ヲ容ルヘキノ限ニアランヤ然リト雖トモ學理上及ヒ歐洲諸國ノ經驗ニ依レハ國民ニ對シ責任アル内閣ヲ組成スルニアラサレハ完全ノ自由政體ヲ得可ラス然ルニ我憲法ハ未タ之ヲ制定セス故ニ余ハ我憲法ヲ以テ完全ナル立憲政體ヲ組成セタルモノト云フヲ得サルナリ然リト雖トモ之ヲ從前ノ君主獨裁ノ政體ニ比スレハ霄壤ノ差アリト云フ可キナリ

憲法制定前ノ日本帝國ト憲法制定後ノ日本帝國トノ間ニ如何ナル差異ヲ生シタルヤヲ述ヘ并セテ憲法ノ精神ハ如何ナル點ニアルヤヲ論究スルハ憲法ヲ研究セント欲スル諸君ノ爲メニ極メテ必用ナリト信シタルヲ以テ聊カ卑見ヲ開

陳シタリ請フ是ヨリ本論ニ入り先ッ第一章ニ於テ主權ノ事ヲ詳論セシ

主權

第一章 主權

諸君ヨ余ハ總論ニ於テ主權ノ定義ヲ説キ主權トハ社會ヲ支配スル最上命令權ナリト云ヘリ人間ノ相集リテ一ノ社會ヲ組織スルヤ必ス此最上命令權ヲ有スル者アラサルハナシ今日世界各國ニ行ハルハ國體ヲ見ルニ或ハ主權全ク君主ニ屬スルモノアリ魯西亞土耳其支那等ノ如キ即チ是ナリ或ハ全ク人民ニ屬スルモノアリ亞米利加ニアリテハ南北ノ諸共和國歐洲ニアリテハ佛國瑞西ノ如キ國即チ是ナリ或ハ君民共有ノ國アリ英國白耳義西班牙伊太利等ノ如キ即チ是ナリ又主權ヲ享有スルモノハ君主ニシテ之ヲ實行スルニ當リ多少ノ制限ヲ設ケタルモノアリ「プロイセン」「バイルン」「サクソン」ノ如キ即チ是ナリ我帝國ノ如キモ即チ此最後ノ部類ニ屬スヘキモノト云フ可キカ右ニ述フル如ク今日行ハルハ實際ノ有様ヲ見ル時ハ主權ノ所在ハ實ニ種々ナリト云フヘシ然リト雖トモ學理上ヨリ之ヲ論スルトキハ主權ナルモノハ抑モ誰レノ手ニ屬スヘキモノ

ナルヤ此點ニ付テハ古來學者ノ説甚タ多シ今其最ナルモノヲ左ニ述ヘシ

第一 主權ハ神ニ屬スヘキモノナルヲ以テ此世ニアリテハ君主ニアリ如何シトナレハ君主ハ此世ニ於テ神ヲ代表スルモノナレハナリ

主權神ニアリトノ説ハ其根原甚タ古シ往古印度人「ブル」人之ヲ唱ヘ又希臘羅馬等ニ於テモ此説ヲ主張セリ耶蘇教ノ現ハレシ當初ニ於テハ政教ノ分離ヲ唱ヘタリト雖トモ其盛ナルニ及ヒ政教分離ノ説ヲ捨テ漸々宗教ノ勢力ヲ政治上ニ及ホシ法王ノ權ヲ以テ君主ノ權ヲ凌駕スルニ至レリ是ニ於テカ其説ニ派ニ分レタリ第一派ノ唱フル所ニ依レハ法王ハ神ノ代表者ナルヲ以テ君主ト雖トモ之ニ從ハサル可ラスト第二派ノ唱フル所ニヨレハ主權ハ神ニアリ然リト雖トモ爲政ノ權ニ付テハ君主之ヲ代表スト云フニアリ此説佛國ニ於テハ十六七世紀ノ間ニ勝ヲ制シ遂ニ佛國ヲシテ君主獨裁タルニ至ラシタリ近世ニ至リテモ尙此説ヲ唱ヘタルモノナキニシモアラサレトモ今日ニ至リテハ早ヤ此説ヲ唱フルモノナシト云フテ可ナリ

第二 主權ハ權力ヲ有スル者之ヲ掌握スヘキモノナリ

(憲法)

此説ニ依レハカノ強キ者カ何時モ主權ヲ握リテ差支ナシ又之ヲ握ラサルヘカ
 ラスト云フコアリ此説ハ獨逸ニ行ハル、哲學上ノ主義ヨリ出テタル者ニシテ
 今世紀ノ初メニ當リヘーゲルノ輩之ヲ唱ヘ今日ニアリテハイエーリングナト
 申ス有名ノ學者亦之ヲ唱フ今其説ク所ヲ聞クニ人間社會ハ權力ノ爭鬪ヨリ成
 リ立ツモノナルヲ以テ權力ノ最モ強キ者之ヲ制御セサル可ラスト言フニアリ
 第三 社會ノ公益ト一箇人ノ利益トハ同シキモノナリ何ントナレハ社會ノ公
 益ハ一ケ人ノ利益ノ集合シタルモノナレハナリ故ニ社會公衆ノ利益ニ
 關スル政務ヲ處分スルノ權ハ社會公衆ニ屬セサル可ラス

此説ハ英國ノ學者ベンザム初テ之ヲ主張シ近世ニ至リミルスペンサーノ輩亦
 之ヲ唱ヘ其説ク所大同小異アリト雖トモ要スルニ皆其根據トスル所ハ實利主
 義ナリ又其主義ヲ實行スル政務機關ノ組織ニ至リテハ議院制度ヲ以テ最モ善
 長ナルモノナリトナス

第四説ハ佛國ノ學者カ主唱シタルモノニシテ此説亦甲乙二派ニ分レ甲ハ即チ
 ルーソーノ民約乙ハ即チギゾーロワイエーニコラールパンジャマンコン

スタン等ノ主權在正理ノ説是レナリ甲ルーソーノ説ニヨレハ人間ナル
 モノハ天然孤立スルノ性アルヲ以テ人間社會ノ根原ニ遡ルトキハ未ダ
 相集合シテ一ノ社會ヲ爲サス其後世ニ至リ社會ヲ組織スルヤ一ノ契約
 ナリ結ヒ人間固有ノ權利ヲ以テ之ヲ社會ニ分與シタリ故ニ社會ヲ支配ス
 ル主權ナルモノハ素ヨリ其社會ヲ組織スル人間ノ全體ニ屬スヘキモノ
 ナリ

是レ佛國ニ於テ千七百八十九年ノ革命ノ頃ニ行ハレタル主權在民論ノ嚆矢ニ
 シテ革命ノ一大原因トナリタルモノナリ

ルーソーノ説ニヨレハ主權ハ人民ニアリ故ニ人民ハ直接ニ之ヲ實行セサル可
 ラス主權ハ決シテ制限スヘキモノニアラス又ハ之ヲ代理者ニ委任スルヲ得ス
 ト云フ故ニルーソーハ代議政體ヲ以テ善良ナル爲政ノ方法トナサス其説ク所
 ニ從ヘハ人民ハ自ら直接ニ萬端ノ政務ヲ處分セサル可ラサルナリ是レ實ニ言
 フヘクシテ行フ可ラサルノ議論ト評セサルヲ得ス

獨乙有名ノ哲學者カントモ亦民約説ヲ主張セリ然リト雖トモ其立論少シク

一ツト異ナリル一ツトハ人間社會ノ初メニアタリテハ各孤立シ居リシ者ノ如クニ説ケリト雖トモカントハ民約ハ歴史上ノ事實ニアラスト雖トモ正理ニ協ヒタルモノナリト説キ又民約ノ目的トスル所ハ人民ノ權利ヲ保護スルニアリト論セリ政體上ノ組織ノ如キモル一ツトノ説トハ大ニ異ナリル一ツトハ代議政體ヲ容レスト雖トモカントハ之ヲ主張セリ近頃ノ學者ニモ亦民約論ヲ主張シタルモノアリ現今佛國ノ哲學社會ニテ其名ヲ得タルフイエー氏ノ如キ即チ是ナリ

乙ギグト、ロワイエーコラール等ノ説ハ全クル一ツトノ説ト異ナリ主權ハ正理ノアル所ニ歸スヘキモノニシテ決テ無制限ノモノニアラスト云フニアリ

此説ノ論據トスル所ヲ聞クニ人間ノ相集リテ社會ヲ爲スハ是レ全ク人間ニ必用ニシテ缺ク可ラサルモノナリ然リト雖トモ社會ノ存在スル所以ノモノハ決シテ社會其物ノ爲メナラス單ク人間ノ幸福ヲ謀ラシメテ爲メトシテ換言セハ人間ハ社會ノ爲メニ存在スルモノニアラス社會が即チ人間ノ爲メニ存在スルモノ

ナリ隨テ社會ヲ支配スル主權モ亦社會ノ存在スル目的ヲ以テ其分界トナサハルヘカラス故ニ第一社會ノ存在ハ人間ニ必用ナルヲ以テ社會ヲ維持スルニ必用ナル處分ハ主權者ノ權内ニアリ第二社會ノ維持ニ必用ナルヲサレ限リハ各個人ノ自由ニ放任セサル可ラス主權者ニシテ若シ此二點ヲ以テ其權限ノ分界トナス時ハ是レ正理ニ協ヒタルモノト云フ可キナリ此派ノ學者ハ主權ハ豫メ誰レノ手ニ歸スヘキモノト云ハスシテ主權ハ正理ト認ムル所ノ事ヲ爲スモノニ歸セサル可ラスト云フニアリ是レ此派ヲ名ケテ正理論者ト云フ所以ナリ此説ヲ主張スル論者ガ其持論ヲ達スルニ最モ適當ナル政體ト認ムル所ノモノハ議院政治ナリ

諸君ヨ余カ前ニ陳ヘタル所ハ歐洲ノ碩儒名家カ主張シタルモノナリ余モ亦此問題ニ付キ卑見ナキニ非スト雖トモ研究未タ足ラサルヲ以テ暫ク歐洲諸學者ノ説ヲ陳ヘ以テ諸君ノ參考ニ供スル而已
學理上ノ議論ハ右ニ陳ヘタル如クナリト雖トモ帝國憲法ヲ論スルニ至リテハ毫モ疑點ノ生スヘキナシ總論ニ於テ既ニ陳ヘタル通り日本帝國ノ主權ハ天皇

ニアリ(憲法第一條第四條第一條ニ於テ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治
 スト云ヒ第四條ニ於テ天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ
 依リ之ヲ行フトアルハ是レ即チ主權ハ天皇ニアリテ天皇ハ此憲法ニ從テ其大
 權ヲ執行スルトノ事ヲ規定シタルモノナリ又主權ノ受授ハ我憲法ニ於テ之ヲ
 如何ニ規定シタルヤト云フニ其第二條ニ皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニヨリ皇
 男子孫之ヲ繼承ストアリ此三ヶ條ニ於テ我日本帝國ハ立憲君主國ニシテ君主
 ノ大權ハ皇男子孫ニ傳フルコトヲ規定シタルモノナリ余ハ此章ヲ二節ニ分チ
 第壹節ニ於テ日本帝國ノ國體ヲ論シ第二節ニ於テ主權ノ實行ヲ論スヘシ

國體

第一節 國體

諸君ヨ國體トカ政體トカ申ス語ハ世間往々之ヲ用ニルコトアリト雖トモ余ハ
 未タ此二字ノ定義ヲ見タルコトナシ或ハ此二字ヲ以テ同様ノ意味ニ用ルモノ
 アリ或ハ別々ノ意味ヲ有スルモノ入如ク是レ用ニルモノ又ハ余甚ク感テ諸君モ
 亦同感ナラン抑モ事物ヲ説クニ當リ用語ハ意義ヲ詳カニセサル時ハ説ク所甚

ク明瞭ナラス故ニ世ノ學者ハ此二字ヲ如何様ニ解スルヤヲ問ハス余ハ此講義
 中ニ於テ此二字ヲ如何様ノ意味ニ用ユヘシトノ事ヲ一言シ置クヘシ余ノ見ル
 所ニヨレハ國體トハ主權ノ所在ヲ指スモノニシテ政體トハ政治ノ方法ヲ指ス
 モノナリ例ハ君主國共和國ト云フカ如キハ是レ其國々ノ國體ナリ君主國トハ
 主權君主ニアルノ國ヲ云ヒ共和國トハ主權國民ニアルノ國ヲ云フ又主權ノ所
 在如何ニ拘ハラス施政ノ方法ニ至リテハ種々アリ君主國ニ於テモ或ハ君主
 獨裁ノ制度アリ或ハ國民ニ多少自由ヲ與フルノ制度アリ共和國ニ於テモ或ハ
 議院ニ充分ノ權力ヲ與フルノ制度アリ或ハ國民ニ於テ直接ニ主權ノ一部分ヲ
 實行スルノ制度アリ是レ即チ其國々ノ政體ナリ今其實例ヲ歐洲諸國ニ採レハ
 魯西亞普魯西ノ如キハ其國體ニ至リテハ等シク君主國ナリト雖トモ其政體ニ
 至リテハ一ハ獨裁政體ニシテ一ハ立憲政體ナリ又佛國ノ如キ瑞西ノ如キハ其
 國體ハ等シク共和國ナリト雖トモ其政體ニ至リテハ一ハ議院制ヲ用ヒ一ハ
 國民自ラ主權ノ壹部分ヲ實行スルノ政體ヲ用ユ今述ヘタル所ヲ以テ諸君ハ國
 體ト政體トハ如何ナル性質ノモノナルヤヲ了知シタルナラン前ニモ申セシ如

ク世ノ學者ハ此二字ヲ如何ニ解スルヤヲ知ラス然リト雖トモ余ハ右ニ述ヘタル意味ニ解スヘキヲ以テ諸君モ亦此講義中ニ於テハソノ意味ニ御了解アリタシ
國體ト政體トハ前ニ述ヘタル如シ然ラハ我日本ノ國體我日本ノ政體ハ如何ナルモノナルヤ

帝國憲法第一條ヨリ第四條迄ニ於テ規定シタル所ニ依レハ我國體ハ君主國ニシテ神聖侵ス可ラサルノ君主皇位ニアリ皇位ハ皇男子孫之ヲ繼承シ其政體ハ即チ立憲政體ナリ請フ是ヨリ其意義ヲ詳ニセン

第一我日本帝國ハ君主國ナリ

我憲法ニ於テハ君主ニ屬スルノ大權即チ統治權ナル者ヲ活用スルニ至リテハ多少ノ制限ヲ設ケタリト雖トモ主權其物ハ至リ之ヲ天皇ニ歸シタリ是即チ憲法第一條ニ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治スアル所以ナリ
我國ニ於テ統治權ノ君主ニ屬スルハ建國以來ノ事實ナリト雖トモ我憲法ハ猶之ヲ確認シ徹頭徹尾此大原則ヲ以テ貫キタリト謂フベシ我憲法ノ精神ハ君主

ヲ以テ國家ノ主腦トシ諸權力ノ淵源トナスニアリト云フテ
例ヲ擧クレハ憲法ヲ以テ制限ヲ設ケタル立法權ト雖トモ全ク之ヲ帝國議會ニ附與シタルニアラス帝國議會ハ法律案ヲ議決スルノ權アリト雖トモ己レ一個ノ力ヲ以テ法律ヲ作ルノ權ナシ如何ントナレハ其議決シタル法律案ト雖トモ君主ノ裁可ヲ得サレハ法律トナルヲ得サレハナリ行政權ニ至リテハ素ヨリ然リ天皇ハ行政各部ノ官制ヲ設ケ文武官ノ俸給ヲ定メ及ヒ之ヲ任免スルノ權アルハ勿論宜戰講和ノ權陸海軍統帥ノ權等一トシテ之ヲ總攬セサルハナシ
余ハ主權ヲ解シテ最上命令權ナリト云ヘリ既ニ命令權ト云フ以上ハ其命令ヲ受ケルモノト其命令ノ及フ所トナカル可ラス日本帝國ハ即チ是ナリ日本帝國トハ日本ノ臣民ト日本ノ國土トチ合稱シタルモノナリ君主ニ屬スルノ統治權ハ即チ此二者ニ及フ者トス日本臣民ノ日本國內ニアルヤ君主ノ命令ニ從ハサル可ラサルハ勿論ナリト雖トモ良シ外國ニアリテモ亦然リ唯日本臣民ノ外國ニアルヤ日本ノ主權ト外國ノ主權ト相衝突スルヲ以テ各主權ノ分界ヲ定メサル可ラス然リト雖トモ是レハ是レ國際法ニ於テ論スヘキモノナルヲ以テ今爰

ニ贅セス君主ノ統治權ハ日本ノ國土ニ觸ル、モノニ及フ故コ外國人ト雖トモ日本國內ニアル以上ハ必ス我君主ノ命ニ從ハサル可ラサルナリ然ルニ今日ノ有様ニテハ安政年間ノ條約尙未ダ存在ナルカ爲メ日本ノ主權ハ日本ニ在ル外國人ニ充分及フヲ得ス實ニ國辱ノ甚シキモノト云フ可キナリ

○第二天皇ハ神聖ニシテ侵ス可ラス

神聖ニシテ侵ス可ラストハ法律ノ力カ君主ノ身體ニ及フコト能ハサルトノ意ナリ是レ君主國ニアリテハ當然ノ事ナリ如何ントナレハ君主ハ即チ主權ノ所有者ナリ主權者トハ命令ヲ下スヘキモノニシテ命令ヲ受クヘキモノニアラス命令ヲ受クヘキモノニアラサレハ法律ノ力カ及フヘキノ理ナシ故ニ天皇ニ如何ナル行爲アルト雖トモ法律ヲ以テ問フ可キノ限ニアラス

○第三皇位ハ皇男子孫之ヲ繼承ス

我國古來ノ^史史ヲ徵スルニ皇位ハ上代コアリテハ常ニ皇男子孫之ヲ繼承セリ其後推古天皇以後ニ至リ皇后皇女ニシテ位^ヲ位^ヲ即キ給ヒシコトアリ新定憲法ニ於テハ皇位ハ必ス皇男子孫ニ傳フルノ原則ヲ定メ皇室典範第一條以下ニ於テ

其意義ヲ明カニセリ其第一條ニ於テ皇位ハ男系ノ男子之ヲ繼承スト規定シタリ憲法第二條ニ於テハ單ニ皇男子孫之ヲ繼承ストアリテ皇室典範第一條ニハ男系ノ男子トアリ蓋シ憲法第二條ノミニテハ天皇ノ子孫ニシテ男子テサヘアレハ位ハ即クコトヲ得ルト解釋スルモノアルヤモ知ル可ラス如此キ間違ノ生セサル様皇室典範ニ於テハ殊更ニ男系ノ男子トシタルモノナリ故ニ^皇皇女ニ男子アリト雖トモ此皇孫ハ位ニ即クヲ得ス假令ハ天皇ノ御子ニ長子ハ女子ニシテ次子ハ男子ナリト假定セヨ此場合ニ當リ天皇ノ長子タル皇女ニ男子アリ此男子ハ天皇ノ孫ナリト雖トモ此男子ハ皇位ニ即クヲ得ス如何ントナレハ男系ノ男子ニ非ラサレハナリ此場合ニ於テハ次子ノ男子位ニ即キ給フヘシ皇室典範第二條第三條ニ於テ皇位繼承ノ順序ヲ定メタリ皇位ハ先ツ第一ニ皇長子ニ傳ヘ若シ皇長子アラサルトキハ皇長孫ニ傳ヘ皇長ノ子及ヒ其子孫皆アラサルトキハ皇次子及其子孫ニ傳フ第三條ニ子孫トアルハ子ト孫トノミコ限リ^レ言ニアラス曾孫以下皆其内ニアリ第四條ニ於テ皇位ヲ繼承スヘキ皇男子孫ハ嫡出ヲ先ニシ嫡出ノ皇男子孫在サルトキハ庶子孫皇位ヲ繼承ストノ事ヲ規

定セリ此外尙ホ皇位繼承ノ事ニ付テハ數條アリト雖トモ今茲ニ零ス

第四日本帝國ノ政體ハ立憲政體ナリ

憲法第四條ニ依レハ天皇ハ國ノ元主ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニヨリ之ヲ行フトアリ而シテ其以下ノ條文ニ於テ種々君主ノ權ヲ制限シタルモノアリ

抑モ我政體ノ立憲政體ナル所以ノモノハ新タニ憲法ヲ制定シタルカ爲メニアラス憲法ヲ制定スルト雖トモ若シ君主ノ權ヲ制限セスンハ未タ立憲政體ト云フ可ラス其然ル所以ノモノハ全ク新定憲法ヲ以テ主權ノ作用ヲ制限シタルカ爲メナリ既ニ總論ニ於テ其大意ヲ説キシ如ク君主獨裁ノ政體ト立憲政體ト相分ル、所以ノモノハ一ハ君主ノ權無限ニシテ一ハ有限ナルニアリ是レ實ニ二者ノ相分ル、要點ナリ

憲法第四條ノ末文ハ果シテ君主ノ權ヲ制限シタルヤ否ヤニ付テハ世論甚ク囂スシ然リト雖トモ世論ノ斯ク囂々タル所以ハ或ハ其論點ヲ確定セザルニ座スルナカランガ

憲法第四條ノ末文ハ果シテ君主ノ權ヲ制限シタルモノナルヤ否ヤノ論世ニ囂シクナリシハ蓋シ永ク獨乙ニ留學シテ公法學ヲ修メラレ公法學者ニ其人アリト聞ヘタル文學士穗積八束君ノ帝國憲法ノ法理世ニ出テシヨリノ事ナラン同君ノ論ハ載セテ國家學會雜誌第廿四號以下ニアリ今其立論ノ大意ヲ申サハ蓋シ左ノ點ニ過キサルヘシ

曰ク法律上所謂制限ナルモノハ必ス制裁ナカル可ラス制裁ナキ制限ハ法律上ノ制限ニアラサルナリ然ルニ天皇ハ日本帝國ノ主權者ニシテ所謂神聖ニシテ侵ス可ラサルモノナルヲ以テ君主若シ背憲ノ行爲アルトキハ之ニ加フルニ制裁ヲ以テスルノ手續ナシ制裁ヲ加フルノカナキ以上ハ制限ト稱ス可ラス故ニ憲法第四條ハ法理上決シテ天皇ノ大權ノ區域ヲ定メタルモノニアラス云々

(國家學會雜誌廿六號第二〇五、二〇六頁同第三十號四四八、四四九、四五〇)

穗積君ノ議論ハ一應尤モニ聞ユレトモ惟フニ主權ノ享有ト主權ノ實行トヲ混同シタルモノニハ非ラサルカ余ノ見ル所ヲ以テスレハ主權ノ享有ニ付キテハ

帝國憲法ハ毫モ制限ヲ設ケスト雖トモ主權ノ實行ニ至リテハ之ヲ制限セリト云ハサル可ラス請フ余カ意ノアル所ヲ詳述セン

凡ソ如何ナル權ト雖トモ其權ノ享有ト其權ノ實行トノ區別アルコトハ諸君既ニ御承知ノコトナラン權ヲ享有スルトハ權其物ヲ所有スルノ意ナリ權ノ實行トハ所有スル所ノ權ヲ働カシムルノ意ナリ例ヘハ所有權ニ付テ之ヲ論ヒンカ今爰ニ一ノ未丁年者アリテ一ノ不動產ヲ所有スルト假定スヘシ佛國ノ法律ニヨレハ未丁年者ハ已レノ所有物ヲリト雖トモ勝手ニ不動產ヲ處分スルヲ得ス例ヘハ之ヲ賣却セント欲スルトキハ法律ヲ以テ定メタル種々ノ手續ヲ履ミ後見人ニ於テ之ヲ處分セサル可ラス故ニ未丁年者ハ不動產所有權ヲ享有スト雖トモ所有權ヲ實行スルヲ得ス語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ所有權其者ハ未丁年者ニ屬スト雖トモ其權ノ實行ハ後見人ニアリ故ニ此例ニヨリテ論スルトキハ權ノ享有ハ未丁年者ニ屬シ其實行ハ後見人ニ屬スルコト云フヘキナリ

右ノ例ニ因テ權ノ享有ト權ノ實行トノ區別ハ判然シタルハ信ス今述ヘタル所ハ所有權ニ付テノコトナリト雖トモ君主ニ屬スル主權ノ如キモ亦然リ主

權ノ享有ト主權ノ實行トハ自ラ別アルモノナリ國々ノ憲法ニ從ヒ主權ノ享有ト其實行ト兩ナカラ全ク君主ニ屬スルモノアリ魯國ノ如キハ即チ是レナリ主權ノ享有ト君主ト國會トニ分ツモノアリ英國ノ如キハ即チ是レナリ皇國ノ憲法ニ於テ規定シタル所ニヨレハ主權ノ享有ハ全ク天皇ニアリ其實行ノ一部分ハ之ヲ帝國議會ニ委テタムモノナリト信ス憲法第一條ニ於テ日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治スト云ヒ其第四條ニ於テ天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬スト云ヒタルハ是レ即チ主權ハ天皇ニ於テ全ク之ヲ享有シ賜フトノ意ヲ明カニシタルモノナリ憲法第四條ノ未文ニ於テ此憲法ノ條規ニヨリ之ヲ行フト云ヒ其第五條ニ於テ天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フトアルハ是レ即チ主權ノ實行ヲ規定シタルモノニシテ立法權ヲケハ君主一己ニテ之ヲ行ハス必ス帝國議會ノ協贊ヲ以テ之ヲ行フトノ意ヲ明カニシタルモノナリ

總論ニ於テモ既ニ論シタルカ如ク憲法制定前ニアリテハ如何ナル法律如何ナル命令ト雖トモ君主ノ獨斷ヲ以テ之ヲ發シ得タルモノナリ然ルニ憲法制定以後ニアリテハ主權者ノ命令中而カモ其大部分ヲ占ムル所ノ法律ト稱スル命令

ニ至リテハ必ス帝國議會ノ協賛ヲ經サレハ之ヲ發スルヲ得ス是レ余カ憲法ヲ以テ主權ノ實行ヲ制限シタリト云フ所以ナリ

右ニ論シタル所ヨレハ主權ノ本體即チ主權其者ハ全ク天皇ニ屬シ英國ナトノ如ク主權其モノノ一部分ヲ國會ニ分與シタルモノニアラサルナリ穂積君カ我憲法ハ天皇大權ノ區域ヲ定メタルモノニアラスト云ハレタルハ即チ日本帝國ノ主權ハ其全部ヲ以テ天皇ノ享有ニ歸シタルトノ意ナレハ余敢テ異議ナシ然リト雖トモ若シ主權ノ實行ニ於テ尙且ツ制限ナシトノ意ナレハ余ハ其論ニ服スル能ハサルナリ

穂積君ノ說ニ依レハ法律上所謂制限ナルモノハ必ス制裁ナカル可ラスト是レ實ニ尤モ至極ノ論ナリ制裁ナキノ制限ハ眞ノ制限ニアラサルナリ

然リト雖トモ余カ所謂主權實行ノ制限ニハ果シテ制裁ナシト云フ可キカ法律上所謂制裁ナルモノハ抑モ如何ナルモノヤ蓋シ主權者カ一ノ命令ヲ下シ其命令ニ背ク者アルトキハ或ハ之ニ背キタル者ヲ罰シ或ハソノ行爲ヲ無効ニスルコト即チ之ナリ今一二ノ例ヲ擧ケンニ立法者天下ニ命令シテ人ヲ殺スヘカラス

ト云ヒ若殺ス者アルトキハ何々ノ刑ニ處スト命シタルト假定スヘシ又民事ニ關シタル例ヲ擧クレハ有効ナル契約ヲ結ブニハ斯々ノ要素ヲ具備セサルヘカラス若シ其一ヲ缺クトキハ契約ハ無効ナリト命令シタリト假定スヘシ此二ツノ場合ニ於テ法律上所謂制裁ナルモノハ何ソヤ蓋シ其命令ニ背キタル者ヲ刑ニ處スルコト及ヒ命令ニ背キテ結ヒタル契約ヲ無効ニスルコトナルヘシ此レ法律上ノ所謂制裁ナルモノナリ猶最モ了解シ易キ一例ヲ擧レハ佛國民法人事篇中婚姻ノ部ヲ研究シタルノ諸君ハ御承知ナランカ佛國ノ婚姻法ハ誠ニ込ミ入りタルモノニテ婚姻ニ種々ノ禁制アリ其禁制中或ハ制裁ヲ附シタルアリ或ハ制裁ヲ附セサルアリ例ヘハ佛法ニヨレハ既ニ一妻ヲ有スル者ハ重婚スルヲ許サス若シ之ヲ爲ストキハ第二ノ婚姻ハ無効ナリ重婚ヲシテハナラストノ禁制ハ即チ制裁アル禁制ナリ如何ントナレハ若シ此禁制ヲ犯ストキハ其婚姻ハ無効ナレハナリ又夫ヲ失ヒタル妻ハ夫ノ死去後十ヶ月間ハ結婚スルヲ得ストノ禁制アリト雖トモ若シ此禁制ヲ犯シ結婚シタル者アルトキハ法律ハ其結婚ヲ以テ無効トナサス是レ即チ制裁ナキ禁制ナリ如何トナレハ此禁制ヲ犯スト

雖トモ結婚ハ依然トシテ有効ナレハナリ是レ實ニ制裁ノ有無ヲ識別スルニ最モ見易キ例ナリ法律上ノ制裁ナルモノハ蓋シ右ニ述タルカ如キモノナリ去レハ我憲法ヲ以テ規定シタル主權實行ノ制限ハ果シテ制裁ナキカ余ハ制裁アリト信スルモノナリ請フ其理由ヲ陳ヘン

立憲制君主國ノ國會ハ抑モ如何ナルモノヤ主權者諮問ノ府タルニ過キサカ余ハ決シテ其然ラサルヲ信スルナリ穂積君モ亦余ト同説ニシテ(國家學會雜誌第廿四號)五〇主權者カ法律案ヲ國會ノ議決ニ附スルハ道德上ノ念ニアラス政治上ノ便宜ニアラス法理上ノ必用ナリ然ラハ國會ノ議ヲ經サル法律案ハ法律トナルコトヲ得サルナリト云ハレタリ日本帝國ノ憲法發布以來ハ立憲制君主國タルコトモ亦同君ノ認メラレタル所ナリ(國家學會雜誌第廿四號一〇六)我日本帝國ハ立憲制君主國ニシテ法律案ハ凡テ帝國議會ノ議ニ附シ其議決ヲ經サレハ法律トナルヲ得サルトスレハ之レ所謂法律上ノ制裁ニアラスシテ何ソヤ

前ニ詳論シタルカ如ク法律上ノ制裁トハ立法者カ命令ヲ下シ其命令ニ背キタル者ハ或ハ之ヲ罰シ或ハ其所爲ヲ無効ニスルヲ云フモノナリ然ルニ我憲法ニ

於テハ法律ハ必ス帝國議會ノ協贊ヲ經サル可ラスト規定シタリ故ニ帝國議會ノ協贊ヲ經サルノ法律案ハ法律トナルヲ得ス穂積君モ亦憲法ニ衝突スル法律命令ハ存シ得ストノ意アリト云ハレタリ(國家學會雜誌第廿六號二〇五)帝國議會ノ協贊ナキ法律案ハ法律トナルヲ得ストスル以上ハ是レ即チ我憲法ニ於テ主權實行ノ制限ニ附シタルノ制裁ナリト云ハサル可ラス如何ントナレハ若シ帝國議會ノ協贊ヲ經スシテ法律ヲ發スルトキハ其法律ハ無効ナレハナリ帝國議會ノ協贊ヲ經サル法律案モ猶法律トナルヲ得ルトノ事ヲ證明シ得ハ立法權ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ之ヲ行フトノ原則ニ制裁ナシト云フヲ得ヘシト雖トモ之ヲ證明シ得サル間ハ制裁ナシト云フヲ得サルナリ

穂積君ノ論ニ因レハ主權者ニ背憲ノ行為アルトキハ之ニ制裁ヲ加フルノ手續ナシ故ニ主權者ノ權力無制限ナリト論者或ハ法律上ノ制裁ト其制裁ヲ實行スルノ機關トヲ混シタルニハアラサルカ通常法律ヲ以テ定メタル制裁ハ之ヲ實行スルノ機關アリ裁判所即チ是ナリ法律ヲ以テ斯々ノコトハ爲ス可ラス之ヲ爲シタル者ハ斯々ノ刑ニ處スヘシト定メタルトキ若シ法律ニ背キタル者

ハ裁判所ニ於テ果シテ法律ニ背キタルヤ否ヤヲ判定シ背キタリト認ムルトキハ之ヲ刑ニ處ス斯々ノコトハ爲スヘカラストノ命令ハ即チ人々ノ超ヘ得ヘカラサル制限ニシテ斯々ノ刑ニ處スルト云フハ之法律上ノ制裁ナリ然リ而シテ果シテ法律ニ背キタルヤ否ヤヲ判定スルノ裁判所ハ即チ其制裁ヲ實行スルノ機關ナリ故ニ法律上ノ制裁其制裁ヲ實地ニ行フノ機關トヲ混同ス可ラス

通常ノ法律ニハ何レノ國ト雖トモ大概制裁アリテ又其制裁ヲ實地ニ行フヘキ機關アリ憲法ニ於テ定メタル原則ニハ制裁ハアリト雖トモ往々其制裁ヲ實地ニ行フノ機關ナキコトアリ例ヘハ憲法ヲ以テ國務大臣ノ責任アルコトハ大概何レノ國ト雖トモ之ヲ規定ス然リト雖トモ國務大臣ニ誥責ス可キノ事跡アルトキハ如何ニシテ其責任アルノ實ヲ表彰ス可キヤニ至リテ之ヲ規定セサルコト多シ我憲法ノ如キモ現ニ然リ又國會及ヒ政府ニ於テ違憲ノ法律ヲ作りタルトキハ其法律ノ果シテ違憲ナルヤ否ヤヲ判定スヘキ機關ヲ有スルノ國ハ殆ト稀レナリ余ノ知ル所ヲ以テスレハ獨リ北米合衆國アルノミ合衆國ニ於テハ國會ニテ議決シタル法律ノ果シテ憲法ニ違フヤ否ヤハ高等裁判所ニ於テ之ヲ判

定スルノ權アリ右ニ陳タル如ク法律上ノ制裁ハアリト雖モ其制裁ヲ實地ニ行フノ機關ナキトハ往々之レアリ然リト雖モ其機關ナキカ故ニ必シモ制裁ナシト斷定スヘカラストナルナリ各國ノ憲法ニ於テ其法則ノ制裁ヲ實地ニ行フヘキ機關ヲ設ケサル所以ノモノハ蓋シ實際其機關ナシト雖モ差シタル不都合ナキカ爲メナラン如何ントナレハ君主ニアレ臣民ニアレ背憲ノ行爲アルトハ通常ナキコトト假定シテ可ナルモノナレハナリ若シ背憲ノ行爲アレハ是レ既ニ憲法ヲ以テ論スヘキノ時ニ非ラサルナリ之レ國家擾亂ノ時ナリ所謂暴ヲ以テ暴ニ易フルノ時ナリ斯ル場合ニ於テハ如何ニ善良ナル憲法アリト雖モ國家ヲ制御シ得カラサルノ時ナリ之レ即チ各國ノ憲法ニ於テ斯々ノトハ爲ス可カラズト定メテナラ制裁ヲ加フヘキ手續ヲ規定セサル所以ナラン之ニ因テ之ヲ觀レハ制裁ヲ實行スルノ機關ナキカ故ニ必スシモ君主ノ權ハ無限ナリト斷定スルヲ得サルナリ之ヲ要スルニ穂積君ト雖トモ君主ニ制裁ヲ加フヘキノ手續ナキカ故ニ我憲法ハ君主ノ權ヲ制限シタルモノニアラストハ論シラレタレトモ獨裁政体ト云ハ政体トノ相分ル、ノ要點ヲ説クニ至リテハ獨裁君主ノ權ハ無限ナリト云ハレ

リ故ニ同君ノ意中ニテモ立憲君主ノ權ハ有限ナルヲハ推シテ知ルヘシ(國家學會雜誌一〇五)然ルニ我國ノ政体モ立憲制ナルヲハ種積君モ亦之ヲ認メラレタリ(國家學會雜誌一〇六)日本帝國ヲ以テ立憲制ノ君主國ナリトスレハ君主ノ權モ亦有限ナラサル可ラサルハ論ヲ俟タサルナリ若シ有限ナラストスレハ我國ハ獨裁政体ノ國ト云ハサル可ラス憲法ヲ實施スルニ至リ誰カ日本帝國ヲ以テ獨裁政体ノ君主國ナリト云フヲ得ンヤ故ニ今余ノ見ル所ヲ略言スレハ日本帝國ノ天皇ニ屬スルノ主權其物自ラハ無限ナリト雖其主權ヲ實行スルニ至リテハ憲法ヲ以テ之ヲ制限セリト言ハサル可ラサルナリ而シテ其制限ノ區域ニ至リテハ大ニ論スヘキモノアリ余ハ後章ニ於テ之ヲ詳論スル所アルヘシ

主權ノ實行

第二節 主權ノ實行

諸君ヨ余ハ第一節ニ於テ主權ノ享有ト主權ノ實行トハ之ヲ區別セサル可ラサルルヲ説キ日本帝國ノ主權其者ハ天皇ニ於テ全ク之ヲ享有シ給ヒ其實行ニ至リテハ憲法ヲ以テ多少之ヲ制限セタリト論シタリ此點ニ付キテハ諸君ノ胸中既

ニ一點ノ疑ヒナキヲ信ス余ハ之ヨリ第二節ニ入り帝國憲法ハ如何ニ主權ノ實行ヲ規定シタルヤヲ詳論セント欲ス然リト雖本論ニ入ルノ前ニ憲法學中ニ於テ有名ナル權力分立ノ問題ニ付キ聊カ卑見ヲ陳述セント欲ス如何トナレハ此問題タルヤ余カ本節ニ於テ論セント欲スル所ト大ナル關係ヲ有シ立憲國ノ制度ヲ研究セントスルニハ最モ必要ナリト信スレハナリ

現今歐米諸國ニ於テ自由制度ヲ主張スル論者ノ説ニ由レハ國家ヲ統御スルノ大權即チ主權ナルモノハ統一ナラサル可ラスト雖此大權ヲ行フニ當リテハ之ヲ立法行政ノ二者ニ大別シ各其分界ヲ定メ之ヲ獨立セシメサル可ラス如何トナレハ此二權ヲ以テ主權者ノ一手ニ皈スルトキハ主權ノ君主ニ在ルトハ民ニ在ルトヲ問ハス必ス壓制政治ヲ行フニ至ルハ勢ヒ免カル可ラサレハナリ權力ヲ有スルモノニシテ他ニ之ヲ制限スル者ナキトキハ其權力ヲ濫用スルニ至ルハ是レ人間ノ常ナリ故ニ一人ノ君主ニアレ又ハ數人ノ集合体ニアレ無限ノ權力ヲ有スルトキハ必ス其權力ヲ濫用ス是レ古今ノ歴史ニ徴シテ明カナル事實ナリ之ヲ以テ自由制度ヲ布キ國民ノ幸福ヲ謀ラント欲セハ立法行政ノ二大權ヲ分

立セシメ以テ其平衡ヲ保タシメサル可ラサルナリ是レ即チ學者ノ所謂權力分立論ナルモノナリ權力分立論ノ世ニ公ケニナリシハ蓋シ佛國ノ碩儒モンテスキューカ千七百四十八年ニ彼ノ有名ナル萬法精理ヲ著シタルニ起因スヘシ然リト雖モモンテスキューカ主唱シタル權力分立論ト今日ノ學者カ主唱スル所ノ權力分立論トハ其目的トスル所ハ等シク自由制度ヲ確立セント欲スルニアリト雖モ其立論ノ細目ニ至リテハ大ニ異ナル所アリモンテスキューカノ説ニ依レバ國家ヲ統御スル權力ヲ行政立法司法ノ三權ニ分チ行政權ハ之ヲ君主ニ皈シ立法權ハ之ヲ國會ニ歸シ司法權ハ之ヲ人民中ヨリ撰舉シタル法官ニ皈シ此三大權ヲシテ各孤立セシメ毫モ其相干與スルヲ許サス是レモンテスキューカ主張シタル分立論ノ大意ナリ然ルニ今日ノ學者ガ主唱スル所ハ大ニ之レト異ナリ

(主權其物ハ或ハ全ク之ヲ君主ニ皈シ或ハ全ク之ヲ人民ニ皈シ或ハ之ヲ議會ニシ之ヲ實行スルニ至リテハ立法行政ノ二權ニ分チ各特殊ノ機關ヲ設キ行政ノ職務ヲ分擔セシムルト雖モ此二權ヲシテ全ク孤立セシムルニ非ラズモンテスキューカノ説ニ從ヘハ行政權ヲ掌握スル君主ハ毫モ立法ノ口ニ喙ヲ容ル

ヲ得ス法律案ヲ草シ之ヲ議定シテ法律ト爲スニ至ルマテ悉ク之ヲ國會ニ委任シ君主ハ發案ノ權モナク又議事ニ參與スルノ權モナシ國會ニ於テ議決シタル法律ヲ拒否スルノ權ヲ有スルノミ然ルニ今日ノ學說ニ從ヘハ立法ノ職務ト行政ノ職務トハ之ヲ分立セシメサル可ラスト雖モ全ク之ヲ孤立セシム可シト云フニ非ラス立法權ハ國會ニ於テ之ヲ有スト雖モ政府モ亦之レニ參與ス或ハ法律案ヲ提出シ或ハ大臣ヲシテ國會ノ議事ニ與カラシムルハ之レ則チ立法ニ參與スルモノナリ又行政權ハ政府ニ屬スト雖モ國會ハ其行爲ヲ監督シ國務大臣ノ責任ヲ確定シ以テ行政ニ參與ス要スルニ今日ノ學說ニ因レハ立法行政ノ職務ハ之ヲ分立セサル可ラスト雖モ互ニ一致協力シテ國務ヲ全フセシムルニアリ是レモンテスキューカノ分立論ト今日ノ分立論ノ相分ル、所以ナリ

司法權ヲ以テ三權ノ一ト爲スノ點ニ於テモ古今其說ヲ同フセスモンテスキューカハ司法權ヲ以テ三大權ノ一トナセリ輒今ノ學說ニ從ヘハ國家ノ大權ハ之ヲ立法行政ノ二種ニ分チ司法ヲ以テ行政ノ一部トナスモンテスキューカノ説ハ近世ニ至リテモ尙之ヲ主張スルモノアリ(司法ト行政トハ特殊ノ性質ヲ有スル

ノニシテ決シテ混同スヘキモノニ非ラス如何トナレハ司法官ハ訴訟ヲ判決スルノ權アリト雖其判決ヲ實行スルニ至リテハ之ヲ行政官ニ委ネサル可ラサレハナリ語ヲ替ヘテ之ヲ言ヘハ司法官ハ其判決ノ實行ヲ行政官ニ命令スルノ權アリテ判決實行ノ一事ニ至リテハ行政官ハ司法官ノ下ニアリト云ハサル可ラスト是レ司法權ハ行政權ト并立スヘキモノニシテ行政權ノ一部ニアラスト主張スル論者ノ根據トスル所ナリ余ハ此論ニ服スル能ハサルナリ請フ其理由ヲ述ヘン

立法權行政權トハ抑モ如何ナルモノソヤ蓋シ學理上ヨリ博ク之ヲ解スルトキハ立法權トハ主權ノ一部分ニシテ社會ヲ支配スヘキ法律命令ヲ下スノ權ナリ行政權トハ主權者カ下シタル法律命令ヲ實行シ萬般ノ政務ヲ處分スルノ權ナリ云フ國家ヲ統御スルニ必要ノ職務ハ蓋シ立法行政ノ二者ニ過キサルヘシ如何ントナレハ立法權ヲ以テ國民ノ遵守スヘキ規矩ヲ定メ行政權ヲ以テ之ニ服從セシムルヲ得レハナリ遵守スヘキノ規矩ヲ定メ國民ヲシテ之レニ服從セシムルヲ得ハ何ソ他ニ爲政ノ方法ヲ求ムルノ要アラン故ニ國家ノ職務ヲ司サトル

者ニシテ立法者ニアラサルモノハ凡テ行政ニ與ルノ有司ナリト云テ可ナリ反對論者カ司法ヲ以テ行政ノ一部ニ非ラスト主張スル所以ノモノハ司法官ガ下ス所ノ判決ヲ自ら實行セス之ヲ行政官ノ官吏ニ委任スルカ爲メナリ然リト雖モ若シ此論ヲシテ其當ヲ得タルモノトスレハ兵隊カ警察官ノ外ニハ行政官ナシト言ハサル可ラス如何トナレハ此二者ヲ措テ他ニ立法者ノ命令ヲ直接ニ實行スル者非ラサレハナリ國務大臣ノ如キ縣知事ノ如キ市町村長ノ如キハ是レ皆純然タル行政官ノ官吏ナリト雖モ決シテ直接ニ法律ノ實行ニ與カルモノニアラス唯法律ヲ實行スルニ必要ナル命令ヲ發スルノミ其命令ヲ執行スルニハ或ハ兵隊或ハ警察官ヲシテ其任ニ當ラシメサル可ラサルナリ國務大臣縣知事等ニシテ手ツカラ法律ヲ實行セサレハトテ之ヲシモ猶是行政官ニアラスト云フヲ得ヘキカ若シ斯ノ如キ說ヲ主張スルモノアラハ誰レカ其愚ヲ笑ハサラン果シテ然ラハ司法官ト雖モ法律ヲ實行スルニ至テハ毫モ他ノ行政官ノ官吏ト異ナルナリ唯其異ナルノ點ハ通常ノ行政官ニ在リテハ機ニ臨ミ變ニ應シ法律ノ範圍内ニ於テ自由ニ働作シテ政務ヲ處分スルヲ得ルト雖モ司法官ニ至リ

テハ即チ然ラス單ニ法律ヲ適用スルニ止マルヲ以テ其働作ノ區域モ亦隨テ狹隘ナリ然リト雖^レ立法者カ規定シタル法則ヲ適用シ其實行ヲ命スル點ニ於テハ毫モ他ノ行政官吏ト異ル^{トナシ}是レ余カ輓近ノ學說ト共ニ司法ヲ以テ行政ノ一部ト信スル所以ナリ

司法ハ之ヲ他ノ行政各部ニ比スレハ一種獨立ノ性質ヲ有スルカ故ニ行政トハ異種ノ權ナルカ如キ觀念ヲ生スルト雖^レ決シテ然ラス其獨立ノ性質ヲ有スル所以ノモノハ古ヨリノ經驗ニヨリ司法官ノ公平無私ナラン^ト望ム^トハ必ス獨立ノ位地ヲ與ヘサル可ラサルヲ悟リタルニ依ルモノニシテ其獨立ナルカ爲メニ權ノ性質ニ至ルマテ異種ノモノナリト云フ可ラサルナリ

モンテスキューカ佛國ニ於テ初テ主張シタル三權分立論ト近世ノ學者ガ主張スル權力分立論トハ以上述ヘタル如キ差異アリト雖^レ要スレニ其目的トズル所ハ等シク自由制度ヲ設ケ以テ國民ノ權利ヲ保護セント欲スルニ在リ

現今歐米諸國ニ行ハル、所ノ憲法ヲ見ルニ或ハモンテスキューノ說ニ從ヒ立法、行政、司法ノ三權ヲ全ク分離シタルモノアリ北米合衆國ノ如キハ即チ之レナ

リ合衆國ニ於テハ立法權ハ全ク國會ニ皈シ大頭領ハ毫モ之レニ干與スルヲ得ズ又國會ハ政府ノ行爲ニ對シテハ毫モ喙ヲ容ル、サ得ズ大頭領ハ無論國會ニ對シ責任ヲ有セサルノミナラズ大臣等ト雖^レ國會ニ對シテ責任ナシ故ニ國會ト政府トノ間ニ不和ヲ生シタル節ニハ之ヲ處分スルノ道ナシ唯々大頭領或ハ國會ノ改撰ヲ俟ツアルノミ司法權モ亦然リ合衆國ノ法官ハ人民ヨリ撰舉スルモノニシテ大頭領ト雖^レ國會ト雖^レ亦之ヲ黜陟スルヲ得ス(英佛ノ如キハ立法行政ノ二權ヲ分立スルト雖^レトモ全ク之ヲ孤立セシムルニアラス政府ハ行政事項ヲ以テ其本務トナスト雖^レ或ハ法律案ヲ起艸シ或ハ國會ノ議事ニ與リ以テ立法權ニ參與ス國會ハ立法事項ヲ以テ本務ト爲スト雖^レ政府ノ行爲ヲ監督シ責任內閣ノ制ヲ以テ行政ニ參與ス)要スルニ自由政体ノ行ハル、國ニ於テハ概シテ或ハ立法、行政、司法ノ三權ヲ分立セシメ或ハ立法、行政ノ二權ヲ分立セシムルモノナリ帝國憲法ニ於テハ如何ニ主權ノ實行ヲ規定シタルヤ帝國憲法ハ純然タル自由制度ヲ我邦ニ布カント欲シタルモノニ非ラサル^トハ

是レ余カ再三論シタル所ナリ然リト雖レ古ヨリ我邦ニ行ハル、所ノ君主獨裁ノ政体ヲ其儘ニ存在セント欲シタルニアラス其精神ハ全ク漸々自由制度ニ向ハントスルノ傾キアリ是レ亦掩フ可ラサル事實ナリ故ニ主權ノ實行ヲ規定スルニ至リテモ亦此精神ヲ貫徹シ獨裁政体ト自由政体トヲ折衷シタル原則ヲ設ケタリ獨裁政体ト自由政体トヲ折衷シタル原則トハ何ソヤ曰ク行政權ハ全部ハ君主自ラ之ヲ掌握シ立法權ハ實行ハ之ヲ君主ト帝國議會トニ分チタルト即チ是レナリ

(帝國憲法ノ規定スル所ニ依レハ行政權ハ其享有ト其實行トヲ論セス盡ク之ヲ君主ニ歸シタリ如何トナレハ憲法中之ヲ制限シタル條文ナケレハナク而シテ司法權モ其中ニアリ然リト雖レ司法權ニ限リテハ憲法第五十七條ヨリ第六十一條ニ於テ特別ノ原則ヲ設ケタリ蓋シ歐米諸國ノ學說ニ從ヒ司法權ハ行政權ノ一部ナリト雖レ之ヲ獨立セシメサレハ以テ公平無私ノ裁判ヲ得可ラストノ意ニ出テタルモノナレ立法權ハ之ヲ君主ト帝國議會トニ分テリ憲法第五條ニ於テ天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フト云ヒ其第三十七條ニ於テ法律

ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ストアリ又其第六條ニ於テ天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及ヒ執行ヲ命ストアリ是レ即チ立法權ノ實行ヲ以テ君主ト帝國議會トニ分テルモノナリ夫レ然リ故ニ法律ヲ制定セント欲セハ第一帝國議會ノ協賛ヲ經サル可ラス第二天皇ノ裁可ヲ經サル可ラス帝國議會ノ協賛ト天皇ノ裁可トハ是レ立法上缺ク可ラサルノ要素ナリ若シ其一ヲ缺クトキハ君主ノ命令ハ法律トナルヲ得サルナリ

帝國議會ノ協賛ヲ經ルトハ法律案ニ對シ議會ノ同意ヲ得ルノ意ナリ之ヲ詳言スレハ政府又ハ議會ヨリ提出シタル法律案ヲ議會ニ於テ可決スルノ意ナリ奈何ナル法律案ト雖トモ此可決ナレハ法律トナルヲ得ス天皇ノ裁可トハ帝國議會ニ於テ可決シタル法律案ニ法律ノ効力ヲ與フルノ所爲ヲ云フ故ニ如何ナル法律案ト雖トモ此裁可ナケレハ法律トナルヲ得ス

伊藤伯ノ憲法義解ニ裁可ハ以テ立法ノ事ヲ定結ストアルハ蓋シ此意ナルヘシ或ル論者ハ裁可ストハ法律ヲ作ルト云フ意ニシテ立法ト裁可トハ法律上同意ナリト説キタリト雖トモ是レ甚ク穩當ナラサルノ説ナリト信ス第二章立法ノ

事ヲ論究スルニ當リ其理山ヲ述ヘン
 以上陳ヘタル所ニ因テ立法權ノ實行ハ之ヲ君主ト帝國議會トニ分テタルコト
 ハ諸君ノ意中既ニ判然タルヘシト信ス夫レ然リ然リト雖トモ君主ト議會トニ
 於テ分擔スル立法權ナルモノハ自由政體ノ行ハル、歐米諸國ニ於テ爾ヲ所ノ
 立法權即チ *Pouvoir législatif* トハ少シク異ナル所アリ我憲法ノ所謂立法權ナル
 モノハ *P. L.* ヨリ狹隘ノ意味ヲ有スルモノナリ帝國憲法ノ規定スル所ニ從ヘ
 ハ君主ノ命令ヲ分テ法律、緊急勅令、尋常命令、三者トス法律トハ帝國議會ノ協
 贊ヲ經ルヲ要スルノ命令ヲ云ヒ緊急勅令トハ憲法ヲ以テ規定シタル或ル特別
 ノ場合ニ於テ發シ法律ニ代ルヘキ命令ヲ云フ尋常命令トハ法律ヲ變更シ得サ
 ル命令ヲ云フ尋常命令ハ一名之ヲ執行命令トモ云ヒ或ハ君主自ラ之ヲ發シ或
 ハ有司ニ命シテ之ヲ發セシムルモノニシテ即チ法律ヲ執行スル爲メニ發スル
 命令ナリ

〔執行命令權ハ通例何レノ國ト雖トモ行政權ヲ實行スル者ニ屬スルモノニシテ
 是レ當ニ然ルヘキモノナリ奈何トナレハ法律執行ノ爲メニ要スル細則ヲ規定

スルニハ行政部ノ官吏ヲ以テ最モ適任トスレハナリ〕法律及ヒ緊急勅令ノ如キ
 ハ即チ然ラス或ハ法律ト緊急勅令トノ區別ヲ設ケス爾大カラ之ヲ法律ト稱シ
 必ス國會ノ可決ヲ經サル可ラサルモノアリ英、米、佛、白等ノ如キハ即チ是レナリ
 或ハ法律ト緊急勅令トノ區別ヲ設ケルモノアリ普、澳ノ如キハ即チ是レナリ佛國
 千八百十四年ノ欽定憲法中ニモ此區別ヲ設ケタリ〔第十四條〕
 法律ト緊急勅令トノ區別ヲ設ケサル國ニ於テ立法權ハ全ク國會ニ屬スト官フ
 テ可ナリ英國ノ如ク白耳義ノ如キハ憲法上ニハ裁可ノ制アリト雖トモ有名無
 實ニシテ實際君主ニ於テ國會ニ於テ可決シタル法律案ヲ裁可セザルコトナレ
 故ニ是等ノ國ニ於テ立法權ハ國會ニ屬スルト云フモ決シテ不當ノ言ニ非ラサ
 ルナリ

法律ト緊急勅令トノ區別スルノ國ニ於テハ〔普國憲法第六十三條、澳國千八百六
 十三年十二月廿一日改正憲法第十
 條〕緊急勅令ナルモノハ國會ノ閉會中不時ノ災厄ヲ避クル爲メ必要ノ場合ニ於
 テ發スヘキモノニシテ必ス後日ニ至リ國會ノ承諾ヲ要スルモノトス夫レ然リ
 然リト雖トモ發令ノ日ヨリ其承諾ヲ得ルノ日迄ハ其國會ニ於テ之ヲ否決ス

(憲法)

ルトスルモ法律ノ効力ヲ有スルモノナルカ故ニ或ル場合ニ於テハ法律ヲ變更
 スルコトヲ得ヘシ集會結社言論等ニ關スル法律ノ如キハ殊ニ其適用多ク既ニ
 法律ヲ以テ規定シタルモノト雖トモ緊急命令ヲ以テ集會結社言論等ノ自由ヲ
 非常ニ制限スルハ決シテ無シト云フ可ラス
 果シテ然ラハ君主ニシテ緊急命令權ヲ有スルノ國ニ於テ謂フ所ノ立法權ナル
 モノハ全ク行政立法ノ二權ヲ分立スルノ國ニ於テ云フ所ノ立法權トハ其區域
 少シク異ナル所アリト言ハサルヘカヲサルナリ
 是レニ因テ之ヲ見レハ帝國憲法ニ於テ謂フ所ノ立法權ハ君主ニ屬スル命令權
 中ノ一部分ニシテ帝國議會カ有スル立法權ナルモノモ亦其一部分ニ參與スル
 ノ權ナリサレハ帝國憲法ハ主權ノ實行ヲ規定スルニ當リ權力分立ノ原則ヲ拒
 絶シタルニハ非ラスト雖トモ充分ニ之ヲ採用シタリト云フ可ラス是レ余カ我
 憲法ハ獨裁政體ト自由政體トヲ折衷シタル原則ヲ設ケタリト云フ所以ナリ
 以上陳ヘタル所ヲ以テ我憲法カ規定シタル主權實行ノ大意ハ諸君之ヲ了解セ
 ラレシナラン就テハ是ヨリ第二第三章ニ於テ立法行政ノ機關并ニ其運轉ノ有

様ヲ詳論スヘシ然リト雖トモ第二章立法權ニ論入スルノ前ニ主權者ニ屬スル
 緊急命令執行命令ノ二權ニ付聊カ所見ヲ陳ヘントス
 先ツ第一ニ我憲法ニ於テ緊急命令ナル者ヲ設ケタルハ抑モ如何ナル理由ニ原
 因スルモノナルヤ

憲法第四十三條ニ依レハ帝國議會ノ會期ハ通例之ヲ三ヶ月トス實際果シテ三
 ケ月ニテ閉會ニ至ルヤ否ヤハ今日ヨリ豫言シ難シ恐ラクハ之ヲ延長スルコト
 アルヘシト思ハルレトモ兎ニ角憲法ノ文面上ヨリ論スルトキハ一ヶ年間ノ中
 ニ九ヶ月ハ閉會ナリサレハ此九ヶ月間ニハ如何ナル事變ノ生スヘキヤモ知ル
 可ラス憲法第八條ニ於テ規定シタル緊急命令ハ即チ其事變ニ應ヒンカ爲メニ
 設ケタルモノナリ憲法ノ精神ハ夫レ此ノ如シ故ニ實際之ヲ濫用セサル限リハ
 敢テ否議スヘキモノニアラスト雖トモ古來歐米ノ歴史ニ徴スルトキハ往々國
 民ノ權利ヲ害シ遂ニ君主ヲシテ其位ヲ失ハシメタルコトアリ千八百三十年ニ
 佛王シヤル、第十世カ位ヨリ墜サレタルハ全ク當時ノ憲法第十四條ニ國家ノ
 安寧ヲ保持スル爲メ必要ノ命令ヲ發スルヲ得ルトノ條文アリシニ據リ國民ノ

權利ヲ害スルノ勅令ヲ發シタルニ因ル此ノ如ク濫用ノ危險アルカ爲メニ自由政體ヲ實行スルノ君主國ニ於テハ緊急命令ノ設ケナシ千八百三十年ノ佛國憲法ニハ之ヲ刪除シ現ニ英國ノ如ク自耳義ノ如キ國ニ於テモ亦緊急命令ノ制ナシ此等ノ國ニ於テハ緊急ノ場合ニハ政府ニ於テ相當ノ處分ヲ爲シ後日ニ至リ議院ノ議決ニ附シ若シ議院ニ於テ否決スルトキハ內閣ハ其職ヲ辭スルモノトス

我憲法ハ何故ニ緊急命令ナルモノヲ設ケタルヤ又之ヲ設クルノ可否如何ニ付テハ前段既ニ歐米ノ實例ヲ舉ケ之ヲ論究シタリ以下緊急命令ニ關スル第二問即チ緊急命令ナルモノハ抑モ如何ナルモノナルヤヲ論ス可シ
緊急命令ノ問題タル憲法中ニ於テハ隨分困難ナル問題ニシテ他日政府ト議會トノ間ニ悶着ノ生ス可キヤモ計リ難キ點ナレハ國民タルモノハ宜シク之ヲ研究シ置カサル可ラス伊藤伯モ其憲法義解ニ云ハレタル如ク若シ政府ニシテ此特權ニ託シ容易ニ議會ノ公議ヲ回避スルノ方トナシ或ハ既定ノ法律ヲ破壞シ或ハ臣民ノ權利ヲ束縛スル等ノ事アラハ憲法ノ條規ハ實ニ空文ニ歸スルニ至

ル可ヤ若シ此ノ如キ事アルニ至ラハ臣民タルモノハ宜シク憲法ノ範圍内ニ於テ相當ノ方策ヲ用ヒ政府ノ所爲ヲ攻撃シ之ヲ矯正スルコトヲ勉メサル可ラス然リト雖トモ我憲法ノ存在スル限リハ飽マテモ此憲法ニ遵由セサル可ラス是レ臣民タル者ノ義務ナリ決シテ牽強附會敢テ背憲ノ所爲ニアラサルモノモ強テ背憲ナリト誣ニ可カラス必ス公明正大ノ眼ヲ以テ要路者ノ所爲ヲ判定セサル可ラス

帝國憲法第八條ノ如キハ最モ疑問ノ生スヘキ條文ナルヲ以テ余ハ諸君ト共ニ詳シク本條ヲ講究セント欲スルナリ

憲法第八條ニ曰ク

天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲メ緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出ス可シ若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其効力ヲ失フコトヲ公布ス可シ

緊急命令ニ關スル條文夫レ此ノ如シ而シテ本條ニ付キ研究スヘキ要點三アリ

第一政府ニ於テ命令ヲ發スルニハ如何ナル條件ヲ要スルカ

第二緊急命令ハ如何ナル効力ヲ有スルカ

第三帝國議會ニ於テ之ヲ承諾シ又ハ之ヲ承諾セサルトキハ其效果如何

余ハ是レヨリ遂次此三問題ニ付キ所見ヲ陳ヘント欲ス

第一問政府ニ於テ緊急命令ヲ發スルニハ如何ナル條件ヲ具備セサル可ラサル

カ

緊急命令ニシテ之ヲ發シタル當時ニ有効ナランニハ第一帝國議會ノ閉會中ナルヲ要ス

第二公共ノ安全ヲ保持シ又ハ災厄ヲ避ル爲メ緊急ノ必要アルヲ要ス

第一條件緊急命令ヲ發スルニ帝國議會閉會中ナルヲ要ス余ハ既ニ前段ニ於テ

帝國憲法中緊急命令ナルモノヲ設ケタル理由ナリト信シタル所ヲ述ヘタリ其

理由トハ議會ハ毎年三ヶ月ヲ以テ定期ト爲ス然ルニ閉會中ニ如何ナル緊變ノ

生ス可キヤモ計リ難シ斯ル場合ニ於テハ帝國議會ヲ召集スルノ暇ナキヤモ知

ル可ラスサレハトテ國家急迫ノ場合ニ當リ袖手傍觀スルハ素ヨリ非ナリ故ヨ

勅令ヲ發シ臨機應變ノ處置ヲ爲サル可ラス是レ帝國憲法ニ於テ緊急命令ノ設ケアル所以ナリ果シテ然ラハ緊急命令ハ議會閉會中ナルカ故ニ止ヲ得ズ設ケタルモノナリト云ハサル可ラス是レ即チ憲法第八條ニ帝國議會閉會ノ場合云々トアリテ政府ハ議會閉會中ニアラサレハ緊急命令ヲ發スルヲ得サル所以ナリ

第二ノ條件ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲メ緊急ノ必要アルコト是レナリ

政府ニ於テ緊急命令ヲ發センニハ單ニ帝國議會ノ閉會ノミニテハ未タ足レリトセス必ス(國家急迫ノ事アリテ公共ノ安全ヲ保持スルノ必要アルカ又ハ凶荒癘疫等ノ災害ヲ避ルノ必要アルヲ要ス然リト雖トモ此第二ノ條件ハ殆ント有名無實ト云フテ可ナルヘキカ如シ如何トナレハ其緊急ノ必要アル場合ト其否ラサルトハ政府ニ於テ判定スヘキモノナルヲ以テ全ク事實上ノ問題ニ過キサルナリ彼ノ有名ナル保安條例ノ如キハ實ニ其一例ナリ)若シ當時既ニ帝國議會ノ設ケアリテ閉會中ナリセハ蓋シ緊急勅令ノ名ヲ以テ之ヲ發シタルナラン然

ルニ彼ノ條例ノ如キモ當時果シテ之ヲ發スヘキ緊急ノ場合ナリシヤ否ヤハ當局者獨リ斷定シタルモノナリ世上或ハ緊急ノ場合ナラスト信シタル者モアリシナラン併シ此要件ト雖トモ全ク無川ト云フ可キニアラス如何トナレハ當局者ハ此條文アルカ爲メニ平常無事ノ場合ニ於テヨモヤ緊急命令ヲ發スル様ノコトアラサルヘシト信セラル

或論者ハ緊急勅令ヲ以テ規定スヘキ事項ハ尋常勅令ヲ以テ規定スヘキ事項ニアラサル事ヲ要スト云ヒ恰モ緊急命令ノ一大要件ナルカ如クニ論シタリト雖トモ余ハ之ヲ以テ一ノ要件トナスコト必要ナルヲ見ス如何トナレハ我立法者ハ未タ如何ナルモノハ法律又ハ緊急勅令ヲ以テ規定シ得スト定メタルコトナシ後段ニ於テ詳論スヘキ如ク尋常命令ヲ以テ規定スヘキ事項ノ範圍ハ之ヲ制限シタリト雖トモ法律及緊急勅令ヲ以テ規定スヘキ事項ニ至ツテハ敢テ之ヲ制限セス故ニ以上陳ヘタルニケノ要件ヲ具備セハ如何ナル事項ト雖ヒ之ヲ規定スルト云テ可ナリ且又實際上斯ク解釋スルモ決テ不都合ナカルヘシ如何トナレハ當局者ハ尋常勅令ヲ以テ規定シ得ヘキ事項ヲ故サテニ後日帝國議會ノ

議ニ附セサル可ラサル緊急勅令ノ如キ面倒ノ手段ヲ取ルノ理ナケレハナリ故ニ緊急勅令ニシテ以上陳ヘタル所ノ二條件ヲ具備セルトキハ有効ノ勅令ナリ

第二問緊急勅令ノ効力如何 憲法第八條ニ依レハ緊急勅令ハ法律ニ代ルヘキ効力ヲ有スルモノナリ故ニ法律ヲ以テ規定シ得ヘキ事項ハ悉ク緊急勅令ヲ以テ規定シ得ヘシ是ヲ以テ或ハ法律ヲ變更スルコトモアルヘシ或ハ法律ヲ廢止スルコトモアルヘシ或ハ又法律ヲ以テ未タ規定セサルコトヲ規定スルコトモアルヘシ

第三問帝國議會ニ於テ緊急勅令ヲ承諾スルト之ヲ承諾セサルトハ其効果如何 緊急勅令承諾ノ事ハ憲法第八條第二項ニ於テ規定スル所ニシテ第五條ニ所謂協賛ナル語ト大同小異ナリ唯々少數其異ル所ハ協賛ハ法律ヲ作ルニ必要ニシテ之ナケレハ法律成立スルヲ得ス承諾ハ之ト異ナリ既ニ政府ニ於テ出シタル有効ノ命令ニ將來ニ効力ヲ與フル爲メノ議會ノ同意ナリ議會ノ議ニ附スル迄ハ既ニ有効ノ勅令ニ對シ將來ニ向ツテ其効力ヲ繼續セシメンカ爲メニ與フル議會ノ同意ナリ

(憲法)

議會カ緊急勅令ニ對シ與フル承諾ノ意義ソレ如此シ故ニ議會ニ於テ若シ政府カ提出シタル緊急勅令ニ對シ其承諾ヲ與ヘタルトキハ將來ニ向ツテ猶ホ其効力ヲ有スルカ故ニ他ノ法律ト毫モ異ル所ナシ唯此場合ニ於テ既ニ公布スルヲ要セスシテ其効力繼續スルモノトス

若シ議會ニ於テ承諾セサルニ於テハ如何憲法第八條第二項ニヨレハ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ緊急勅令ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシトアリ

此項ニ關シテハ種々ノ疑問ヲ生ス第一議會ニ於テ之ヲ承諾セサルニハ一定ノ理由アルヲ要スルヤ伊藤伯ノ義解ニヨレハ恰モ其理由ヲ要スルカ如クニ見ユレトモ決シテ然ラス承諾スルト承諾セサルトハ議會ノ權内ニアルコトニシテ其理由ノ是非ヲ判定スルモ亦議會ノ專斷ニアリ故ニ縱ヒ毫モ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムモ政府ハ緊急勅令ノ効力ヲ失フコトヲ公布セサル可ラス

第二議會ニ於テハ勅令ノ一部分ヲ承諾シ一部分ヲ拒ミ能フヘキヤ曰ク否ナ如何トナレハ本條ハ單ニ承諾スルト承諾セサルトヲ云テ修正ノ事ヲ云ハサレハ

ナリ

第三議會ニ於テ之ヲ承諾セサルトキ政府若シ之ヲ公布セサルカ又ハ政府次ノ會期ニ於テ之ヲ議會ニ提出セサルトキハ如何

緊急命令ヲ發シタルトキハ政府ニ於テハ必ス其次ノ會期ノ議會ニ之ヲ提出シ議會ノ承諾ヲ得サル可ラスト規定シアルコトナレハ政府ニ於テ緊急勅令ヲ發シタル節ハ通例議會ニ提出シ其承諾ヲ請求スヘシト思ハル併シ萬一之ヲ提出セサル節ハ其勅令ノ効力ハ如何伊藤伯ハ其憲法義解ニ於テ政府ハ此場合ニ於テハ憲法違反ノ責ヲ負フヘキナリト說カレタリト雖モ甚タ漠然タル解ナリト云ハサル可ラス如何トナレハ其勅令ハ將來ニ向ヒ有効ナルヤ將タ無効ナルヤノ一點ニ付テハ毫モ其意ノアル所ヲ知ルニ由ナケレハナリ如此處分ハ憲法ノ條文ニ背キタルモノナルカ故ニ憲法違反ニ相違ナシト雖トモ政府ニ於テ發シタル勅令其物ハ果シテ有効ナルヤ否ヤ

緊急勅令ヲ次ノ議會ニ提出セサルコトハ憲法違反ノ處爲ナルヲ以テ勅令其物ニ至ルマテ無効ニ歸スト論スヘキ者モアルヘシト雖トモ余ハ未タ俄カニ斯ク

ノ如ク斷定スルヲ得サレハナリ
 政府ニ於テ背憲ノ行爲アルトキハ其背憲ノ責ヲ負フヘキ無論ナリト雖トモ行
 爲其物ノ有効ナルヤ否ヤハ是レ亦一ノ別問題ナリト信ス政府ニ於テ發シタル
 勅令ハ議會ニ於テ之ヲ拒絕スル迄ハ假リニ有効ノモノト看做サル可ラス是
 レ余カ前段ニ於テ既ニ陳ヘタル所ナリ果シテ然ラハ政府ニ於テ之ヲ議會ニ提
 出セサル間ハ議會ハ之ヲ拒絕シタリト云フヲ得ス議會ニ於テ之ヲ拒絕セサル
 間ハ勢ヒ有効ナリト云ハサル可ラサルナリ
 然ラハ議會ハ自ラ勅令承諾案ヲ提出シ之ヲ議決スルヲ得ヘキカ曰ク否テ議會
 ハ政府ノ動作ヲ俟テ初テ其意見ヲ發表スルヲ得ルノミ是レ憲法第八條ノ文面
 及ヒ其精神ヨリ論シ爭フ可ラサルノ論點ナリト信スルナリ之ニ因テ之ヲ見レ
 ハ政府ニ於テ緊急勅令ヲ議會ニ提出セサルトキハ其勅令ハ止ヲ得ス有効ナリ
 ト斷定セサル可ラサルナリ然ラハ帝國議會ニ於テ政府カ提出シタル勅令ヲ承
 諾セサルトキ政府若シ將來ニ向ツテ其効力ヲ失フコトヲ公布セサル場合ニ於
 テハ如何

此場合ニ於テハ前段ノ場合トハ尙ホ一層困難ナリト雖トモ其勅令ハ均シク將
 來ニ向ツテ効力ヲ有スルモノナリト云ハサル可ラス如何トナレハ緊急勅令カ
 將來ニ向ツテ其効力ヲ失フニハ二個ノ條件アルヲ要スレハナリ第一議會ニ於
 テ政府ヨリ提出ノ勅令ヲ否決スルコト第二政府ニ於テ將來ニ向ヒ勅令ノ効力
 ヲ失フヲ公布スルコト即チ是レナリ若シ本條ノ精神ニシテ議會ノ不承諾ノミ
 チ以テ將來ニ向テ勅令ノ効力ヲ失ハシメ得ルモノトセハ宜シク政府ハ公布ス
 ヘシト云ハスシテ若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ將來ニ向テ其効力ヲ失フ
 ト云フヘキナリ然ルニ其之ヲ云スシテ公布スヘシトアル以上ハ之ヲ以テ勅令
 ノ將來ニ向テ其効力ヲ失フ一要素ナリト云ハサル可ラサルナリ
 諸君ヨ憲法第八條ノ意義果シテ余カ解説シタル如クナリセハ甚タ危險ノ條文
 ナリト云ハサル可ラサルナリ如何トナレハ此條文アルカ爲メニ政府ハ緊急勅
 令ノ名ヲ以テ如何ナル命令ト雖トモ殆ント之ヲ發シ得サルモノナクハナリ
 我憲法ノ起草者カ本條ヲ規定スルニ當リ果シテ余カ上來論シタル如キ結果ノ
 生スヘキヲ慮カリシヤ否ハ余之ヲ斷言シ得スト雖トモ若シ眞ニ伊藤伯カ云ハ

ル、如ク帝國議會ヲシテ此特權ノ監督者タラシメント欲スルノ意ナリトセハ
 尙ホ少數被治者ニ安全ヲ與フルノ明文ヲ望マシク思フナリ
 緊急勅令ニ關シ一言スヘキモノ猶ホ一點アリ憲法第八條第二項ニ帝國議會ノ
 承諾ヲ得ルハ次ノ會期トハアナカチ次ノ定期ノ會期ト云フ意味ニアラス臨時
 會ヲ開キ議會ノ承諾ヲ請フモ決シテ不可ナキナリ
 諸君余ハ第二章立法論ニ入ルノ際緊急勅令ト尋常勅令トノ二者ヲ説クヘキヲ
 約シタリ緊急勅令ノ事ハ以上説キ盡シタルヲ以テ請フ是ヨリ尋常勅令ノ事ヲ
 説カン

依りて之を以て

尋常勅令ハ一名之ヲ法律執行勅令ト云フ蓋シ法律ヲ執行スル爲メニ必用ノ規
 則ヲ制定スルノ意ナリ然リト雖トモ憲法第九條ニ規定スル所ノモノハ外國ニ
 テ通常謂フ所ノ法律執行勅令トハ六ニ異ナル所アリ
 外國ニ於テ謂ユル法律執行勅令ナルモノハ其範圍甚々狹隘ナルモノナリ法律
 執行勅令ト申ス名ヲ見テモ明カナルカ如ク實ニ法律ヲ執行スル爲メニ發スル
 勅令ナルカ故ニ必ス法律ノ範圍内ニ於テ活動セサル可ラサルナリ

帝國憲法ニ於テ規定スル執行勅令モ阜濶見レテ外國ノ執行勅令ト毫モ異ナル
 所ナキカ如シト雖トモ深ク憲法第九條ヲ吟味スルトキハ其實大ニ異ナル所ア
 リ若シ同條ニ於テ天皇ハ法律ヲ執行スル爲メ必要ナル勅令ヲ發スル云々トノ
 ミアレハ毫モ外國ノ執行勅令ト異ナル所ナカルヘシト雖トモ同條ノ規定スル
 所ハ單ニ此一點ニ止マラス亦公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣民ノ幸福ヲ増進
 スル爲メニ必要ナル勅令ヲモ發シ得ルモノト爲シタリ是レ即チ大ニ外國ノ法
 ト異ナル所ナリ然レハ憲法第九條ニ於テ規定スル尋常勅令ノ事ヲ論究スルニ
 當リテハ宜シク此二點ヲ區別シテ論スルヲ要ス
 第一法律ヲ執行スル爲メニ必要ナル勅令法律ヲ執行スル爲メニ必要ナル勅令
 ヲ發スルノ權ハ何レノ國ト雖トモ之ヲ行政部ノ首長ニ歸スルモノトス君主國
 ニアリテハ君主此權ヲ有シ共和國ニアリテハ大統領之ヲ有ス其然ル所以ノモ
 ノハ蓋シ法律ノ執行上ニ關スル細密ノ點ニ至ルマテ法律ヲ以テ規定スルハ實
 際行ヒ難キ事ニシテ且又之ヲ行政官ニ委ヌルモ決シテ不可ナキカ爲メナリ加
 之ナラス行政官ノ本務ハ法律ヲ執行スルニアルカ故ニ其執行ニ關スル規則ヲ

制定スルノ點ニ於テハ實際實務ニ通曉ナル行政部ノ官吏却テ立法部ノ議員ニ優ルコトアルハ蓋シ掩フ可ラサル事實ナリ故ニ我憲法ニ於テモ執行命令權ヲ君主ニ放任シクルハ其當ヲ得タルモノト云ハサル可ラス

右ニ陳ヘタル如ク執行命令ナルモノハ立法ノ一部分ナルカ故ニ歐米諸國中立法權ト行政權トヲ分別スルノ國ニ於テハ執行命令權ヲ行政部ノ首長ニ委任スルト云フ佛國白國ノ如キハ即チ是レナリ又普國ノ如キ君主國ニ於テハ別段委任スルト云フニハアラスト雖トモ命令ノ區域ヲ以テ專ラ法律ヲ執行スルニ止メタリ

第二公共ノ安寧秩序ヲ保持シ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必要ナル命令公共ノ安寧秩序ヲ保持シ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必用ナル命令トハ抑モ如何ナルモノゾヤ余ハ確然タル解釋ヲ下スニ甚ク困ムモノナリ如何トナレハ其意義甚ク漠然トシテ根據トナスヘキ標準ナケレハナリ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得スト規定シアルヲ以テ臣民ノ權利義務ノ如ク税率ノ如ク裁判所構成法ノ如ク其他種々既ニ法律ヲ以テ規定シタル事項又規定スヘキ事項ニ至リ

神ノ旨

テハ無論命令ヲ以テ規定スヘキ限ニアラスト雖トモ法律ノ未タ占メ得サル田地即チ法律ヲ以テ未タ規定セサル事項ニシテ憲法中法律ヲ以テ規定スヘキモノト確定セサル事項ハ悉ク尋常命令ヲ以テ規定シ得ヘシ如何トナレハ公共安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナルト否ラサルトヲ判定シ又臣民ノ幸福ヲ増進スルニ足ルト否ラサルトヲ辨別スルハ全ク政府ノ意中ニアレハナリ

憲法第九條第二種ノ命令ヲ庇保スル者ノ說ヲ聞クニ所謂行政ハ固ヨリ法律ノ條則ヲ執行スルニ止マラス如何トナレハ法律ハ普通準繩ノ爲メニ大則ヲ定ムルノ能力アリテ而シテ萬殊事々ノ活動ニ對シ逐一ニ其權宜ヲ指示スルコト能ハサルハ宛モ一個人ノ心志ハ以テ行動ノ方嚮ヲ指導スヘシト雖トモ變化究リナキノ事緒ニ順應シテ其機宜ヲ愆ラサルハ又必ス臨時ノ思慮ヲ要スルカ如シ若シ行政ニシテ法律ヲ執行スルノ限域ニ止マラシメハ國家ハ法律ノ曠濶ナル地ニ於テハ其當然ノ職ヲ盡スニ由ナカラムトス故ニ命令ハ獨リ執行ノ作用ニ止マラスシテ又時宜ノ必要ニ應シ其固有ノ意思ヲ發動スルコトアル者ナリ云々(憲法義解十八頁)

右ハ伊藤伯カ其憲法義解ニ於テ本條ヲ庇保センカ爲メニ主張サレシ論ナリト雖トモ余ハ此論ニ服スル能ハサルナリ如何トナレハ余ノ見ル所ヲ以テスレハ本條ノ如キハ其害其利ヨリモ多ク且ツ之ヲ設ケルノ必要ヲ見サレハナリ伊藤伯立論ノ最モ重要ノ點ハ蓋シ行政ニシテ法律ヲ執行スルノ領域ニ止マラシメハ國家ハ法律曠濶ナル地ニ於テ其當然ノ職ヲ盡スニ由ナカラントスト云フニアリ

論者ノ意ニシテ若シ行政官タルモノハ宜シク社會萬般ノ事變ニ應シ臨機ノ策ヲ施スノ權ナカル可ラスト云フニアレハ余ハ敢テ異議ナキナリ然リト雖トモ憲法第九條ニ規定スル所ハ一種ノ立法權ヲ政府ニ與フルモノニシテ憲法ヲ以テ制限セラレサル限リハ法律同様ノ効果ヲ有スル命令ヲ發スルノ權ヲ與フルモノナリ故ニ政府ニ於テハ公共ノ安寧秩序ニ關スルスト認メ憲法ヲ以テ制限セサルモノナレハ勝手ニ命令ヲ發シ得ルモノナリ而シテ此命令ニ關シテハ被治者ハ毫モ隙ヲ容ルヲ得ス唯命之ニ從フノ義務アルノミ果シテ然ラハ被治者ノ位地甚ク不安ナリト云ハサル可ラサルナリ是レ余カ本條ノ末項ハ有害無

益ト信スル所以ナリ

余ハ第二ニ憲法第九條ニ於テ規定シタル如キ安寧保護ニ關スル命令ヲ發スルノ權ヲ政府ニ與フルノ必要ナシト信スルナリ如何ントナレハ若シ命令ヲ以テ規定スヘキ事項ニシテ緊急ノ必要アラハ憲法第八條ヲ以テ足ルヘク若シ緊急ノ必要アラサレハ法律ヲ以テ制定シテ可ナレハナリ

之ヲ要スルニ憲法第九條ニ規定スル命令權ハ帝國議會ノ監督ニ掛ラサルモノナルヲ以テ被治者ニ安全ヲ與フルモノト云フ可ラス

以上陳ヘタル非常命令ナルモノハ前段ニ於テ既ニ論シタルカ如ク第一法律ヲ變更スルヲ得ス第二法律ヲ以テ規定スヘキ事項ハ之ヲ制定スルヲ得ス

若シ尋常命令ニシテ或ハ法律ヲ變更シ或ハ法律ヲ以テ規定スヘキ事項ヲ規定シタル場合ニ於テハ其命令ハ憲法ニ背反スルモノナルカ故ニ第一政府ハ背憲ノ責ヲ負ハサル可ラス此點ハ國務大臣ノ責任ヲ説クニ至リ詳論スル所アルヘシ第二如此命令ハ無効ナリト云ハサル可ラス然リト雖トモ其果シテ有効ナルヤ無効ナルヤヲ判定スルノ權ハ誰レニアルヤハ是レ憲法全体ニ關スルノ問題

ナルカ故ニ後段憲法ノ制裁ヲ説クニ至リ詳論スヘシ
尙ホ第九條ニ發シ又ハ發セシムトアリ所謂發セシムトハ是レ閣令、省令、府縣令
若クハ警察令等總テ主權者ノ命令ヲ受ケテ發布スルノ權カアル者ナシテ之ヲ
發セシムルコトヲ得シカ爲メナリ

本校校友 辻 寅次郎 君筆記

(第十一回)

立法權

第二章 立法權

諸君ヨ余ハ前章ニ於テ主權ノ實行ヲ論スルニ當リ主權ノ一分子ナル立法權ハ
君主ト帝國議會トノ二者相合シテ之ヲ實行スルモノナリト云ヘリ乃チ本章ニ
於テハ此二者如何シテ之ヲ實行スルヤヲ論セシムトス
帝國憲法第五條及ヒ第六條ノ兩條ニ依レバ立法ニ關シ帝國議會ノ有スル權利
ハ法律案ヲ議決スルニ在リ君主ノ有シ給フ權利ハ帝國議會ノ議決シタル法律

一局議院
二局議院
ノ可否

案ヲ裁可セラレ之ニ法律力ヲ與フルニ在リ此二點ニ付テハ上來數バ論述シタ
ル所ナレハ復タ茲ニ之ヲ贅セス而シテ帝國議會ノ組織及ヒ其權限等ハ憲法第
三章ニ於テ之ヲ規定セリ今其大要ヲ述ブレバ帝國議會ハ貴族院ト衆議院トノ
兩院ヲ以テ成立シ而シテ其權限中最モ重要ナルモノハ法律案及ヒ歲出入豫算
案ヲ議決スルニ在リ此他尙ホ帝國議會ノ權限ニ屬スルモノ數種アレトモ是レ
唯瑣事ノミ抑モ亦枝葉ノミ
今ヤ本論ニ入ルニ先タ茲ニ余ハ諸君ト共ニ研究スヘキ憲法學上立法權ニ關
スル一大問題アリ何ソヤ曰ク議會ハ一局院ヲ可トスルヤ將タ二局院ヲ可トス
ルヤ如何即チ是ナリ請フ試ミニ之ヲ論セン
現今歐米諸國ニ行ハレツ、アル憲法ヲ案スルニ苟モ代議政體ノ邦國ニ在テハ
其一ニテ除クノ外、舉テ二局議院制ヲ採用セサルハナシ余カ今記憶スル所ニ依
レハ一局議院制ヲ採用セルハ唯セルビヤノ一小王國アルノミ此他亞米利加及
ヒ澳太利ノ小邦中一二ノ國ハ尙ホ一局議院制ヲ用ユト雖トモ苟モ一國ヲ以テ
目スヘキ邦國ニ於テハ一局議院制ヲ用ユルモノ殆ント之ナシト云フモ敢テ過

言ニアテサルナリ

然リト雖トモ一局議院ノ制度タル一時熾ニ行ハレタリ佛國ニ於テハ千七百九十一年及ヒ千八百四十八年ノ憲法ニテ之ヲ採用シ又北米中ヅエルモント州ニ於テハ千八百三十六年ニ至ルマテペンシルバニア州ニ於テハ千八百三十八年ニ至ルマテ又墨西哥國ニ於テハ千八百七十四年ニ至ルマテボリビヤニ於テハ千八百七十八年ニ至ルマテ又埃及國ニ於テハ千八百七十三年ニ至ルマテ孰レモ一局議院ノ制度ヲ用ヒタリ

斯ノ如ク一局議院制ノ一時熾ニ行ハレタルニモ拘ハラズ現今ニ在テハ實ニ寥寥晨星モ管ナラス既ニ各國ノ實驗上之ヲ廢棄シ以テ二局議院制ヲ採用セル今日ニ至テ其可否ヲ論究スルハ宛モ死兒ノ年齒ヲ算フルカ似クナレトモ我邦尙ホ喋々論難ヲ試ムル者アリ理論上茲ニ其大要ヲ論究スルハ亦敢テ無益ノ業ニ非サルヘシ豈ニ辯ヲ好ムモノナランヤ
蓋シ各國ノ國體如何ニ由テ上下兩院ノ組織ノ如キモ固ヨリ同一ナラス看ヨ彼ノ北米合衆國ノ如キハ聯邦體ノ國ナリ故ニ上院ハ各獨立國ナル聯邦ノ各自ヲ

代表シ下院ハ米國人民ノ全體ヲ代表スルカ如ク又英吉利及ヒ普魯西ノ如キハ上院ハ一種特別ノ種族ヲ代表シ下院ハ國民ヲ代表スルカ如ク又佛蘭西及ヒ白耳義ノ如キハ上下兩院共ニ國民ヲ代表スルカ如キ是ナリ
又各國ノ歴史上止ムヘカラサル必要ヨリシテ上下兩院ノ制度ヲ用ヒタル國ニ付テハ固ヨリ其可否ヲ論究スルノ要ナカルヘシ何トナレハ彼レ兩院ヲ設クルニ至リタルハ勢ヒノ然ラシムル所亦奈何トモ爲スヘカラサルニ出ツレハナリ
例ヘハ北米合衆國ノ如キハ聯邦各自ト國民ノ全體トヲ代表セシムルノ必要アルニ由レリ又英國ノ如キハ上院ハ純然タル貴族院ニシテ是亦歷史上ノ必要ヨリ起レリ曾テ英國ニ於テハ王家ノ權力ニ抵抗シ以テ人民ノ權利ヲ伸暢シタルハ實ニ貴族ノ力ナルカ故ニ代議政體ヲ行フニ當テモ亦人民ヲ保護センカ爲メニ貴族ヲ代表スル所ノ上院ヲ設クルハ勢ヒノ然ラシムル所ナルヘシ然レトモ今日ニ在テハ既ニ上院組織ノ改良ヲ論議スル者アリ現ニ上院議員中ニ其人アリト聞ク
斯ノ如ク國體上又ハ歷史上ヨリシテ二局議院ヲ要スル國ニ在テハ固ヨリ其是

非得失ヲ論究スルノ要ナシト雖トモ上下兩院共ニ國民ノ全體ヲ代表スルモノト看做ス國ノ如キ又殊ニ一種族ヲ代表セシムルノ必要ナク議會ヲ以テ單一
 個ノ政務機關ト爲ス國ノ如キニ至テハ須ラク之ヲ論究セサルヘカラス
 余ハ信ス佛國ノ如ク上下兩院ヲ以テ共ニ國民ヲ代表スルモノナリト爲ス國ニ
 在テモ又我邦ノ如ク主權全ク天皇ニ存シ議會ハ單一ノ政務機關ニ過キスト
 爲ス國ニ在テモ等シク二局議院制ヲ採用スルヲ以テ可ナリト請フ左ニ其理由
 ナ辯セン
 主權國民ニ在リトスル國ニ於テ一局議院說ヲ主張スル論者ノ言ヲ聞クニ乃チ
 曰ク凡ソ法律ハ本來人民ノ意思ヲ表彰スルナリ而シテ人民ノ意思ハ必スヤ
 ニシテ決シテ二アルヘキノ理ナク隨テ其之ヲ發表スル所ノ議院モ亦一局ナラ
 サルヘカラスト此說タル佛國ニ於テ千七百八十九年ノ大革命ノ時ニ際シ其名
 ナ蘇カセタル彼ノシエリス氏ノ大聲疾呼セシ所ニシテ嘗ニ其革命ニ一大勢力
 ナ與ヘタルノモ止マラス其後ニ至テモ尙ホ其勢力ホ及ボシ千八百四十八年
 ノ憲法ノ如キ乃チ此說ヲ採用シタリトモ其後ニ至テモ尙ホ其勢力ホ及ボシ

然リト雖トモ此說タル固ヨリ取ルニ足ラサルナリ今假リニシエリス氏ノ言ニ
 從ヒ法律ハ乃チ國民ノ意思ナリトスルモ而モ議院二局ナルヲ以テ國民ノ意思
 亦二十リト云フナ得ヘキカ試ミニ茲ニ一ノ法律案アリト假想セヨ之ヲ議院ニ
 於テ可決セサル間ハ未タ以テ法律タラス其法律案ノ法律タルハ實ニ議院ノ之
 ナ可決シタル後ニ在リ然ラハ則チ法律案チ一局院ニ於テ議決スルモ將タ二局
 院ニ於テ議決スルモ共ニ之カ討議中ニ在テハ未タ一草案タルノミ之ヲ目シテ
 直チニ法律タリ國民ノ意思ナリト謂フヘカラス而シテ議院ニ於テ既ニ之ヲ可
 決セシカ是レ乃チ法律タリ既ニ法律タランカ是レ乃チ國民ノ意思ナリ何ソ必
 スシモ二局院ヲ經タルト一局院ニ止マルトチ問フチ要センヤ其成立ノ後ハ唯
 一ノ法律タルノミ國民ノ意思亦唯一ナルノミ知ルヘシ法律ハ國民ノ意思ナリ
 トスルモ議院二局ノ爲メニ國民ノ意思亦二アリト言フノ不當千萬ナルチ
 右ハ假リニ法律ハ國民ノ意思ナリ國民ノ意思ハ唯一ナリト言ヘルシエリス氏
 ノ說ニ一步ヲ譲リテ之ヲ辯駁セリト雖トモ其所謂法律ハ國民ノ意思ナリ國民
 ノ意思ハ唯一ナリトノ立論亦毫モ價値ナキモノナリ思フニ此說タル國民ト國

會トテ以テ全ク同一ナリト信シタルニ職由スルナラン果シテ然ラハ是レ實ニ
 迷想ノ太甚シキモノト評セサルヲ得ス寔ニ國會ハ國民ヲ代表セルモノタル
 必セリ然レトモ亦決シテ同一視スヘカラサルナリ請フ左ニ其證ヲ舉ケ更ニ之
 ナ辯駁セン

今ソレ國民カ國會議員ヲ撰擧スルニ當リ被撰擧者タル議員ト撰擧者タル國民
 トハ全ク同一ノ意思ヲ有シタリト假定スルモ數年ノ間或ハ國民ノ意思變スル
 ヤ保スヘカラス又縱令ヒ國民ノ意思ハ毫モ變セストスルモ或ハ其代表者タル
 議員ノ意思變スルヤ亦保スヘカラス若シ孰レカ其意思ヲ變センカ既ニハヤ國
 民ト國會トハ同一ノ意思ヲ有セサルナリ果シテ斯ノ如クソハ縱シヤ一局議院
 タルモ議員ノ意思ハ乃チ國民ノ意思ナリト斷言スル能ハス況ンヤ彼我全ク相
 反スルヤモ亦未タ知ルヘカラサルナヤ

又反對論者ニ數歩ヲ譲リ議員ノ在職中ハ撰擧者タル國民ノ意思毫モ變セスト
 假定スルモ其撰擧ノ當時總テノ點ニ關シ全ク同說ヲ把持セリトハ信スル能ハ
 サルヘシ或ハ當時既ニ起リタル重要ナル問題或ハ當時豫想シ得ヘキ重要ナル
 問題ニ付テハ彼我協議シ以テ其意ヲ同フシタルヤ知ルヘカラスト雖トモ數年
 ノ久シキ其間如何ナル問題ノ提出セラル、ヤ得テ知ルヘカラスト此等ノ問題ニ
 至ルマテ尙ホ其意ヲ同フシタリトハ彼レ強硬ナル反對論者ト雖トモ恐ラクハ
 然リト答フルヲ肯ンセサルヘシ

被撰擧者タル議員ト撰擧者タル國民トノ間何事ニ付テモ徹頭徹尾同一ノ意思
 ナ有スルモノナリト云フヲ得サルヤ其レ斯クノ如シ而シテ此言タル敢テ余一
 己ノ空想ニ出テタルニアラス諸君モ夙ニ知ラル、ナラン瑞西國ニ於テレフェ
 ランドムナル制度ノ行ハレタルヲ蓋シ此制度タル或ル重要ナル問題ニ關シテ
 ハ國會ノ議決ヲ經タル後之ヲ公布スル前ニ於テ國民ニ向ヒ直接ニ其可否ヲ諮
 問スルニ在リ然ルニ數次此方法ヲ用ヒタルニ國會ニ於テ現ニ可決シタル法律
 案ヲモ往々國民ノ否決スル所ト爲レリ是レ國會ト國民トハ必スシモ同一ノ意
 思ヲ把持セサル所以ニシテ此制度ノ實驗ハ以テ自ラ余カ言ノ誤リナキヲ證明
 スルニ足ルヘシ

既ニ國會ト國民ノ意思トハ常ニ相吻合スルモノニ非ストセンカ爾レハ國會ハ

必スモ一局院ナラサルヘカラストノ説其當ヲ得サルヤ必セリ
以上ハ主權國民ニ在リ國會ハ乃チ主權者ヲ代表スルモノナリト爲ス國ニ付テ
一局議院ノ不可ナル所以ヲ辯駁シタルナリ以下更ニ我帝國ニ於ケルカ如ク國
會ヲ以テ單一ノ政務機關ニ過キスト爲ス國ニ付テ尙ホ一局議院ノ不可ナル
所以ヲ辯駁セントス

(第十二回)

國會ヲ以テ單一ノ政務機關ニ過キスト爲ス國ニ於テ一局議院説ヲ主張スル
論者ノ言ニ曰ク議院二局ヲ設クルハ不用ニシテ且ツ却テ弊害アリト
何故ニ不用ナルカ彼レ曰ク「若シ議院二局アリテ其説各同一ナルトキハ法律ヲ
制定スルニ方リ徒々手數ヲ繁雜ナラシムルノミニシテ決シテ之カ必要アルヲ
見ス」下實ニ論者ノ謂ヘルカ如ク議院二局ノ説ニシテ徹頭徹尾何事ニ付テモ同
一ナルニ於テハ特ラニ議院二局ヲ設クルノ必要ナキカ如シ然リト雖トモ今日
ニ至ルマテ二局議院ノ行ハル、諸國ノ實例ニ徴シテ之ヲ見ルニ上下兩院ノ説
徹頭徹尾同一ナリシコト決シテ無ク即チ下院ニ於テ可決シタル法律案ニテモ

上院ニ於テ或ハ否決シ或ハ大ニ修正増補スルコトアリ是ヲ以テ二局議院ハ法
律ヲ制定スルニ方リ徒々手數ヲ繁雜ナラシムルモノナリトノ説ハ到底是認
スルコト能ハサルナリ
又何故ニ議院二局ヲ設クルハ國家ノ爲メニ有害ナルカ彼レ曰ク「若シ上下兩院
ノ議決ニシテ相符合セサルトキハ法律ヲ制定スルニ方リ非常ナル滯滯ヲ來ス
ヘシ其甚タシキニ至テハ竟ニ法律ヲ制定スルコト能ハサルカ如キ結果ヲ見ル
ニ至ルヘシ故ニ議院二局ヲ設クルハ甚タ不可ナリ」ト論者カ所謂二局議院ノ弊
害ハ果シテ眞ノ弊害ト認ムヘキモノナルカ其滯滯トハ果シテ眞ニ憂フヘキモ
ノナルカ余ハ以テ然ラスト信ス蓋シ上下兩院ノ圓滑ナラサルハ或ハ其組織ノ
非常ニ相異ナルヨリシテ生スルコトアリ例ヘハ下院ニテハ撰舉權ノ最モ廣キ
撰舉人カ撰出セル所ノ議員ニ由テ成立シ上院ニテハ守舊ノ説ヲ抱持スル議員
ヲ以テ組織スル等ニ因リ常ニ上下兩院ノ間ニ軋轢ヲ生スル事アルヘキヤモ知
ルヘカラスト然レトモ此ノ如キハ上下兩院アルニ因リ始メテ然ルニアラス是レ
唯上下兩院ノ組織其宜シキヲ得サルカ爲メノミ若シソレ上下兩院ノ組織其宜

シキナ得テ尙ホ然ランカ此時ニ在テハ必スヤ他ニ其議決ノ相符合スヘカラサル理由アツテ存セン是レ多クハ其法律ヲ制定スルノ時期未タ到來セサルモノナルヘシ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ法律ヲ制定スルノ時期未タ達セス又熟セサルモノト看做シテ可ナリ且ツヤ一ノ法律案ニシテ眞ニ國家ノ爲メニ緊要欠クヘカラサルモノナランカ恐ラクハ上下兩院ヲ通過セサルコト之ナカルヘキナリ

又反對論者ニ一步ヲ譲リ此ノ如キ場合ニ在テモ尙ホ上下兩院ノ意見相符合セサルコトアリト假定スルモ亦之ヲ調停スルノ途ナキニアラス若シ其法律案ニシテ必スシモ之ヲ制定セサルヘカラサルノ要アラシカ左ノ二ケノ方法ニ由テ之ヲ制定スルコトヲ得ヘシ

其一 上下兩院ノ協議會ヲ開キ以テ其多數說ニ從フヘシトノ規則ヲ設クルカ又ハ上下兩院ヨリ各若干名ノ委員ヲ撰出シ其委員ニ全權ヲ與ヘ以テ其議決ニ從フヘシトノ規則ヲ設クルニ於テハ乃チ兩院ノ一致ヲ見ルヘキナリ

其二 下院ヲ解散シ以テ上下兩院ノ意見相符合セサル所ノ問題ニ付キ國民ノ

意見ヲ問フヘシ即チ解散セラレタル議員ト同說ヲ抱持セル者再ヒ議員ニ撰舉セラレタルトキハ其議員ノ說ニ從フヘシトノ規則ヲ設クヘシ

右二ケノ方法ニ依リ上下兩院ノ不和ヲ解クコトヲ得ヘシ然レトモ此ノ如キ極端ノ方法ヲ用ヒサルモ十中ノ八九ハ協議ノ相調フモノナリ又今日ニ至ルマテ各國ニ行ハル、所ノ實例ニ徵スレハ上下兩院ノ不和ニシテ全ク解ケサリシコトハ甚タ罕ナリ即チ伊太利ニ於テ刑法ノ改正ニ付キ下院ニ於テ可決シタル草案チ二十五年間上院へ提出スル毎ニ破壞セラレタルカ如キ實例アレトモ此ノ如キハ甚タ稀レナリ且又此法律案ト雖トモ其後遂ニ上院ヲモ通過シ昨年ニ至リテ法律ト成ルニ至レリ

以上述フルカ如ク一局議院說ヲ主唱スル論者カ所謂二局議院ノ弊害トスル所ハ十分ノ根據ナキモノト謂ハサルヲ得ス之ニ反シテ今若シ論者ノ說ニ從ヒ議院一局ナルトキハ却テ重大ナル二個ノ弊害アリ即チ左ノ如シ

其一 法律ノ制定甚タ不完全タルニ至ルコト是ナリ反對論者ハ此弊害ヲ防カシカ爲メニハ數讀會ノ方法ヲ以テ足レリ即チ一讀會、二讀會、三讀會等數次ニ於

テ討議スルトキハ十分ニ法律案ヲ査定スルコトヲ得ヘシト主張スルモ一局議院ニ於テ同一ノ法律案ニ付キ數回討議スルモ以テ十分ニ其欠点ヲ發見スル能ハサルコト猶ホ宛モ一人カ自己ノ意見ヲ再思三考スルモ未タ以テ欠点アルヲ免レサルカ如シ又一ノ法律案ヲ他ヨリ見ルトキハ往々欠点アルモ議院ニ於テハ特ラニ之ヲ欠点ト做サ、ルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テ議院一局ナルトキハ甚タ不完全ナル法律案ヲモ其欠点ヲ補充スルコトナクシテ遂ニ通過セシムルノ恐アレトモ若シ議院二局ナルトキハ即チ此弊害ヲ防クコトヲ得ヘキナリ其二 權力分立ノ原則ヲ實行スルニ甚タ困難ナルコト是ナリ余ノ既ニ述ヘタル如ク凡ソ一國內ニ於テ十分ニ自由制度ヲ實行セシムルニハ必スヤ權力分立ノ原則ヲ遵守シ以テ立法行政ノ二大權互ニ相侵犯セサルヲ要ス若シソレ立法部ニシテ行政部ヲ侵害シ或ハ行政部ニシテ立法部ヲ侵害スルカ如キコトアランカ其極竟ニ專制政治ニ陥ルハ勢ヒ免ルヘカラサル所ナリ然ルニ一局議院ノ制度ヲ採ルトキハ立法部ト行政部トノ間ニ衝突ヲ來シ或ハ立法部勝ヲ制シテ行政部ヲ壓シ或ハ行政部勝ヲ制シテ立法部ヲ壓スルニ至ルコト歐米ノ歴史ニ徴シ

テ明カナリ現ニ佛國ニ於テ一局議院ノ制度ヲ用ヒタルコト二回アリタリ即チ千七百九十二年及ヒ千八百四十九年はナリ千七百九十二年ニハ立法部勝ヲ制シテ行政部ヲ蹂躪スルニ至リ又千八百四十九年ニハ行政部勝ヲ制シテ立法部ヲ抑壓スルニ至レリ而シテ其結果何人カ先ツ迷惑ヲ蒙ルカ是レ實ニ人民ナリ要スルニ立法部勝ヲ制スルモ又行政部勝ヲ制スルモ孰レモ等シク無限ノ權力者ヲ生スルモノナレハ勢ヒ壓制政治ヲ行フニ至ルハ復タ多辯ヲ俟タスシテ知ルヘキナリ

斯ノ如ク一局議院ナルトキハ却テ弊害アリ然ルニ若シ人民ヨリ直接ニ選舉セラレタル所ノ議院ト行政部トノ間ニ尙ホ一ノ議院アルトキハ其民撰ニ成リタル議院ト行政部トノ間直接ニ衝突ヲ來スコト薄ラキ即チ行政部若シ己レノ權力ヲ張ラント欲スルトキハ上院ハ下院ト一致シテ之ヲ抑ヘ又下院若シ其權力ヲ恣マニセントスルトキハ上院ハ行政部ヲ扶ケテ之ニ當ラン故ナ以テ上院ハ或ハ行政部ノ專横ヲ防キ或ハ下院ノ擅恣ヲ止メ各政務機關ヲシテ能ク其權衡ヲ保持スルコトヲ得セシムルモノナリ

論者或ハ曰ハソ上院ハ常ニ行政部ヲ扶ケテ國民ヲ代表スル所ノ下院ヲ抑制セ
ントスルノ傾向アリト寔ニ然リ古來ノ歴史ニ徴スレハ或ハ此ノ如キ事實全ク
之ナキニアラス然レトモ是レ上院アルカ故ニ然ルニアラス唯上院ヲ行政
部ヲ扶助セシムルカ如ク組織スルカ爲メノミ約言スレハ上院ノ組織其當ヲ得
サルニ基因ス故ニ若シ上院ノ組織ニシテ其宜シキヲ得タラソニハ決シテ此ノ
如キ弊害アルコトナシ

上來述フルカ如ク學理上ヨリ論スルモ又各國ノ經驗上ヨリ論スルモ孰レモ一
局議院ノ弊害多クシテ二局議院ノ利益多キコト以テ知ルヘキノミ然レトモ二
局議院ノ制度ヲ採リ其利益ヲ十分ニ生セシメンニハ須ラク各院ノ組織ニ注意
セサルヘカラス我帝國憲法ニ於テハ前既ニ一言セシカ如ク二局議院ノ制度ヲ
用ヒタリ而シテ各議院ノ組織果シテ其當ヲ得タリヤ否ヤ是レ大ニ議論スヘキ
モノアリ此點ニ付テハ帝國議會ノ組織ヲ説クニ方リテ研究スヘシ
憲法上一局議院二局議院ノ可否ヲ研究スルハ甚ク必要ナリト信セシテ上
來之ヲ論シタリ此問題ニ付テハ尙ホ種々論究スヘキ點アレトモ冗長ニ失スル

帝國議會
ノ組織

ナ以テ之ヲ畧シ以下本論ニ入テ講述セシ
余ハ本章ヲ別テ三節トナス第一節帝國議會ノ組織第二節帝國議會ノ職權第三
節天皇ノ裁可權

第一節 帝國議會ノ組織

我帝國憲法第三十三條ニ依レハ

帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ストアリ而シテ其兩院ノ組織ハ
貴族院令衆議院議員撰舉法及ヒ議院法ノ三法律ニ於テ之ヲ規定セリ今此ノ
三法律ニ規定セル所ヲ詳論センニハ幾多ノ日子ヲ要スルヲ以テ余ハ唯其大
要ヲ述フルニ止メントス

本節ヲ更ニ細別シテ三款トナス第一款貴族院ノ組織第二款衆議院ノ組織第三
款貴衆兩院議員ノ特權

(第十三回)

貴族院ノ
組織

(憲法)

第一款 貴族院ノ組織

余ハ既ニ二局議院ノ制度ヲ以テ善良ノモノナリト論セリ然レトモ今二局議院ヲ設ケ以テ眞ニ善良適實ナル政務機關タラシムルニハ上下兩院ノ組織其宜キヲ得サルヘカラス殊ニ上院組織其宜キヲ得サルトキハ上院ハ無用ノ長物ト化センノミ

然ラバ上院ノ組織ハ果シテ如何セハ可ナルカ此ノ問題ヲ決定センニハ須ラク上院ハ如何ナル目的ノ爲メニ之ヲ設ケタルヤヲ論究セサルヘカラス何トナレハ上院ヲ設ケルノ目的如何ニ由テ之ヲ組織スルノ方法モ亦隨テ異ナラサルヘカラサレハナリ

古來歐米諸國ニ行ハル、上院ノ實相ヲ觀察スルニ其目的トスル所甚タ區々ニ涉リ決シテ同一ナラス或ハ上院ヲ以テ行政部ノ機關ト爲シ以テ下院ヲ抑壓スルノ要具タラシメンカ爲メニ之ヲ設ケタルモノアリ佛國奈翁第一世及ヒ同第三世時代ニ於ケル上院ノ如キ即チ是ナリ或ハ之ヲ以テ王家ニ當リ却テ君主ノ

上院組織ノ方法

權權ヲ掣肘センカ爲メニ之ヲ設ケタルモノアリ英國ニ於ケル上院ノ如キ即チ是ナリ或ハ又下院ノ失策ヲ矯正シ又ハ其專恣ヲ防禦センカ爲メニ之ヲ設ケタルモノアリ佛蘭西白耳義ニ於ケル今日ノ上院ノ如キ即チ是ナリ或ハ又建國ノ沿革上ヨリ止ムヲ得ス或ル元素ヲ代表セシメンカ爲メニ之ヲ設ケタルモノアリ北米合衆國ニ於ケル上院ノ如キハ即チ是レナリ

上院ヲ設ケタル目的ノ區々ナルコト其レ斯ノ如シ隨テ其之ヲ組織スルノ方法モ亦種々アリ然レトモ今日マテ歐米諸國ニ行ハル、上院組織ノ方法ヲ案スルニ大約之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得ヘシ何ソヤ曰ク君主ノ任命曰ク法律ノ指定曰ク撰舉即チ是ナリ而モ此中ノ各個一種ヲ用ユル邦國ハ甚タ罕ニシテ多クハ此三種ヲ混用セリ以下各種ノ利害得失ニ付キ聊カ論究スル所アラントス

第一 君主ノ任命

君主ノ任命ニ依テ上院議員ヲ撰定スルノ方法ハ唯立君國ニノミ行ハル、所ノモノタルヤ勿論タリ然レトモ既ニ述フルカ如ク全ク此種ノ方法ノミヲ用ユル邦國ハ甚タ罕ニシテ今其實例ヲ舉ケレハ佛國ニ於テ奈翁第一世、路易第十八世

シャル、第十世、路易非立第一世及ヒ奈翁第三世ノ時代是ナリ即チ此時代ニ在
 テハ上院議員ハ全ク君主ノ任命ニ依レリ
 又英吉利、普魯西、澳太利及ヒ西班牙ノ如キ國ニ於テモ尙ホ君主ノ任命ニ依ル議
 員ナキニアラサレトモ總テノ議員舉テ然ルニアラス是レ唯其一部分ノミ殊ニ
 英國ノ如キ上院ハ主モニ世襲貴族ヲ以テ組織セリ然レトモ君主ハ特ニ爵位ヲ
 授與スルコトヲ得而シテ爵位ヲ有スル者ハ當然議員タルヲ得ルヲ以テ乃チ其
 結果ハ恰モ君主ヨリ任命セラレタルト同一ニ歸スヘシ
 右君主ノ任命ヲ以テ上院議員ヲ撰定スルノ方法ハ若シ撰定其宜キヲ得タラシ
 ニハ實ニ忠愛ナル良議員ヲ舉クルコトヲ得ヘシ是レ此方法ノ利益トスル所ナ
 リ然リト雖トモ余ノ信スル所又歐州公法學者ノ說ニ依レハ上院議員ノ撰定ヲ
 以テ君主ニ一任スルハ寧ロ弊害多シト爲ス蓋シ此種ノ方法ヲ用ユルトキハ君
 主ハ隨意ニ其親昵スル所ノ者ヲ撰任シテ以テ議院ヲ組織スルコトヲ得ルカ故
 ニ上院ハ或ハ君主ノ奴隸トナルヘク又管ニ君主ノ奴隸トナルノミナラス時ノ
 政府ニ在ル者ハ其欲スル所ノ人物ヲ推舉シテ以テ之ヲ組織スルコトヲ得ルカ

故ニ或ハ亦當局者ノ奴隸トナルニ至ルヘシ
 論者或ハ曰ク君主ノ任命ニ依テ議員ヲ撰定シ上院ヲ組織スルトキハ君主ノ權
 力ヲシテ確固タラシメ即チ之ヲ以テ人民ヨリ撰舉シテ組織スル所ノ下院ニ對
 抗セシメンカ爲メニ實ニ緊要ナル機關ト爲スコトヲ得ヘシト是レ恐ラクハ迷
 想謬見タルヘシ古來各國ノ經驗ニ徵スレハ君主ノ任命ノミニ因テ成ル所ノ上
 院ハ人民ノ公撰ニ因テ成ル所ノ下院ニ對シ實際上毫モ權力ナク常ニ下院ニ壓
 倒セララルノ實跡アリ其然ル所以ノモノハ何ゾ是レ他ナシ下院ハ國民全体ノ
 輿論ヲ代表スルヲ以テ上院ハ此ノ強大ナル勢力ニ當ルヘカラサルニ由ル是故
 ニ一朝事アルノ秋ニ際シテハ此ノ如キ上院ハ決シテ國家ヲ支配スルノ實力ナ
 シ故ニ之ヲシテ下院ニ對抗セシメント欲スルハ甚ダ難シトス
 然ラハ則チ此ノ如キ上院ハ君主若クハ行政部ニ對シテ如何ナル權力ヲ有スル
 ヤ曰ク其權力ナキヤ勿論タリ前既ニ述フルカ如ク君主若クハ行政部ニ從順ナ
 ル人物ヲ以テ之ヲ組織スルカ故ニ議員ハ政府ニ對抗スルノ氣力殆ント無ク又
 偶々之アルモ其任命ノ實權行政部ニアル以上ハ或ハ新タニ議員ヲ任命シテ以

テ上院ノ多數ヲ政府黨ニ占メセシムルコトヲ得ヘク或ハ上院議員ノ數ヲ變スルコトヲ得ヘシ此ノ如キ實例ハ歐洲ノ歴史上往々散見スル所ナリ現ニ佛國ニ於テハ千八百二十七年ニ當リ一時ニ七十六人ノ上院議員ヲ任命シ多數ノ椅子ヲシテ政府黨ニ占メセシメタリ又降テ千八百八十三年澳太利ニ於テモ亦殆ソト之ト同一ノ實例アリタリ又英國ニ於テモ上院ニシテ數ハ内閣ノ意ニ逆フトキハ議員ヲ脅迫スルニ新任議員ノ増加ヲ以テシスルコトアリ此方便ヲ以テ法律案ヲ通過セシメタルコト其例ニ乏シカラス

斯ノ如ク上院議員ノ撰定ヲ君主ノ任命ニ一任スルトキハ種々ノ弊害アルヲ免レス是ニ於テカ亦一二ノ救済策ナキニアラス即チ左ノ如シ

其一 人民チシテ數名ノ候補者ヲ撰舉セシメ君主ハ其候補者中ヨリ議員ヲ任命スルコト是ナリ此方法ハ曾テ佛國ニ於テ行ハレタルコトアリキ

其二 法律ヲ以テ上院議員タルヘキ人物ノ種類ヲ限定シ君主ハ其限定内ニ屬スル者ニ非サレハ之ヲ任命スルヲ得サルコト是ナリ例ヘハ軍人ニ付テハ將校以上ニシテ現今非職中ニ在ル者又裁判官ニ付テハ曾テ大審院判事ヲ勤メ現今

就職中ニ在ル者ト云フカ如シ此方法モ亦曾テ佛國ニ於テ千八百三十一年ニ行ハレタル所ナリ

右ノ方法ヲ用ユルトキハ多少君主任命ノ弊害ヲ防止スルヲ得ト雖トモ尙ホ未タ全ク之ヲ除去スルコトヲ得サルヤ實驗自ラ證明セリ

第二 法律ノ指定

法律ノ指定トハ法律ヲ以テ何々ノ資格ヲ有スル者ハ當然上院議員タルヘシト定ムルモノ是ナリ例ヘハ某々ノ爵位某々ノ官位ヲ有スル者又ハ學識アル者富裕ナル者若クハ社會ニ於テ高等ノ地位ヲ占ムル者ハ當然上院議員タルヘキカ如シ

此方法ニシテ若シ其資格ヲ學識富裕若クハ經驗勳勞等ニ因リ社會ノ上流ニ立ツ所ノ者ノミニ限ランカ前段君主ノ任命ニ比スレハ尙ニ勝ル所アリト謂フヘシ爵位若クハ官位ノ如キハ何時ニテモ君主之レヲ授與スルコトヲ得ルカ故ニ尙ホ間接ニ君主ノ任命ニ因ルモノト謂ハサルヲ得ス隨テ君主直接ノ任命方ト多少同一ノ弊アルヲ免カレサルナリ何トナレハ爵位若クハ官位ノ如キハ何時

ニテモ君主之ヲ授與スルコトヲ得ヘケレハナリ而シテ今日ニ至ルマテ全ク此方法ノミヲ用ヒタル邦國トテハ絶テ無ク彼ノ澳太利普魯西及ヒ西班牙ノ如キハ多少此方法ヲ用ヒタレトモ尙ホ他ノ方法ト混用セルモノ、如シ

第三 撰舉

今若シ上院ヲ以テ下院ノ失策ヲ矯正シ又ハ其專恣ヲ防禦スルノ政務機關タラシメント欲セハ須ラク國民ニ對シテ有形無形ノ權力ヲ有スヘキ議院ヲ組織セサルヘカラス國民ノ衷情眞ニ尊重恭敬シテ其爲ス所ノ事ハ歡喜之ニ服從シ且ツ其代表者タル下院ニ對シテ實ニ權力ヲ有スヘキ上院ヲ組織セント欲セハ必スヤ其議員ハ尙ホ國民ヨリ撰舉セサルヘカラス是レ上院モ尙ホ人民ノ撰舉ニ因レル議員ヲ以テ組織スヘシト主唱スル論者ノ證據トスル所ノ要點ナリ

右 上院議員ヲ人民ヨリ撰舉スルニ付テモ亦種々ノ方法アリ即チ左ノ如シ
其一 下院議員ニ於ケルト同一ノ撰舉法ヲ用ユルコトアリ此方法ハ現ニ白耳義國ニ行ハル、所ニシテ同國ニ於テ上院議員ト下院議員トハ唯其齡ノ高低ト在職期間ノ長短トノ差アルノミ而シテ此方法タル決シテ其當ヲ得タルモノニ

非ス何トナレハ同一ノ撰舉人カ同一ノ方法ニ依テ議員ヲ撰舉スルトキハ兩院全ク同一ノモノヲ生シ上院ヲ設クルノ效用甚タ薄弱ニシテ其結果殆ント一局議院タルト同一ニ歸スレハナリ

其二 復撰舉ノ方法はナリ所謂復撰舉トハ先ツ人民ヨリ若干名ノ撰舉人ヲ撰定シ更ニ其撰舉人カ上院議員ヲ撰舉スルノ方法ナリ而シテ此方法ニモ亦種々アリテ或ハ特ニ人民ヲシテ上院議員ヲ撰舉スヘキ撰舉人ヲ撰定セシムルコトアリ或ハ既ニ人民ヨリ撰出シタル團體ヲ以テ直チニ上院議員ノ撰舉人トナスコトアリ佛國ニ於テハ千八百七十五年憲法制定ノ際種々ノ方案出テタルモ竟ニ此第二種ノ方法ヲ採用シ今日ノ上院ハ下院議員州會議員郡會議員及ヒ邑會議員ノ若干名カ一團體ヲ組織シ以テ上院議員ヲ撰舉スルモノトス又米國ニ於テハ各州ノ議會ヨリ二名宛ノ上院議員ヲ撰舉スルノ方法ヲ用ヒタリ今日マテノ經驗ニ依レハ兩國孰レモ好結果ヲ得タリト聞ク

其三 上院議員ヲ下院議員ニ於テ人ト同一ノ撰舉人ヲシテ撰舉セシメ而シテ被撰者ノ資格ヲ非常ニ制限スルノ方法はナリ例ヘハ何年間某官職又ハ會社ノ

重役ヲ勤績シタル者若クハ何年間代言事務ニ從事シタル者等其種類ヲ限定シ此種ノ者ニ非スサレハ撰舉セラル、ヲ得スト定ムルカ如シ此方法ハ千八百七十二年ノ頃佛國ニ於テ有名ナルチエール氏ノ主唱セシ所ニシテ現ニ西班牙ニ於テハ今日上院議員ノ半數ハ此方法ニ依テ撰舉セリ

右ノ外尙ホ種々ノ方法アリ或ハ納稅額ヲ以テ撰舉人及ヒ被撰人ノ資格ヲ制限スルカ如キ或ハ大學學士會院代言人組合及ヒ商業會議所等ニ各其代表者ヲ得セシメンカ爲メニ上院議員中ノ幾名ハ此等ノ者ヲ以テスルカ如キ是ナリ然レトモ今日マテ歐米各國ニ行ハル、所ノ上院議員ノ撰定方法ハ大概テ以上ノ三種ニ歸着スルモノト知ルヘシ而モ前既ニ一言シタルカ如ク此三个ノ方法中孰レカ其一ヲ專用セル國ハ甚タ罕ニシテ即チ之ヲ混用セルモノトス澳大利伊太利普魯西西班牙ノ如キ舉テ然ラサルハナシ

(第十四回)

諸君ヨ余ハ尙ホ上院ノ組織ニ變シ諸君ト共ニ研究スヘキ問題アリ何ソヤ曰ク上院議員ノ任期ノ事是ナリ之ヲ詳言スレハ上院議員ノ在職期間ハ下院議員ニ

上院議員ノ任期

於ケルト同一タラサルヘカラサルヤ將タ下院議員ノ在職期間ヨリ長カラサルヘカラサルヤ又君主ノ任命ニ依レル邦國ニ在テハ世襲議員タラサルヘカラサルヤ將タ終身議員タラサルヘカラサルヤ如何是レ亦上院ノ組織ニ關シ重大ナル一問題ナリトス

今日歐米各國ニ行ハル、所ノ制度ヲ觀察スルニ先撰舉ノ方法ヲ用ユル邦國ニ於テハ大率テ上院議員ノ任期ヲ若干年ニ限定セリ北米合衆國、白耳義、瑞典、那威、墨西哥及ヒボリヅガト國ノ如キ是ナリ又佛國ノ如キハ曾テ千八百七十五年ノ憲法ニ於テハ上院議員三百人ノ中二百二十五人ハ其任期ヲ九年トシ自餘ノ七十五人ハ終身議員ト爲シタリシカ其後千八百八十五年憲法改正ノ際ニ至リテ終身議員ノ制度ヲ全廢セリ又西班牙及ヒ丁抹國ノ如キハ尙ホ上院議員ノ一部分ノミ任期ヲ若干年ニ限定セリ次ニ上院議員ヲ撰定スルニ君主ノ任命又ハ法律ノ指定ヲ以テスル邦國ニ於テハ或ハ世襲議員ノ制度ヲ採リ或ハ終身議員ノ制度ヲ用ヒタリ而モ上院ヲ組織スルニ全ク世襲議員ノミヲ以テシ又ハ終身議員ノミヲ以テスルカ如キハ絶テ之ナク孰レモ此等數種ノ方法ヲ混用セリ諸君

モ知ラル、カ如ク英國ノ上院ハ純然タル貴族院ニシテ即チ英蘭蘇格蘭及ヒ愛蘭ノ三貴族ヲ以テ組織シ而シテ其大部分ヲ占ムル所ノ英國ノ貴族ハ總テ世襲議員タリ又蘇格蘭ヨリ出ツル議員ハ下院議員ト其任期チ同フシ(同國下院議員ノ任期ハ七ケ年トス然レトモ實際七ケ年間繼續シタル下院ハ甚タ罕ナリト云フ)愛蘭ヨリ出ツル議員ハ總テ終身ナリトス

右ノ外普魯西、奧太利及ヒ匈牙利等ノ諸國ニ於テハ上院議員ノ一部分ノミ世襲ノ制度ヲ用ヒタリ又終身議員ノ制度ハ伊太利、西班牙、葡萄牙、丁抹等其他概チ立君國ニ於テハ少クモ上院議員ノ一部分ニ付テ此制度ヲ用ヒタリ又佛國ニ於テモ會テ千八百三十年ノ憲法ニテハ此終身議員ノ制度ヲ採用シタリキ

今日歐米各國ニ行ハル、所ノ實況其レ斯ノ如シ今ヤ理論上ヨリ觀察ナ下シ此等數種ノ方法ノ利害得失果シテ如何世襲議員制ハ弊害多クシテ毫モ利益ナキカ終身議員制ノ利害如何又議員ノ在職期間チ若干年ニ限定スルノ得失如何請フ以下此等ノ點ニ付キ聊カ研究セン

先ツ世襲議員制ノ利害ヲ論センニ今ツレ豐富ナル貴族ヲ以テ世々上院ノ議員

タラシムルハ未タ必スシモ有害無益ノ制度ナリト速斷スル能ハサルナリ諸君モ夙ニ知ラル、カ如ク現ニ英國ニ於ケル上院ノ如キハ數百年間世襲議員ノ制度ヲ用ヒ來レリ然ルニ上院議員中有爲ノ人物決テ少ナシトセス如何ナル時代如何ナル性質ノ内閣ト雖トモ多少上院議員之カ椅子ヲ占ム是レ必ス其原因ナクンハアラス

凡ソ衆庶黎民ノ上ニ立チ以テ國家ノ政機ヲ運轉スルハ實ニ容易ノ業ニ非ザルナリ蓋シ有爲ノ政治家タランニハ雷ニ機敏ナル才能該博ナル學識アルヲ以テ未タ足レリトセス才能學識アル上ニモ尙ホ不羈獨立ノ氣象ト公平無私ノ眼孔トチ具有セサルヘカラス然ルニ人苟モ斯ノ不完全ナル人類社會ノ一分子タル以上ハ如何ニ才學兼備ノ士ト雖トモ充分ニ資産ヲ有セサルニ於テハ時ニ或ハ不清不潔白ノ行爲アルヲ免レ難ク是レ唯今世ニ於テ然ルノミナラス昔時ニ在テモ亦其例ニ乏シカラサル所ナリ先哲曰ハズヤ無恒産者無恒心ト亦以テ千古淪ル無キ金言ト謂フヘシ

且ツソレ有爲ノ政治家タランハ歲月ノ久キ間高等ナル學科ヲ研究シ又諸國ニ

周歷シテ各國政治社會ノ實況等ヲ熟察シ以テ鞠躬盡瘁身ヲ國事ニ委テ得ルノ餘裕ナカルヘカラス而シテ此ノ如キハ資産乏シキ輩ノ得テ企テ及フ所ニアラサルナリ然ルニ今若シ豐富高貴ノ一種族ヲ以テ世々國家ノ政治ニ干與セシムルノ制度ヲ設クルニ於テハ乃チ斯業ノ教育ヲ受ケ敏腕有爲ノ良政治家ヲ養成スルコトヲ得ヘシ是レ英國等ノ如キ世々貴族ヨリ有名ナル政治家ノ出ツル所以ニシテ此等ノ事實ニ徴シテ考察スレハ政治家タルノ性質モ亦一種ノ遺傳トモ謂フヘキニ似タリ

右ハ貴族ヲ以テ世々上院ヲ組織スヘシト主張スル政治家學者等ノ論據トスル所ニシテ此說タル現ニ諸君モ聞知セラル、ナラン近世佛國ニ於テ英傑ト稱セラル、夫ノチエール、ギグーガ千八百三十年頃路易非立第一世ノ憲法ヲ制定スルニ際シ熱心ニ唱道セシ所ナリ

世襲議員制ノ利益トスル所其レ斯ノ如シト雖トモ其弊害モ亦決シテ尠少ナラサルナリ英國ノ如キ貴族組織ノ確然タル邦土ニ在テハ或ハ前述ノ如キ好結果ヲ見ルヲ得ヘシ然レトモ如何ナル邦國ニ至リテモ亦必スシモ然リト斷言スル

能ハサルナリ曾テ述フルカ如ク元ト上院ハ下院ノ失策ヲ矯正シ且ツ其專恣ヲ防禦センガ爲メニ設クルモノナルカ故ニ上院ハ可及的全國中各下院議員ヨリモ學識經驗ニ富ミ最モ優等ナル人物ヲ以テ組織セサルヘカラス然ルニ今若シ世襲貴族ヲ以テ之カ議員タラシメンカ甚タ不安心タルヲ免レス何トナレバ必ス貴族ヨリ世々有爲ノ人物出ツルヤ否ヤ是レ固ヨリ保スヘカラスサレハナリ且ツソレ英國ノ如キ貴族中常ニ自由黨アリ急進黨アリ又保守黨アル所ニ在テハ世襲貴族ヲ以テ上院議員ト爲スモ亦敢テ妨ケナシト雖トモ通常一種族ヲ以テ世襲議員ト爲ス曉ニハ彼輩國民全般ノ利害ヨリモ寧ロ自家ノ利害ニ汲々トシ爲メニ國利民福ニ反スルノ政略ヲ絶スコトナキニ非ス否此ノ如キハ歴史ニ徴シテ往々見ル所タルヲ奈何セシ

次ニ終身議員制ノ利害ヲ論センニ君主ノ任命ニ依テ議員ヲ撰定スル邦國ニ在テハ上院議員ノ在職期間ヲ終身ト爲スハ甚タ利益アル制度ナリト謂ハサルヘカラス若シ其レ然ラサルニ於テハ議員ノ地位ヤ實ニ不安全ニシテ之ヲ詳言スレハ若シ斯々ノ演說ヲ爲サハ或ハ免黜セラル、コトアラシ若シ斯々ノ投票ヲ

(憲法)

爲サハ恐ラクハ次期ノ國會ニ議員ノ椅子ヲ占ムルコトヲ得サラン杯ト云ヘルカ如キ畏怖心ヲ抱カン果シテ斯ノ如クンハ議員ニ最モ緊要ナル不羈獨立ノ精神何ヲ以テ維持スルコトヲ得ンヤ固ヨリ數多キ議員舉テ然リト云フヘカラサルモ是レ亦不完全ナル人類社會ニ在テハ得テ免ルヘカラサル情弊ナリト謂フヘシ且ツ其レ在職期間ヲ終身ト爲スニ於テハ議員タルモノ乃チ其終身國政ニ參與スルノ特權ヲ有スルヲ以テ拮据黽勉身ヲ國事ニ委テ專ラ斯業ニ從フヘシ是レ君主ノ任命ニ依テ議員ヲ撰定スル國ニ在テハ其任期ヲ終身ト爲スハ大ニ利益アリト謂ヒシ所以ナリ

然リト雖トモ唯終身議員制ノ弊害トスル所ハ若シ君主ノ撰任其宜キヲ得サラソカ國民ハ永久不適當ナル上院議員ヲ戴カサルヘカラス且ツ斷陳代謝スル無キカ故ニ常ニ世ノ進歩ト伴隨セサルコト即チ是ナリ斯ノ制度ノ弊害ト謂フヘシ

以上、上院ノ組織ニ關シ歐米各國ノ實況及ヒ學理上ヨリ生スル二三ノ問題ニ付キ大略之ヲ研究シ了レリ

(第十五回)

本邦貴族院ノ組織

今ヤ眼ヲ轉シテ我邦ノ上院即チ貴族院ノ組織如何ヲ見ントス我貴族院ノ組織ニ關スル原則ハ載セテ憲法第三十四條ニアリ該條ニ曰ク

貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

ト而シテ貴族院令第一條ニ依レハ乃チ貴族院ハ左ノ五種ノ議員ヲ以テ組織スルモノトス

- 一 皇族
- 二 公侯爵
- 三 伯子男爵各其同爵中ヨリ撰舉セラレタル者
- 四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者
- 五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付キ多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互撰シテ勅任セラレタル者

右列記セル中前二種ノ議員ニ付テハ特ニ論スヘキコトナク唯此二種族ハ所謂

(憲法)

世襲議員ナリト云ハソノミ而シテ後三種ノ議員ハ其任期有爵互撰議員ハ七年勅撰議員ハ終身又多額納稅議員ハ七年ナリトス是レ我貴族院組織ノ大要ナリ今ヤ之ヲ歐米諸國ノ實例ニ比シ又學理ニ照スニ我貴族院ノ組織ニ付テモ猶ホ歐米諸國ニ於ケルカ如ク數種ノ方法ヲ混用セルモノト謂ハサルヘカラス即チ我貴族院ハ英國ニ於ケルカ如ク或ハ世襲議員アリ或ハ撰舉ニ出ツル有期議員アリ又西班牙及ヒ伊太利國等ニ於ケルカ如ク君主ノ任命ニ依レル終身議員アリト知ルヘシ

又斯ノ組織ニ由テ我憲法ノ精神ヲ案スルニ乃チ我貴族院ハ古來國家ニ勳勞アリタル或ル種族及ヒ今日國家ニ勳勞アル者又ハ學識アル者ヲ以テ組織シ且ツ之ニ加フルニ國家ノ一大元素タル資産家ヲ以テスルニ在リ故ニ其組織ノ全体ヨリ觀察スレハ有爵議員ヲ以テ古來國家ニ勳勞アリタル者ヲ代表セシメ勅撰議員ヲ以テ今日國家ノ勳勞者及ヒ學識家ヲ代表セシメ又多額納稅議員ヲ以テ國家ノ財本ヲ代表セシムルノ精神ニ出テタルモノ、似シ之ヲ要スルニ我貴族院ハ所謂全國最優等ノ人物ヲ以テ組織スルモノニシテ此

種ノ方法ハ業既ニ今日ニ至ルマテ歐米諸學者ノ論議セシ所ナリ又余カ前既ニ一言シタルカ如ク議員ノ撰定ヲ君主ノ任命ニ委ヌルトキハ爲メニ不羈獨立ノ氣象ニ乏シク時ノ權門家ニ阿諛スルカ如キ弊害生シ易キヲ以テ我貴族院令ニ於テハ勅撰議員ニ限り終身制ヲ採用セリ立法者カ注意ノ周到ナル亦以テ其一班ヲ親ヒ知ルニ足ル

然リト雖モ右ノ組織ハ果シテ今日我邦ノ情勢ニ適當ナルヤ否ヤ曾テ余カ述ヘタル如ク蓋シ上院ヲ設クルノ目的ハ一方ニ於テハ行政部ノ行爲ヲ監督シ他ノ一方ニ於テハ下院ノ失策ヲ矯正スルニ在リ既ニ上院ヲ設クルノ目的果シテ此ニ在リトセハ今日我邦貴族院ノ組織ハ乃チ能ク斯ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘキヤ否ヤ余輩甚タ疑ヒナキ能ハサルナリ

先ツ我貴族院議員ノ過半數ヲ占ムル所ノモノハ所謂有爵者是ナリ然ルニ今日我邦有爵者ノ實狀果シテ如何我邦ノ有爵者ハ高貴豊富ナルト共ニ眞個ノ政治家ヨリ立法者タルノ技倆見識ヲ具フルヤ此點ニ付テハ余輩啞然亦敢テ論辨ヲ試ミサルヘシ

次ハ勅撰議員是ナリ此勅撰議員中ニハ或ハ學識經驗ニ富ミ或ハ國家ニ勳勞アル者アラシ然リト雖トモ余私カニ憶ヘラク勅撰ノ方法ヲ以テ果シテ有爲ノ人物ヲ網羅シ盡スコトヲ得ヘキヤ否ヤ是レ甚タ疑ヒナキニアラス

又國家ノ財本ヲ代表セシメンカ爲メニ多額納稅者中ヨリ若干數ノ議員ヲ撰出スルノ制度ヲ用ヒタリ然リト雖トモ此制度タル果シテ我國情ニ適セルヤ否ヤ歐米諸國ニ於テハ資産家ニシテ學識經驗ヲ兼備セル者多キヲ以テ此種ノ制度ヲ設クルモ或ハ然ルヘキ好人物ヲ得ルコトアラシ而モ我國ノ實況或ハ祖先傳來ノ財産ヲ守リ或ハ一世巨萬ノ財産ヲ獲シ者ニシテ一國ノ政治家立法者ニ任シ一方ニ於テハ行政部ノ行爲ヲ監督シ又他ノ一方ニ於テハ衆議院ノ失策ヲ矯正シ得ルニ足ル有爲ノ人物此富豪家中果シテ幾人カアル是レ亦層一層疑ヒナキニアラサルナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ我貴族院ノ組織ハ或ハ現時我邦ノ實狀ニ適セサルヤノ感ナキ能ハス余ハ今日諸君ニ向テ貴族院組織ノ改正案ヲ提出スルノ場合ニモ非ス且ツ亦敢テ之ヲ述フルヲ欲セス然リト雖トモ今若シ余輩ノ希望スル所ヲ言

自撰投票ノ効力

ハシメハ余ハ應ニ謂ハントス有爵議員及ヒ勅撰議員ノ數ヲ減少シ之ニ代フルニ國民中ヨリ其公撰ヲ以テスル所ノ議員ノ數ヲ增加スヘシト而シテ其増減ノ數如何及ヒ公撰ノ方法如何等ノ如キ點ニ至テハ茲ニ辯セス今ハ唯上院組織ニ關シ余ノ希望スル所ヲ告クルニ止メテ以テ諸君ノ參考ニ供スルノミ

(第十六回)

我貴族院ノ組織ニ關シテハ種々論究スヘキモノアレトモ茲ニ悉ク之ヲ盡スナ明ニ唯昨年ノ初會期ニ於テ生シタル夫ノ有名ナル自撰投票ノ問題ニ付キ聯カ所見ヲ陳ヘントス

諸君モ知ラルカ如ク曩日貴族院ニ於テハ自撰投票ヲ以テ無効ナリト議決セリ此議決ハ果シテ貴族院令ノ明文ヲ正當ニ解釋セシモノナリヤ又其精神ト適合セルモノナリヤ蓋シ此問題ニ付キ貴族院ニ於テハ種々ノ論議アリシカ其中最モ勢力ヲ得タルモノハ穂積陳重君ノ法理論及ヒ加藤弘之君ノ道德論是ナリ余ハ貴族院ノ議決ニ正反對ノ意見ヲ抱持スルモノナルヲ以テ以下兩君ノ說ヲ駁撃セント欲ス而シテ先ツ穂積君ノ說ヲ辯駁センニ同君カ自撰投票ヲ以テ無

效ナリトセラル、論據ハ要スルニ左ノ二點ニ在ルモノ、如シ何ソヤ互撰ナル文字ノ解釋及ヒ代表ノ原則ニ違反スト謂ヘルコト是ナリ

第一論據 穂積君曰ク今ソレ互撰ナル文字ヲ最モ平易ニ解釋シ何人モ先ツ思想ニ浮フ所ノモノハ互ニ他人ヲ撰フノ意ニシテ決シテ自分ヲ撰フノ義ニアラス若シ然ラスト唱フル者ハ是レ未タ法理ノ何物タルヲ解セサル未熟専門家流ノ言ノミ固ヨリ取ルニ足ラサルナリト

余ハ姑ク君ノ所謂未熟専門家流ノ一人ト爲リ試ミニ君ノ説ニ反對セン貴族院令ニ所謂ル互撰ナル文字ハ抑モ如可ナル意義ヲ有スルヤ我邦現行ノ法律規則中互撰ナル文字ヲ用ユルモノ一ニシテ足ラス議院法第四條第二十一條第六十條及ヒ貴族院成立規則第五條第七條等ノ如キ是ナリ今此等數條ニ付キ互撰ナル文字ノ意義見ルニ孰レノ場合ニ於テモ撰フ權ヲ有スル者ハ亦撰ハル權ヲ有スルトノ意ヲ示スニ過キス換言スレハ一人ニシテ撰舉人タリ及ヒ被撰人タルノ權利ヲ有スルノ意ヲ示スモノトス而シテ貴族院令第一條ニ用ユル所ノ互撰ナル文字モ亦全ク之ト同一義ニシテ同條ハ即チ各府縣ノ多額納稅者十五

人ハ各撰舉人タリ被撰人タルノ資格ヲ有スル旨ヲ規定シタルモノナリト云ハサル可カラス此点ニ付テハ彼レ反對論者ト雖トモ恐ラクハ異議ヲ唱フルコト能ハサルヘシ

其斯ノ如ク互撰ナル文字ハ撰舉權ヲ有シ且ツ被撰權ヲ有スルモノナリトノ意義ニ解釋センカ自撰投票ノ有效ナリヤ將タ無効ナリヤハ多辯ヲ竣タスシテ明カナラン蓋シ撰舉權ノ貴重ナルコトハ衆人ノ認許スル所ナリ而シテ投票ナルモノハ乃チ此貴重ナル撰舉權ノ實行ナリ既ニ投票ヲ以テ撰舉權ノ實行ナリトセハ之ヲ無効ト爲サンニハ必スヤ法律ノ規定ナカルヘカラス然ルニ貴族院令及ヒ其他ノ法律ニ於テ此種ノ投票ヲ無効ト爲スノ明文アルカ否斯ノ如キ明文アルコトナシ既ニ明文ナキ以上ハ決シテ之ヲ無効ト爲スヲ得サルヤ理ノ當サニ然ルヘキ所ナリ

穂積君ハ之ヲ難シテ曰ク是レ反對推理ノ論法ナリ反對推理ノ論法ハ甚タ危険ニシテ若シ此種ノ論法ヲ濫用スルトキハ往々誤謬ヲ生スルコトアリ故ニ此説敢テ從フヘカラスト實ニ君カ言ノ如ク反對推理ノ論法ハ法律ノ條文ヲ解釋ス

ルニ當リ濫リニ用ユヘキニ非ス殊ニ法律ノ原則ニ反スル場合ニ於テ之ヲ用ユルトキハ甚タ危險ナリ然レトモ反對推理ノ論法ヲ用ヒ法律ノ原則ヲ適用スルノ便ニ供スルトキハ之ヲ用ユルモ毫モ妨ケアルコトナシ然ルニ本問題ノ場合ニ於テ法律ノ原則ハ何ニアルヤ正當ノ資格アル撰舉人ノ爲シタル投票ハ之ヲ以テ有効ナリトナスニアルカ又ハ無効ナリトナスニアルカ貴族院令ト云ヒ衆議院議員撰舉ト云ヒ孰レモ正當ナル資格アル撰舉人ノ爲シタル投票ヲ以テ有効ナリトナスヲ以テ其ノ原則トナシ無効ナリトナスヲ以テ例外トナス果シテ然リトセハ自撰投票ノ有効無効ヲ論スルニ當リテ反對推理ノ論法ヲ用ユルモ何ノ不可カ之アランヤ故ニ曰ク貴族院令ハ自撰投票ヲ以テ無効ナリト明言セサルヲ以テ之ヲ有効ナリト斷定セサル可カラスト若シ我立法者ノ精神互撰ノ場合ニ於テ自撰投票ヲ以テ無効ト爲スニ立ランカ必スヤ之ヲ明言セシナラザルニ當ニ其明文ナキノミナラス却テ暗ニ之ヲ有效ト認ムルノ規定アリ貴族院成立規則第五條ノ如キ是ナリ同條ニ依レハ「全院委員長ノ撰舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ云々」トアリ「全院委員長ヲ撰舉スルハ即チ互撰ニ依ル故ニ若シ立法

者ノ精神、自撰投票ヲ以テ無効ト爲スニ在ランカ必スヤ記名投票ヲ用ヒサルハカラス然ラスンハ其投票者ノ氏名ヲ知ル能ハス隨テ自撰投票ナリヤ否ヤヲ審查スル能ハサレハコトナリ之レニ由テ之ヲ觀レハ立法者ノ意益ヲ知ルヘキナリ之ヲ要スルニ余カ解釋スルカ如ク互撰ナル文字ハ一人ニテ撰舉權及ヒ被撰權ヲ併有スルノ意ヲ示ス爲メニ用ヒタルモノトスレテ法律ノ明文ヲ以テ自撰投票ヲ無効ト爲サ、ル以上ハ其投票ハ總テ有效ナリト斷定セサルヲ得ス

第二論據 穂積君又曰ク多額納稅者ノ撰舉人所謂ル代表撰舉ニシテ適任撰舉ニ非ラス然ラハ則チ自分カ自分ヲ代表スルカ如キハ理ニ於テ爲シ能ハサル所ナリ故ニ自撰投票ハ無効ナリト而シテ君ハ代表撰舉ナリトナスノ理由ヲ聞クニ曰ク我立法者ノ精神タル多額納稅者十五人中一人ノ當撰議員ヲシテ財產ヲ代表セシメンカ爲メナリ決シテ其一人カ政治家タリ立法者タルニ適當ナル人物トシテ之ヲ撰出セシムルノ意アルニアラス是レ此撰舉ヲ適任撰舉ニ非スシテ代表撰舉ナリト謂フ所以ナリト

穂積君ノ言ニ依レハ多額納稅議員ノ撰舉ノ代表撰舉タル所以ノモノハ當撰議

員ヲシテ財産ヲ代表セシムルカ爲メニシテ撰舉人其人ヲ代表スル爲メニアラサルカ如シ果シテ然リトセハ余ハ何故ニ自撰投票ノ無効ナルヤヲ發見スル能ハサルナリ若シ撰舉人其人ヲ代表セシムルノ目的ナリセハ自分ニテ自分ヲ代表スル能ハストノ議論或ハ生シ得ヘシト雖モ既ニ撰舉人其人ヲ代表セシムルニアラスシテ唯其財産ヲ代表セシムルニ過キサルモノトセハ之ニ代理ノ原則ヲ適用スル能ハサルヤ論ヲ俟タヌシテ明カナリ

今穂積君ニ一步ヲ譲リ多額納税者ノ互撰ヲ以テ代表撰舉ナリト假定スルモ尙ホ自撰投票ヲ無効トスルヲ得ス多額納税者十五人ノ中一人ヲ撰出シ其一人ハ乃チ撰舉人ヲ代表スルモノナリトセハ當撰議員ハ必スヤ撰舉人ノ全數即チ十五人ノ代表者タラサルヘカラス然ルニ今若シ自撰投票ヲ以テ無効ナリトセンカ當撰議員ハ撰舉人中十四人ナラテハ代表セス切言スレハ撰舉人中ノ一人ハ代表セラレサルニ至ラン法律ノ明文ナクシテ豈ニ此ノ如キ結果ヲ生ゼシムルコトヲ得ンヤ

之ヲ要スルニ一人ニシテ法律上二個ノ資格ヲ併有スルトキハ常ニ其所爲ヲ別

個ニ觀察シ以テ正否ヲ判定セサルヘカラス詳言スレハ一人カ撰舉人トシテ爲シタル所爲ハ果シテ他ノ撰舉人カ爲シタル所爲ト同一ノ條件ヲ具備スルヤ否ヤヲ觀又被撰人トシテ爲シタル所爲モ果シテ他ノ被撰人カ爲シタル所爲ト同一ノ條件ヲ具備スルヤ否ヤヲ察シ以テ其所爲ノ有效ナルヤ將タ無効ナルヤヲ判定セサルヘカラス試ミニ想ヘ一人ノ松方伯ニシテ總理大臣タリ又大藏大臣タルカ如ク又一人ノ蜂須賀侯ニシテ東京府知事タリ又東京市民タルカ如キ時ニ自分ヨリ自分ニ請願シ且ツ自分カ自分ニ許可スルカ如キ奇觀ヲ呈スルコトアリト雖トモ法律上ニ於テハ各其資格ヲ異ニスルカ故ニ此ノ如キ事アルモ決シテ怪ムニ足ラサルナリ互撰ニ於ケルモ亦然リ一人ニシテ撰舉人タリ且ツ被撰人タルノ資格ヲ併有スルモノナルヲ以テ其所爲ノ有效無効ヲ論スルニハ須ラク視線ヲ両面ニ注キ各別ニ之ヲ判定スヘシ斯ク詮シ來ラハ自撰投票ノ無効ニ非サルコト此ニ至テ了然タラン

次ニ加藤君ノ道徳論ヲ辨駁センニ道徳上ヨリ論スルモ自撰投票決シテ罪スヘキモノニ非ス蓋シ代議政体ノ治下ニ在テハ各人苟モ自己ヲ以テ代議士タルニ

適當ナリト信スルニ於テハ自ラ進ンテ候補者ト爲リ手ニ唾シテ撰舉場裡ニ臨ミ以テ中原ノ鹿ヲ爭フカ如キ氣象アルニ非スンハ眞正ナル代議政体ノ實行ヲ見ル能ハサルナリ故ニ區々タル謙遜退讓ハ却テ其徳ニ非ス且ツ其レ自撰投票ヲ以テ道德ニ背クモノナリトセンカ自ラ進ンテ候補者ト爲ルカ如キモ既ニ背徳ノ所業ト謂ハサルヲ得ス而モ袖手傍徒ラニ他人ノ推舉スルヲ待ツヘキカ愚モ亦太甚シト評スヘシ代議政体ノ世豈ニ斯ノ如クニシテ其レ可ナランヤ君カ嗚々セラル、道德論ノ如キハ固ヨリ齒牙ニ掛クルニ足ラサルナリ故ニ余復タ多ク辨セス

終リニ一言セン自撰投票ノ有效ナルヤ將タ無効ナルヤヲ論争スルニ最モ利益アル場合ハ他ナシ其一票ノ爲メニ當撰議員タルヲ得ルト否トニ關スル時はナリ尙ホ極言スレハ其一票ノ爲メニ政黨ノ盛衰主義ノ勝敗ニ關シ其結果一議案ノ法律ト成ルト否トノ點ニ至ルマテ波及スルモノトス自撰ノ一票貴重ナルコト其レ斯ノ如シ故ニ余ハ切望貴族院カ連カニ其議決ヲ改メ以テ自撰投票ノ有效ナルコトヲ表示センコトナ

(第十七回)

第二款 衆議院ノ組織

衆議院ノ組織

我衆議院ハ撰舉法ノ定ムル所ニ依リ各府縣ノ撰舉區ニ於テ公撰シタル三百ノ議員ヲ以テ組織セラル、モノナリ故ニ衆議院ノ組織ヲ詳論センニハ須ラク先ツ衆議院議員撰舉法ノ規定如何ヲ説明セサルヘカラス然レトモ今ヤ諸君ノ面前ニ於テ精密ニ之ヲ口述スルカ如キハ到底時間ノ許サ、ル所ナルヲ以テ余ハ唯撰舉法ノ中憲法ヲ研究スルニ最モ必要欠クヘカラサル點ノミニ就キ聊カ所見ヲ述フルニ止メントス

衆議院議員ノ撰舉ニ關シテ最モ重要ナル點三アリ何ソヤ曰ク撰舉人及ヒ被撰人ノ資格如何曰ク當撰者ヲ定ムルノ方法如何曰ク撰舉ノ區畫如何即チ是ナリ請フ今ヨリ之ヲ論セン

第一 撰舉人及ヒ被撰人ノ資格

其一 撰舉人ノ資格

(憲法)

撰舉人ノ資格

我衆議員撰舉法ニ依レハ撰舉人タルニハ左ノ條件ヲ備フルコトヲ要ス(同法第六條)

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齢滿二十五歳以上ノ者

第二 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍ホ引續キ住居スル者

第三 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍ホ引續キ納ムル者

但所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍ホ引續キ納ムル者ニ限ル

右ノ條件中其尤モ重要ナルモノヲ約言スレハ日本臣民滿二十五歳以上ノ男子ニシテ直接國稅十五圓以上ヲ納ムル者はナリ今ヤ此規定ヲ以テ現時歐米各國ニ行ハル、所ノ學説及ヒ其實例トニ對照シテ聊カ之ヲ論究センニ撰舉資格ニ關シ就中重要ナル問題ニアリ撰舉權ハ吾人天賦ノ權利ナルカ將タ一國ノ公民ニ屬スル職務ナルカ(佛語ニテ所謂 *Electant* 一ノ *Droit* ナルヤ將タ *Fonction* ナルヤ

撰舉權ハ吾人天賦ノ權利ナルカ將タ一國ノ公民ニ屬スル職務ナルカ

ノ問題はレナリ)及ヒ撰舉權ハ國民一般ニ附與スヘキモノナルヤ將タ一部ノ國民ニ制限スヘキモノナルヤ即チ是ナリ

第一問 撰舉權ハ吾人天賦ノ權利ナルカ將タ一國ノ公民ノ職務ナルカ

此問題ノ決定如何ニ因リ撰舉法全体ノ規定ニ實ニ大ナル影響ヲ及ボスモノトス今ソレ撰舉權ヲ以テ一個人ニ屬スル天賦固有ノ權利ナリトセンカ撰舉權ハ單ニ成年ノ男子ノミニ限ルヘカラス如何トナレハ男子タルト女子タルトヲ問ハス又成年者タルト未成年者タルトヲ論セス苟モ人類タル以上ハ等シク此權利ヲ有スルコト猶ホ恰モ結婚權若クハ所有權ニ於ケルト同一理タラサルヘカラサレハナリ而シテ若シ女子又ハ未成年者ハ此權利ヲ實行スルニ適當ナル能力ヲ有セストセハ宜シク其後見人ヲシテ之ヲ實行セシムヘシ決シテ女子タル未成年者タルノ故ヲ以テ此權利ヲ剝奪スヘカラサルナリ之ニ反シ撰舉權ヲ以テ一國ノ公民ニ屬スル職務ナリトセンカ立法者ハ適宜ニ制限ヲ設クルモ毫モ妨ケアルコトナシ何トナレハ國民中必スヤ其職務ニ堪ユル者ト否トノ別アルヘキヲ以テナリ

又撰舉權ヲ以テ一個人ニ屬スル天賦固有ノ權利ナリトセンカ此權利ノ享有者ハ私益ノ爲メニ隨意ニ之ヲ利用スルヲ得ヘキコト猶ホ財產ノ所有者ノ自己ノ隨意ニ其財產ヲ處分スルヲ得ヘキト同一ナルヘシ之ニ反シテ若シ撰舉權ヲ以テ公益ニ關スル一ノ職務ナリトセンカ立法者ハ其職務ノ區域ヲ定メ斯々ノ限度内ニ非サレハ之ヲ使用スルヲ得スト謂ヘルカ如キ制限ヲ附スルコトヲ得ヘキナリ

此他尙ホ撰舉權ヲ以テ一ノ權利ト認ムルト一ノ職務ト認ムルトニ因リ其結果トシテ種々ノ差異ヲ生スヘキモ其最モ重要ナル點ハ即チ右ノ如シ此二點ヲ以テモ既ニ之ヲ論定スルノ利益アルヲ見ルヘシ
撰舉權ヲ以テ人類天賦ノ權利ナリト主張スル論者ノ言ニ曰ク「主權ハ人民固有ノ權利ナリ而シテ代議士ヲ撰舉スルハ乃チ主權ヲ實行スル一ノ手段ニ過キス故ニ撰舉權ノ人類天賦ノ權利ナルコト明カナリ隨テ此權利ハ立法者ノ制定ヲ待テ後創メテ生スルモノニ非ス其以前既ニ存在シ憲法又ハ法律ハ單ニ既存ノ權利ヲ認定スルニ過キササルナリ」ト是レ其大要ナリ

撰舉權ヲ以テ一ノ公務ナリト主張スル論者ノ言ニ曰ク「凡ソ撰舉ノ目的トスル所ハ抑モ何ソヤ是レ他ナシ國家ノ大權ヲ實行スル一ノ政務機關タル議院ヲ組織スル爲メニ要スル所ノ人物(即チ議員)ヲ國民中ヨリ撰出セシムルニ在リ果シテ然ラハ撰舉權ハ立法者カ國民ニ附與シタル特別ノ權利ニシテ又一ノ公務ニ謂ハサルヘカラス何トナレハ是レ唯一個人ノ利益ヲ代表セシムルカ爲メニ非スシテ實ニ國家公益ノ爲メニ設ケタルモノナレハナリ隨テ撰舉權ハ公益ノ必要ニ應シ憲法又ハ法律ヲ以テ或ハ之ヲ國民一般ニ附與シ或ハ之ヲ一部ノ國民ニ制限スルヲ得ヘシ」ト是レ其要點ナリ

右第一說ハルソーニー派ノ學者ノ稱道スル所ニシテ又第二說ハ英國ノスチユアルトミル佛國ノラブローレー等ノ主唱スル所ナリ而シテ余ハ第二說ヲ以テ可ナリト信ス殊ニ我邦ノ如キ主權君主ニ在リトスル國體ノ下ニ在テハ撰舉權ヲ以テ人民固有ノ權利ト論スルヲ得ス實ニ衆議院ナル一ノ政務機關ヲ組織スル爲メニ憲法法律ヲ以テ特ニ國民ニ附與シタル權利ナリト謂ハサルヘカラス
第二問 撰舉權ハ國民一般ニ附與スヘキモノナルカ將タ一部ノ國民ニ制限

撰舉權ハ
國民一般
ニ附與ス
ヘキモノ
ナルカ將
タ一部ノ
國民ニ制
限スヘキ
モノナル
カ

スヘキモノナルカ

百二十三

此問題ハ前第一問ト實ニ密着ノ關係ヲ有ス即チ若シ第一說ノ如ク撰舉權ヲ以テ人民天賦ノ權利ナリト謂ハンカ必スヤ國民一般ニ撰舉權ヲ附與セサルヘカラス否之ヲ剝奪スヘカラサルナリ然レトモ又第二說ニ從ヒ撰舉權ハ國家公益ノ爲メニ憲法、法律ヲ以テ特ニ國民ニ附與セル所ノ權利ナリト認ムルトキハ之ヲ國民一般ニ附與スルモ又一部ノ國民ニ制限スルモ固ヨリ施政上ノ便宜ニ出ツルモノナルヲ以テ理論上之ヲ左右スルヲ得サルナリ蓋シ今日各國ノ撰舉法ヲ通觀スルニ其撰舉資格ニ於ケル規定ノ甚々區々タルハ職トシテ此等ノ事情ニ由ルナラン

然リト雖トモ今ヤ代議政體ノ行ハル、諸國ノ實況ニ徴シ經驗上ノ看察ヲ下ストキハ彼此ノ間自ラ利害ノ存スル所アルヲ發見スヘシ是故ニ余ハ一應普通撰舉及ヒ制限撰舉ノ可否ヲ研究スルハ甚々利益アリト信スルヲ以テ聊カ之ヲ論セントス其前諸君ニ豫メ現今歐米諸國ニ行ハル、所如何ヲ一言セン是亦無要ノ業ニ非サルヘシ

普通撰舉ノ行ハル、國ハ歐州ニ在テハ極メテ少數ニシテ今余ノ記憶スル所ニ依レハ單ニ獨逸帝國、佛蘭西、噠馬、希臘、瑞西ノ五國ニ過キス此他ハ皆制限撰舉ヲ用ユ

制限撰舉ヲ用ユル國ニ於テハ大概チ納稅額ニ由テ撰舉權ヲ制限シ且ツ其納稅額ハ直接國稅ヲ以テ基礎トセリ今二三ノ例ヲ舉クレハ白耳義ハ四十二フラン(凡我)ク三十二サンチム(凡我)伊太利ハ十九リール(凡我)九圓(凡我)西班牙ハ二ポンド(凡我)五圓(凡我)澳太利ハ五フロリン(凡我)二十錢(凡我)等是ナリ此他英吉利及ヒ獨逸聯邦ハ如キ種々ノ規定アレトモ茲ニ枚舉セス

又納稅ノ外尙ホ文字ヲ解シ得ルヲ以テ一條件ト爲セル國アリ伊太利及ヒ伯西ノ如キ是ナリ但伯西ハ未タ王國時代ニ於ケル事ナレトモ今日ハ既ニ共和國ト爲リシヲ以テ撰舉法ノ如キモ自然改正ヒシナルヘシ此他或ル學位ヲ有シ若シハ幾年間或ル公務ニ從事シタル者ハ納稅ノ條件ヲ要セス當然撰舉人タルノ資格ヲ有スル制度ヲ用ユル國アリ西班牙及ヒ葡萄牙ノ如キ即チ是ナリ

亞米利加ノ諸共和國ニ在テハ一般ニ普通撰舉ヲ用ユ但北米合衆國ノ或ル州ニ

(意) 法

百二十三

於テハ多少制限撰舉ヲ行フト云フ

(第十八回)

普通撰舉
制限撰舉
利害得失

諸君ハ既ニ普通撰舉及ヒ制限撰舉ノ何モノタルコト並ニ現今各國ニ行ハル、所ノ實例如何ヲ了知セラレタルナラント信スルヲ以テ余ハ是ヨリ進ンテ普通撰舉及ヒ制限撰舉ノ利害得失ニ付キ聊カ論述セントス

先ツ普通撰舉ヲ主張スル論者カ論據トスル所ヲ聞クニ乃チ曰ク凡ソ立法者カ國民ニ撰舉權ヲ附與スル所以ノモノハ抑モ何ンヤ憶フニ被治者ヲシテ立法事業ニ參與セシメ併セテ治者ノ行爲ヲ監督セシムルノ意ニ外ナラス若シ果シテ然ランカ可及的國民一般ニ撰舉權ヲ附與セサルヘカラス何トナレハ被治者ハ悉ク立法者事業ニ參與スルニ付キ又治者ノ行爲ヲ監督スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スルヲ以テナリ彼レ制限撰舉ヲ主張スル論者ハ撰舉人ノ資格ヲ制限スルニ或ハ納税額ノ多寡ヲ以テシ或ハ教育程度ノ高低ヲ以テスルモ此等ノ制限タル甚タ專斷ナル定メ方ト謂ハサルヘカラス如何トナレハ其制限ノ標準トスル所ハ決シテ確乎タルモノト爲スニ足ラサレハナリ

今日制限撰舉法ノ行ハレツ、アル國ニ於テ最モ一般ニ用ヒラル、所ノモノハ納税額ニ因テ撰舉資格ヲ定ムルニ在リ現ニ我邦ノ如キモ直接國稅十五圓以上ヲ納ムル者ヲ以テ撰舉人ト爲セリ然ルニ納税額ヲ以テ制限ト爲ストキハ其標準ノ定メ方ニ至リテモ亦甚タ曖昧タルヲ免レス看ヨ我立法者ハ何故ニ其制限ヲ十五圓ト爲シタルヤ直接國稅ヲ十五圓納ムル者ト十四圓九十九錢納ムル者トノ間其能力ニ付キ果シテ如何ナル差異アルヤ是レ實ニ專斷ナル定メ方ニ非スシテ何ゾヤ前回既ニ述フルカ如ク制限ノ程度ハ國々ニ因テ千種萬様ナリト雖トモ孰レノ國ノ標準ニ付テモ亦右ノ如キ批評ハ決シテ免レ難キ所ナリ納税額ヲ以テ標準ト爲スノ非ナルコト其レ斯ノ如シ

右ト伴シク伊太利ノ如キ教育ノ程度ヲ以テ標準ト爲シタル國ニ付テモ亦同一ノ批評ヲ下スコトヲ得ヘシ前既ニ一言シタルカ如ク伊太利其他一二ノ國ニ於テハ撰舉人タルニハ必ス讀書ヲ得ルヲ要スト定メタリ然レトモ實際或ハ讀書ヲ得サルモ尙ホ代議士ヲ撰舉スルノ能力ヲ有スル者アルヘク或ハ縱ヒ讀書ヲ得ルモ撰舉人タルノ能力ヲ有セサル者アルヘシ豈ニ之ヲ以テ撰舉人タルニ適

(憲法)

當ナルヤ否ヤヲ判別スルコトヲ得ンヤ
 又若シ反對論者ノ言フカ如ク納税額ノ多寡又ハ教育程度ノ高低ヲ以テ撰舉資格ヲ制限スルヲ要ストセンカ納税額ノ多寡又ハ教育程度ノ高低ニ因テ各撰舉人カ有スル投票ノ數モ亦隨テ増減セサルヘカラサルノ理ナリ尙ホ本邦ノ例ニ付テ之ヲ論セハ直接國稅十五圓ヲ納ムル者ハ撰舉人タルコトヲ得ルカ故ニ三十圓ヲ納ムル者ハ二個ノ投票ヲ有スヘキコト猶ホ恰モ株式會社ニ於ケル株主カ各其有スル株券ノ數ニ應シテ投票權ヲ有スルカ如ク多額ノ納税者ニハ多數ノ投票權ヲ與フルコト當サニ然ルヘキ所ナラン若シ其レ爾カセサランカ到底制限撰舉ノ論理ヲシテ貫徹セシムルコト能ハサルナリ然リト雖トモ如何ニ無謀ナル頑陋ナル彼レ制限撰舉ヲ主張スル論者ト雖トモ斯ノ如キ極点マテ擴及スルヲ肯ンセサルヘシ何トナレハ若シ斯ノ如クスルニ於テハ國家ノ權力舉テ財產家ノ手ニ歸スヘケレハナリ
 之ヲ要スルニ制限撰舉法ヲ用ユルトギハ其標準ヲ納税額ニ採ルニモセヨ將タ教育程度ニ依ルニモセヨ孰レモ專斷ナル規定タルヲ免レス不公平ナル結果ヲ

生スルニ過キスト是レ普通撰舉ヲ主張スル論者カ論據トスル所ノ大要ナリ
 次ニ制限撰舉ヲ主張スル論者カ論據トスル所ヲ聞クニ乃チ曰ク凡ソ人ニ貧富賢愚ノ別アルハ抑モ人世ノ免ルヘカラサル常態ナリト謂フヘシ然ルニ貧者富者賢者愚者ノ差別ナク之ニ同等ノ權利ヲ與フルハ甚タ解シ難キ所ナリ若シ其レ貧富賢愚ヲ混淆シ徒々頭數ヲ以テ國家ノ政治ヲ左右スルヲ得ンカ一國中貧者ハ富者ヨリモ多ク愚者ハ賢者ヨリモ多キカ故ニ所謂多數ノ壓制ニ由リ劣等ノ人物ヲシテ勢力ヲ有セシムルニ至ルヤ必然タリ斯ノ如キ結果ノ生スルハ決シテ國家ノ大計ニ非サルナリ實ニ撰舉權ハ國家ノ政治ヲ行フ一ノ機關一ノ要具ナリ果シテ然ラハ此權利ハ宜シク國家ノ政治ニ利害ノ關係ヲ有スル者ニ與ヘサルヘカラス又此權利ヲ實行スルニ適當ノ能力ヲ有スル者ニ與ヘサルヘカラサルナリ
 今若シ反對論者ノ言フカ如ク一般ノ國民ヲシテ悉ク撰舉權ヲ有セシムルトギハ國家ノ爲メニ甚タ危險ナリト謂ハサルヲ得ス如何トナレハ財產ナキ者ハ責任ノ思想ニ乏シク又國家ノ秩序ヲ重ンスルノ思想ニモ乏シキカ故ニ此等ノ無

責任者ニ選舉權ヲ與フルトキハ彼レ之ヲ實行スルニ當リ毫モ國家ノ公益ヲ顧
 ミス徒ラニ一己ノ私益ノ爲メニ左右セラル、ノ恐レアレハナリ是故ニ多少財
 産ヲ有スル者ヲ以テ選舉人ト爲サ、ルヘカラス又教育ヲ以テ選舉人ノ資格ヲ
 制限スルノ理ニ至リテモ亦同シ即チ教育ノ有無ハ事物ノ是非曲直ヲ判別スル
 ノ能力ニ大ナル差等ヲ生スルヤ亦爭フヘカラサル所ナリ勿論教育ナキ者ハ絶
 對的ニ是非曲直ヲ判別スルノ能力ナシト謂フヘカラスト雖トモ教育ハ以テ事
 物ノ判斷力ニ大ナル影響ヲ及ホスヘキヤ復タ多辨ヲ俟タスシテ明ナリ
 斯ノ如ク財産及教育ノ有無ハ責任ノ思想、事物ノ判斷力ニ大ナル影響ヲ及ホス
 ヘキモノタル以上ハ此等ノ原素ヲ以テ選舉資格ヲ制限スルハ一ノ標準ト爲ス
 モ決シテ不當ノ規定ニ非サルナリ又反對論者ノ辨難スルカ如ク財産又ハ教育
 ヲ以テ選舉資格ヲ制限スルトキハ其標準ヲ設クルニ方リ多少ノ專斷ニ涉ルノ
 譏リヲ免ル、能ハスト雖トモ元是レ人爲ニ出ツル事ハ到底絶對的ノ完美ヲ要
 ムヘカラサルヲ知ラハ此ノ如ク選舉法ニ多少ノ欠点アルモ豈ニ之ヲ以テ排斥
 セサルヲ得サルノ理アルヘケンヤト是レ制限選舉ヲ主張スル論者カ論據トス

ル所ノ大要ナリ

尙ホ此他普通選舉ニセヨ又制限選舉ニセヨ孰レモ種々ノ理由アレトモ上來述
 フル所ハ乃チ其論據ニシテ他ハ徒ダ之ヲ敷衍シタルニ過キス抑モ亦枝葉ノ議
 論タルノミ

夫レ斯ノ如ク普通選舉及ヒ制限選舉ノ二者共ニ各多少ノ理由アリ然リト雖ト
 モ今ヤ學理上ヨリ論スルモ又歷史上ヨリ考フルモ余ハ代議政体ノ發達其極度
 ニ達シタル曉ニハ必スヤ一般ニ普通選舉ノ行ハル、コト、信ス願ミテ今日ニ
 至ルマテ各國ニ於テ行ハレタル普通選舉ノ實蹟ニ付テ其利害得失ヲ觀察スル
 ニ普通選舉ノ弊害モ亦決シテ尠シトセス殊ニ其最モ大ナル弊害ハ普通選舉ノ
 行ハル、國ニ在テハ政体ノ變動甚タ激烈ナルコト是ナリ其然ル所以ノモノハ
 抑モ何ソヤ今之ヲ探究センニ凡ソ人民ナルモノハ道理ヨリモ寧ロ感情ニ制セ
 ラル、ノ傾向アリ隨テ是非曲直ヲ判斷スルノ違マナクシテ往々極端ヨリ極端
 ニ奔ルノ弊アリ請フ先ツ歷史上ノ事實ニ付テ之ヲ証明セン

諸君モ知ラル、カ如ク佛國ニ於テハ曾テ千八百四十八年ルウキフキリツプ王

ノ政府ヲ顛覆スルヤ爾來直チニ普通選舉法ヲ行ヒタルニ未タ數年ヲ出テスシテ奈翁第三世カ帝位ニ即クコト、爲レリ看ヨ若シ佛國ノ人民ニシテ當時道義心ニ因テ支配サレタルモノナランニハ僅々二三年前ニルツ井フサツ王ノ政府ヲ顛覆シ何爲テ其政府ヨリモ尙ホ一層太甚シキ壓制主義ヲ行フ所ノ奈翁第三世ノ説ヲ贊成スルカ如キ理アラシヤ然ルニ當時ノ實況ニ付テ之ヲ看レハ佛國人民ノ大多數ハ奈翁ノ新政府ヲ贊成スルノ意ヲ表セリ

又近年ノ事實ヲ舉クレハ彼ノ佛國武將軍騷動ノ如キ是レ最モ嗜易キ一例ナラシ人民ハ一時ノ感情ニ制セラレ唯、ブーランセーノ如キ奸黠ノ奴輩ヲ以テ國家ニ忠實ナル蓋世ノ英傑ナリト迷信シ到ル處之ヲ撰舉シテ其代議士ト爲スニ至リシカ是レ亦數句ヲ出テスシテ全ク反對ノ現象ヲ呈シタリ

此他普通選舉ノ一般ニ行ハレタル南米諸國ノ實例ニ徴ルスモ亦右ト同一ノ景狀アリ一世紀中屢バ政府ヲ顛覆シ數回ノ革命ヲ來スカ如キ是レ人民ヲ一團体トシテ通觀スレハ實ニ其一團体ハ道理ヨリモ寧ロ感情ニ制セラル、ノ傾向アルヨリシテ生スル所ノ結果ナリト云ハサル可カラサルナリ

斯ノ如ク代議政体ノ行ハル、國ニ於テ普通選舉ヲ用ユルトキハ種々ノ弊害殊ニ最モ厭フヘシ忌ムヘキノ弊害アルヤ今日マテノ史乘ニ徴シ決シテ蔽フヘカラサル事實ナリ然リト雖トモ前既ニ一言シタルカ如ク代議政体ヲ實行シツ、漸チ以テ發達スルニ隨ヒ勢ヒ普通選舉ヲ用ユルニ至ルヤ必然タラン是レ余ノ信スル所ナリ

先ツ理論上ヨリ論センニ苟モ代議政体ヲ以テ最良善美ノ政体ナリト假定スル以上ハ實ニ普通選舉ハ代議政体自然ノ結果ナリト謂ハサルヘカラス蓋シ代議政体ノ主眼トスル所ハ人民ヲシテ立法權ノ實行ニ參與セシメ且ツ治者ノ行爲ヲ監督セシムルニ在リ然ルニ立法權ノ實行ニ參與シ治者ノ行爲ヲ監督スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スルモノハ國民全体舉テ然ラサルハナシ換言スレハ國家ノ各分子タル個々ノ人民ハ總テ此等ノ点ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルモノナリ然ラハ則チ撰舉權ノ如キモ亦決シテ之ヲ制限スヘキノ理アラサルヲ知ラン彼レ制限撰舉ヲ主張スル論者ノ言ヘルカ如ク人ニ貧富賢愚ノ差別アルハ得テ免ルヘカラサル所ナリト雖トモ抑モ亦何ヲ以テ標準トシ其分界ヲ定ムルコトヲ

得ヘキヤ是レ甚タ至難ナル業ニシテ若シ強テ其分界ヲ定メント欲セハ勢ヒ專斷ニ陥ラサルヲ得ス是故ニ相對的ニ論スルトキハ尙ホ多少ノ弊害アルニ拘ハラズ寧ロ國民一般ニ撰舉權ヲ附與スルヲ以テ最モ公平ナル制ト謂フヘキナリ」次ニ歷史上ヨリ論スレハ普通撰舉ノ勢力殆ト當ルヘカラス何レノ國ニ於テモ代議政体ヲ實行シタル當初ニ在ツテヤ必ス多少ノ制限ヲ設ケタリト雖トモ爾來其制限ヲ減縮シ漸次普通撰舉ニ近ツキタリ今日尙ホ納稅額ヲ以テ撰舉資格ヲ制限セル國ニ在テモ之ヲ其國ニ於テ代議政体ヲ實行シタル當初ニ比スレハ其額大ニ輕少セルヲ見ル彼ノ英吉利ノ如キ世ニ有名ナル保守國ニ於テモ今世紀ノ首メヨリ既ニ三回ノ大改革ヲ斷行シ現今ニ至リテハ殆ト普通撰舉ト同様に光景ヲ呈セリ所謂三回ノ大改革トハ第一次ハ千八百三十二年第二次ハ千八百四十七年第三次ハ千八百八十四年ニ在リ其千八百三十二年ノ頃ニ至ルマテハ全國撰舉人ノ數僅カニ十萬ニ過キザリシカ最後ノ改革即チ千八百八十四年後ハ其數五百七十萬餘ト爲レリ此ノ如キ事蹟ニ徴シテ考察スレハ代議政体ヲ實行シツ、アル國ニ於テハ早晚普通撰舉ニ推遷スルノ勢ヒアリト謂フモ決シ

テ不當ノ言ニアラサルヲ知ラン
爾レハ我邦ノ如キニ在テハ果シテ如何余ノ見ル所ニ依レハ苟モ憲法政治ヲ實行シ來ル以上ハ猶ホ他ノ諸國ニ於ケルカ如ク撰舉權ハ漸次擴張セラレ竟ニハ普通撰舉ニ臻ルナラント是レ今日ヨリ豫言シテ太過ナキヲ信スル者ナリ然ルト雖トモ今日我邦ニ於テ普通撰舉ヲ行フノ利弊得失如何ニ至リテハ甚タ疑ヒナキニ非ス而モ是レ學理上ノ問題タランヨリモ寧ロ實際上ノ問題ニ屬スルヲ以テ余ハ茲ニ之ヲ詳論セサルヘシ

(第十九回)

其二 被撰人ノ資格

我撰舉法第八條ニ曰ク「被撰人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其撰舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ但所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル」此規定ニ依レハ我邦ニ於テハ撰舉人タル者ト被撰人タル者トハ略々同一ノ條件ヲ要シ唯年齡

被撰人ノ資格

(憲法)

ノ点ニ付キ彼ハ滿二十五歳以上此ハ滿三十歳以上タルノ差アルノミ
 年齢ノ点ニ付テハ何レノ國ノ法律ト雖トモ多少撰舉人タルト被撰人タルトノ
 間ニ差異ヲ設ケタリ是レ一般ノ通則ナリ然レトモ亦或ル國ニ於テハ彼此共ニ
 同一ナルモノアリ殊ニ有名ナル實例ハ英國ニ於テ夫ノフランクスピット等ノ
 如キ成年ニ達スルヤ否ヤ直チニ議員ニ當撰サレタリ就中福氏ノ如キハ十九歳
 ノ時既ニ當撰サレタルモ未成年ノ爲ニ議院内ニ入ルコトヲ得サリシト云フ今
 日英國ニ在テハ彼此ノ間年齢ニ差異ナキコト、記憶セリ
 又被撰資格ニ付テハ管ニ年齢ノ点ノミニ止マラス尙ホ他ノ條件ニ至リテモ往
 々撰舉資格ヨリモ嚴重ナルヲ以テ通則トス殊ニ納税額ノ如キモ各國ノ法律孰
 レモ之ヲ高マセリ但我國ニ在テハ彼此全ク同額ナリト知ルヘシ

今ヤ撰舉資格ト被撰資格トノ間ニ差異ヲ設クルノ可否果シテ如何先ツ理論上
 ヨリ論センニ余ハ決シテ差異ヲ設クルノ理ナシト信ス如何トナレハ若シ撰舉
 資格ニ付キ或ル條件ヲ設クルノ必要アリト認メ且ツ之ヲ設ケタル以上ハ撰舉
 人ハ議員ヲ撰舉スルニ十分ノ能力ヲ有スルモノト假定スヘク而シテ既ニ法律

ニ於テ撰舉權ヲ實行シ得ルノ能力アリト認定シタル以上ハ乃チ之ニ十分ノ自
 由ヲ與フルモ毫モ妨ケアラサルベケレハナリ又實際上ヨリ論スルモ納税額ノ
 如キハ殆ント有名無實ニ歸センノミ如何トナレハ若シ撰舉人ニ於テ必ス何某
 ヲ撰舉セント欲セハ其候補者ノ爲メニ宛モ納税セルカ似ク擬爲スルコトヲ得
 ヘケレハナリ現ニ我邦三百ノ議員中數十人ハ即チ此手段ニ因テ撰出セラレタ
 ルモノナリト聞ク故ニ余ハ信セリ若シ撰舉人タルノ條件ヲ設クルノ必要アリ
 テ既ニ之ヲ設ケタル以上ハ被撰資格ニ付キ殊ニ特別ナル條件ヲ設クルノ必要
 ナク且ツ之ヲ設クルニ於テハ倍ス撰舉ノ自由ヲ妨害シ而シテ毫モ其利益ナシ
 ト

尙ホ被撰資格ニ付テ論スヘキ点ニアリ何ソヤ曰ク官吏ノ議員タルコトヲ得ル
 ノ可否及ヒ拘留又ハ保釋中ニアル者ニ被撰人タルコトヲ禁スルノ可否即チ是
 ナリ請フ以下試ミニ之ヲ論セン

其一 官吏ノ議員タルコトヲ得ルノ可否如何一般ニ官吏モ亦議員タルコトヲ
 得ルトノ規定ハ歐洲ニ於テ曾テ行ハレ又或ル國ニ至リテハ現ニ今日行ハレツ

アル所ナリ而シテ之ヲ可トスルノ論者ハ乃チ曰ク「政府部内ニハ秀才有爲ノ人物アリ眞乎タル議員ニ最モ適當ナル能力ヲ有スル者アリ今其レ此等ノ者ヲシテ議員ト爲シ以テ立法事業ニ干與セシメナハ其利益抑モ亦大ナルニ非スヤ」ト是レ官吏ヲ以テ議員ト爲ス利益ノ主モナル所ナリ然リト雖トモ余ハ官吏ヲ以テ議員ト爲スノ規定ハ甚々其當ヲ失スルモノナリト信ス

本邦ノ如キ未タ代議政体ニ慣熟セス隨テ其弊害モ尙ホ十分ニ發達セサル時ニ在ツテヤ敢テ大ナル弊害ナキモ漸ク代議政体ノ運轉ニ巧妙ナルニ隨ヒ官吏ヲシテ議員タルヲ得セシムルトキハ實ニ太甚シキ弊害ノ生スルコトアリ是レ余ノ多辨ヲ俟タス諸君ノ夙ニ了察セラル、所ナラン即チ議員ノ多數ニ依テ國家ノ政治ヲ左右スル曉ニ方リ若シ官吏ヲシテ議員タルヲ得セシムルニ於テハ政府ハ種々ノ策略ヲ用ヒ官吏ヲシテ議員タラシメ自黨ノ輩ヲ以テ議員ノ多數ヲ占ムルコトヲ得ヘシ果シテ斯ノ如キ弊害アリトセハ尙ホ多少ノ利益アルニモセヨ此種ノ規定ハ斷然之ヲ拒絕セサルヲ得ス

又官吏カ議員ト爲リテ議場ニ出ツルニ當リ縱シヤ政府ノ權力ニ頼リテ之ヲ撰

舉セシメタルニ非ストスルモ尙ホ他ニ大ナル不都合アルヲ奈何セン何ソヤ他ナシ官吏ニシテ議員タル者ハ議員ニ最モ緊要ナル不羈獨立ノ思想ヲ抱持セサルコト即チ是ナリ是レ官吏ト雖トモ敢テ一己ノ意見ヲ有セサルニ非ス之ヲ有スルモ尙モ職ヲ政府ニ奉スル以上ハ其間ニ種々情實ノ纏綿スルアリテ自己ノ意見ヲ公ケニスルヲ得ス又時ニ公ケニスヘカラサルモノアラン此ニ至テ官吏ヲシテ議員タルヲ得セシムル規定ノ非ナルコト彌ヨ明カナラン

斯ノ如ク何レノ点ヨリ論スルモ官吏ヲシテ議員タルヲ得セシムルノ規定ハ弊害多クシテ利益少キモノト斷定セサルヲ得ス爾レハニヤ今日歐米諸國中ニ就キ尙モ自由制度ノ行ハル、國ニ在テハ此ノ如キ規定ハ絶テ見サル所ナリ

其二 拘留又ハ保釋中ニ在ル者ニ被撰人タルコトヲ禁ズルノ可否如何是レ我撰舉法第十七條ノ規定スル所ナリ今若シ一般ニ之ヲ論スルトキハ正當ノ手續ニ依リ刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ニ一時撰舉權及ヒ被撰權ヲ奪フカ如キハ實ニ至當ノ規定ト謂ハサルヘカラス然リト雖トモ之ニ撰舉前何日間若クハ何月間ト云フカ如キ期日ヲ設タルコトナク單ニ刑事ノ訴ヲ受ケ拘留

又ハ保釋中ニ在ル者ト爲スカ如キハ甚ク撰舉人ニ自由ヲ奪ヒ且ツ人民ニ不安
心ヲ與フルモノト評セサルヲ得ス如何トナレハ前段既ニ一言シタルカ如ク我
邦ニ在テモ漸ク代議政体ノ運轉ニ慣熟スルニ隨ヒ因テ生スル所ノ弊害モ亦之
ニ伴ヒテ發達スヘシ此時ニ當リ政府ニ在ル者若シ或ル候補者ヲシテ議員タラ
シムルヲ欲セサルニ於テハ何時ニテモ口實ヲ設ケテ刑事上ノ訴ヲ起シ以テ之
ヲ拘留スルコトヲ得ヘケレハナリ勿論同條ニ依レハ其裁判確定ニ至ルマテ下
アルヲ以テ多少候補者ノ利益ヲ保護セルモ此ノ如ク自由ヲ束縛セラルトキ
ハ反對黨ノ候補者ニ對シテ甚ク不利ナル地位ニ陥ラサルヘカラス是故ニ右ノ
規定ニ加フルニ須ラク撰舉前何日間若クハ何月間ト云ヘルカ如キ期日ヲ以テ
スヘシ然ラサルニ於テハ時ニ或ハ大ナル弊害ヲ生スルノ憂アリ

第二 當撰議員ヲ指定スルノ方法

衆議院ノ組織ニ關シテ最モ緊要ナル問題ハ如何シテ當撰議員ヲ指定スルヤノ
點是ナリ此點ニ付テハ既ニ撰舉法ノ講義於テ詳論セシヲ以テ茲ニハ唯其梗
概ヲ述フルニ止マントス

我衆議院議員撰舉法ニ於テハ所謂最多數制ヲ用ヒタリ(同法第五十八條)即チ最
多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當撰人ト定ムルノ方法ナリ此方法タル最モ簡便
ニシテ且ツ極メテ解シ易キモノナルモ余ハ之ヲ以テ弊害最モ太甚キ制度ナリ
ト信ス何ソヤ最多數制ヲ用ユルトキハ議員ハ撰舉人ハ一少部分ヲ代表スルニ
過キサルノ結果ヲ生スルコト是レナリ諸君モ既ニ見聞セラレタルカ如ク現ニ
我邦昨年ノ總撰舉ニ就テモ當撰議員ノ得點數ヲ通算セハ實ニ總撰舉人半數以
下ノ投票ヲ得タルニ過キス切言スレハ我衆議院ハ撰舉人ノ少數ヲ代表スルニ
過キス故ニ議院内ニ於ケル多數決ハ未タ以テ撰舉人ノ意思ニ適合スト謂フヘ
カラサルヤ勿論タリ之ヲ要スルニ最多數制ヲ用ユルトキハ到底撰舉人ノ多數
ヲ代表セシムルコト能ハサルナリ

又伊太利佛蘭西其他ノ國ニ行ハル、所ノ過半數制ニ於ケルモ其結果ニ至リテ
ハ敢テ前者ト異ナルコトナシ執レニシテモ苟モ多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ
當撰人ト爲ス以上ハ上ノ如キ弊害アルヲ免レサルナリ

是ニ於テカ學者ハ右ノ弊害ヲ匡濟センカ爲ノニ種々ハ方法ヲ案出セリ有限投

票法、積聚投票法、商數投票法及ヒ比例分配連名投票法ノ如キ即チ是ナリ此等ノ方法ハ孰レモ撰舉人ノ少數者ニモ尙ホ其代表者ヲ得セシムルノ主旨ニ出ツ就中商數投票法比例分配連名投票法ノ二者ハ殊ニ然リトス其利害得失ノ如何ハ請フ撰舉法ノ講義筆記ヲ看ラレヨ

第三 撰舉ノ區畫

議員ヲ撰舉スルニ付キ一ノ緊要ナル問題ハ撰舉區畫ノ事是ナリ此問題ヲ分拆スレハ即チ左ノ如シ

一撰舉區ヨリ一人ヅノ議員ヲ出タスヘキヤ將々連名投票ヲ用ヒ一撰舉區ヨリ數人ノ議員ヲ出スヘキヤ
更ニ之ヲ換言スレハ

撰舉者一人ニ一個ノ投票權ヲ與フヘキヤ將々數個ノ投票權ヲ與フヘキヤト謂フノ論點ニ歸着ス此問題ハ佛蘭西等ニ在テハ非常ニ露々タリシ所ニシテ二者孰レモ利害得失アリ且ツ各有方ナル主唱者アリ近世雷名ヲ轟カセタル彼ノガンベツタ氏カ時ノ内閣總理大臣ヲ辭セシムルニ至リタルハ實ニ此問題ニ

撰舉ノ區畫

テアリシナリ

連名投票說即チ撰舉區畫ヲ廣クセヨト主張スル論者ノ論據トスル所ヲ聞クニ乃チ曰ク今ツレ撰舉區畫ヲ狹少ニ爲ストキハ一地方ノ事情非常ニ勢力ヲ有シ僅ニ一部分ノ事情ニ因テ議員ヲ撰舉スルニ至ル詳言スレハ其撰舉區ニ在リテ或ハ巨額ノ財産ヲ所有シ或ハ其區内ニ於テ權力ヲ有スル者ハ毎子ニ當撰舉サルコト是ナリ而シテ其地方ノ一部分ニ於テ撰舉人ニ對シ勢力ヲ有スル者ハ果シテ議員タルニ適當ナル人物ナリヤ否往々不適當ナル人物ノ出ツルコトアリ且ツ撰舉區狹少ナルトキハ撰舉人ヲ腐敗セシムルニ甚タ便利ナリト謂フヘシ即チ撰舉區狹少ナルトキハ隨テ撰舉人モ少數ナルヲ以テ賄賂其他ノ術策ヲ施スコト容易ナリ是故ニ撰舉人ヲシテ自由ナル撰舉ヲ行ハシムルヲ得ス然ルニ若シ撰舉區畫ヲ廣大ニシ例ヘハ一府縣ヲ以テ一撰舉區ト爲ストキハ第一賄賂ノ弊ヲ防キ且ツ其最モ太ナル利益ハ議院内ニ於テ強大ナル政黨ヲ組織シ得ルコト是ナリ其故何ゾヤ他ナシ一府縣ヲ以テ一撰舉區ト爲スカ如ク其區畫ヲ廣大ニスルトキハ必スヤ連名投票ヲ用ヒサルヘカラス既ニ連名投票ヲ用ヒ而

(憲法)

シテ撰舉人ノ投票ヲ集メシムルニハ亦必スヤ各候補者中ニ於テ主義ヲ同フスル者
ノミ一致シテ運動ヲ爲サシムルヘカラス果シテ然ラハ一府縣内ニ於テ主義ヲ以
テ集マル團體少數ト爲リ此ノ如クニシテ大團體ヲ組織シ以テ撰舉ヲ行フ曉ニ
ハ議員トシテ撰出セラレタル者モ亦議院内ニ於テ主義ヲ以テ集マリ強大ナル
團體ヲ組織シ得ルニ至ルヤ蓋シ必然ノ勢ナレハナリト

(第二十回)

是ヨリ一名投票説ヲ主張スル論者ノ論據トスル所ヲ述ヘンニ彼レ連名投票ヲ
主張スル論者ノ鐵壁トスル論點ハ撰舉區畫ヲ廣大ニシテ連名投票ヲ用ユルト
キハ勢ヒ議院内ニ於テ強大ナル政黨ヲ組織シ得ルニ至ルト謂フニ在ルトモ實
際ノ狀況ニ就テ之ヲ觀レハ大ニ然ラザルモノアリ現ニ佛國ニ於テハ夫ノガ
ベッタ氏ノ如キ熱心ニ連名投票説ヲ主張シ遂ニ千八百八十五年一名投票ノ制
ヲ廢シテ連名投票法ヲ用ヒ同年此法ニ依テ撰舉ヲ行ヒタルニ實ニ彼輩論者カ
豫想外ノ惡結果ヲ生シタリ何ソヤ極端論ヲ主唱スル無數ノ小政黨カ一致合同
シテ以テ國民中最多數ヲ占ムル所ノ大政黨ヲ排斥スルコト是ナリ

諸君モ知ラル、如シ佛國ニ於テハ共和帝政ノ二大政黨樹立シ共和黨中亦數派
アリ之ヲ大別スレハ穩和派過激派ノ二ニシテ其内最モ勢力アル者ハ穩和共和
黨是ナリ而シテ千八百八十五年ノ撰舉ノ際、過激共和黨ハ徹頭徹尾共和政府ニ
反對セル帝政黨ト合同シ爲メニ穩和共和黨ノ代議士ノ數ヲ非常ニ減少セリ實
ニ當年ノ議院内ノ光景ヲ通觀スレハ毫モ從前ト異ナル所ナリ帝政、穩和共和、過
激共和ノ數黨派ニ分レ彼レ連名投票論者カ希望セシカ如キ強大ナル政黨ヲ組
織スルヲ得ス否一名投票法ヲ用ヒタル時ヨリモ尙ホ一層小政黨ノ紛争、太甚シ
クナルニ至レリ

右ノ一例ニ徴シテ之ヲ看ルモ苟モ一國內ニ確然タル大政黨ノ組織セラレサル
限リハ連名投票法ヲ用ユルモ決シテ好結果ヲ生セス啻ニ好結果ヲ生セサルノ
ミナラス大ニ弊害ヲ存スルモノアリ撰舉人中ノ少數者ニ代表者ヲ得セシメサ
ルコト是レ其一ナリ此点ニ付テモ曾テ撰舉法ノ講義ニ於テ詳論セシヲ以テ復
タ贅セズ唯茲ニ一言スルニ止ムヘシ夫レ一府縣ヲ以テ一撰舉區ト爲シ而シテ
連名投票ヲ用ユルトキハ其區内ニ通シ其區内ニ在ル所ノ多數者ノミ之カ代表

者ヲ得ルニ至ルヲ以テ勢ヒ少數者ハ其代表者ヲ得ル能ハス然ルニ今若シ一府縣ヲ數多ノ撰舉區ニ分畫シ而シテ一名投票ヲ用ユルトキハ東區ニ於テハ甲黨勝ヲ制シ西區ニ於テハ乙黨多數ヲ占メ又南區ニ於テハ東西兩區ニテ失敗シタル丙黨當撰スルカ如クナルニ至ルヲ以テ多數代表法ヲ行フモ亦幾分カ少數者ニ其代表者ヲ得セシムルノ餘地アリト謂フヘキナリ又連名投票法ヲ用ユルトキハ撰舉人ト被撰人トノ間ニ相識ハ交ナク世俗所謂「盲目撰舉」ヲ爲スニ至ルコト是レ其弊害ノ二ナリ從來撰舉法ノ行ハルノ國ノ實狀ニ就テ之ヲ看ルニ連名投票ヲ用ユルトキハ孰レモ一府縣ノ首府ニ有志者集會シテ豫メ若干名ノ候補者ヲ定メ之ヲ其府縣内ニ配布シ撰舉人ヲシテ其候補者ノ爲メニ投票セシメンコトヲ努ムルモノトス是故ニ實際候補者ヲ撰定スルノ全權ハ首府ニ集會セル有志者ノ手ニ歸シ各地方ニ散在スル所ノ撰舉人ハ自己ノ代議士タルヘキ人ノ面相タモ知ラスシテ投票ヲ爲スコト往々然リ蓋シ代議政体十分ニ發達シ國民政治上ノ教育程度高クナルニ至リ眞ニ自己ノ代表者ヲ撰定スルノ見識具ハル曉ニハ連名投票法ヲ用ユルトコトヲ得ルモ代議政体ノ

未タ幼稚ナル國ニ在テハ頗ル弊害ノアル投票法ナリト謂フヘシ彼レ連名投票說ヲ主張スル論者ハ頻リニ此法ニ因テ賄賂ヲ防クコトヲ得ト謂フモ是亦然リト斷言スルヲ得ス知ラス撰舉區ノ廣キニ隨ヒ賄賂ノ普ク行ハルコトナキヤヲ故ニ撰舉區ノ廣狹如何ニ因テ賄賂ノ弊ヲ論スヘカラス之ヲ防クノ方法ハ必スヤ他ニ之ヲ索メサルヘカラス之ヲ要スルニ余ハ今日ノ如ク多數代表法ヲ用ヒ且ツ國民政治上ノ教育未タ發達セサル我邦ノ如キ寧ロ一區一名ノ制度ヲ用ユルヲ以テ可ナリト信前段ニ於テ之ヲ陳ヘタル如ク他國ノ經驗ニ就テ之ヲ見レハ佛國ハ連名投票ノ弊ヲ感シ既ニ之ヲ廢止シ伊國ニ於テハ今將ニ之ヲ廢止セントス此時ニ當リ或ル論者カ主唱スル如ク連名投票法ヲ我國ニ輸入スルハ策ノ得タルモノニアラサルナリ衆議院ノ組織ニ關シテ研究スヘキ重要ナル問題ハ上來既ニ略述シ了レリ尙ホ茲ニ二三ノ論究スヘキモノアリ議員ノ資格審查議員ノ在職期限及ヒ議員ノ歳費等ニ關スル問題はナリ是亦組織ニ關スルヲ以テ本款ニ於テ論スルノ必要アリト信ス

議員ノ資格審査

衆議院ヲ組織スヘキ議員トシテ議場ニ列席センニハ須ラク法律ノ規定ニ從ヒ
 正當ニ撰舉セラレタルコトヲ要ス然ルニ今若シ某議員ノ議場ニ列席スルヲ得
 ルヤ否ヤニ付キ異議ヲ生シタルトキハ之ヲ如何スヘキヤ議員ノ資格審査問題
 トハ即チ之ヲ謂フナリ現ニ歐米諸國ニ行ハル、所ノ實例ニ就テ之ヲ看ルニ余
 ノ記憶スル所ニ依レハ英國ヲ除クノ外何レノ國ニ於テモ議員ノ資格審査權ハ
 議院自ラ之ヲ有シ異議ノ生スルト否トニ拘ハラズ先ツ其撰出セラレタル議員
 ハ果シテ議員タルノ資格ヲ具フルヤ否ヤヲ審査シ而シテ議員タルノ資格ヲ有
 スルコト確定シタル上、茲ニ始メテ本議事ニ着手スルヲ以テ一般ノ常慣トセリ
 願ミテ我邦議院法ノ規定スル所ニ依レハ其第七十八條ニ曰ク「衆議院ニ於テ議
 員ノ資格ニ付キ異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セ
 シメ其報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ」ト爾レハ我邦ニ於テハ議員ノ資格ニ付キ異
 議ヲ生シタルトキ之ヲ審査スルモノニシテ彼ノ歐米諸國ノ制ヨリモ其優ルコ
 ト數等ナリト謂フヘシ何トナレハ異議ナキニモ拘ハラズ空シク數多ノ時間ヲ

費ヤスハ實ニ無益ノ業タルヲ以テナリ
 右議院法第七十八條ニ依レハ議員ノ資格ニ付キ云々トアルヲ以テ議員タル資
 格ノ如何ナル点ニ付キ異議ヲ生シタルトキト雖モ總テ之ヲ審査決定スルヲ得
 ヘキカ如シ然ルニ我衆議院ニ於テハ本條ニ關シ甚タ狹隘ナル解釋ヲ下シ所謂
 議員ノ資格トハ被撰資格ヲ指示スルモノニシテ之ニ付テ異議ノ生シタルトキ
 ノミ審査決定スルノ權アリトノ議決ヲ爲シタリ余ハ此議決ニ付キ甚タ疑ヲ抱
 クモノナリ否衆議院ハ全ク法文ノ意義ヲ誤解シタリト確信スルモノナリ仍テ
 以下聊カ其然ル所以ヲ辨明シ以テ爾來衆議院ノ説ヲ變改センコトヲ努メントス
 我衆議院ニ於テ議員ノ資格審査ニ關シ前示ノ如キ議決ヲ爲スニ至リタルハ實
 ニ右第七十八條ニ所謂議員ノ資格ナル文字ヲ被撰資格ト解セシニ由ル余ノ見
 ル所ニ依レハ議員ノ資格トハ同法第七十七條ニ所謂被撰ノ資格ト全ク其意義
 ヲ異ニシ決シテ混同スヘキモノニ非スト信ス而シテ此問題ヲ決センニハ須ラ
 ク先ツ議員ノ資格トハ抑モ如何ナルモノナルヤヲ論定セサルヘカラス既ニ議
 員ノ資格ノ何物タルコト明カナルニ至ラハ蓋シ思ヒ半ハニ過キサレノミ余ハ

第七十八條ニ所謂議員ノ資格ナル文字ニ左ノ如キ定義ヲ與ヘントス
資格トハ或ハ權利ヲ享有スル爲メニ必要ナル條件ヲ謂フ

例ハ撰舉資格トハ撰舉法第六條ニ規定セル所ノ條件ヲ謂ヒ又被撰資格トハ同法第八條以下ニ規定セル所ノ條件ヲ謂フ即チ此等ノ條件ヲ具備スル者ハ或ハ撰舉人タリ或ハ被撰人タルノ資格ヲ有スルモノニシテ其撰舉人タリ被撰人タルノ權利ヲ享有センニハ此等ノ必要條件ヲ具備セサルヘカラス議員ノ資格ニ於ケルモ亦然リ議員タルノ權利ヲ享有センニハ之ニ必要ナル總テノ條件ヲ具備セサルヘカラス其條件トハ何ソヤ曰ク

第一 被撰人タルノ資格ヲ具フルコト

第二 合法ノ手續ニ依テ當撰シタルコト

是ナリ故ニ若シ此二條件中其一ヲ欠ケハ乃チ眞ニ議員ノ資格ヲ有スルモノト謂フヘカラス如何トナレハ合法ノ手續ニ因テ當撰シタルモ若シ被撰人タルノ資格ヲ具ヘサルトキハ未タ以テ議員ナリト認ムルヲ得ヌ又被撰人タルノ資格ヲ具フルモ若シ合法ノ手續ニ因テ當撰シタルニ非サルトキハ亦以テ議員ナリ

ト認ムルヲ得サレハナリ知ルヘシ眞ニ議員タルノ資格ヲ有センニハ必ス前示二個ノ條件ノ具備スルヲ要スルコトヲ

議員ノ資格ナル意義果シテ斯ノ如クシハ反對論者ノ所謂被撰資格トハ全ク別物ナルコト自ラ釋然カラシム試ミニ被撰資格ニ必要ナル條件ヲ舉クレハ即チ左ノ如シ(撰舉法第八條以下)

第一 日本臣民ニシテ滿三十歳以上ノ男子タルコト

第二 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上(所得税ニ付テハ滿三年以

上)其撰舉府縣内ニ於テ直接國税十五圓以上ヲ納メ仍ホ引續キ納ム

ル者タルコト

第三 撰舉法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ被撰人タルヲ得サルニ非サル者

タルコト

其レ斯ノ如ク議員ノ資格ト被撰ノ資格トハ全ク別物ナリ隨テ撰舉法第八條以下ニ規定セル所ノ諸條件ヲ具備スルトキハ即チ被撰資格ヲ有スト謂フヲ得ヘキモ未タ以テ議員タルノ資格ヲ有セス議員タルノ資格ヲ有センニハ尙ホ合法

(憲法)

ノ手續ニ因テ當撰シタルヲ必要トス爾レハ議院法第七十八條ニ所謂議員ノ資格トハ決シテ被撰資格ヲ指スニ非サルヤ明カナリ若シソレ然ラス立法者ノ精神反對論者ノ所説ノ如ク被撰資格ヲ指スニ在ランカ何爲ソ故ラニ議員ノ資格ナル文字ヲ用ヒンヤ看ヨ其前條即チ第七十七條ニハ明カニ被撰資格ナル文字ヲ用ヒタルニ非スヤ接近シタル條下ニ於テ若シ同一ノ事ヲ言ハント欲セハ必スヤ亦同一ノ文字ヲ用ユヘシ其用文ノ相異ナルハ實ニ其事ノ相同シカラサルヲ以テナリ反對論者ハ文字ノ相異ナルハ未タ以テ意義ノ相同シカラサル證據ト爲スニ足ラスト説クモ其理由ヲ明言セサリシハ憾ムヘシ

蓋シ右第七十七條及ヒ第七十八條ハ共ニ第十五章退職及ヒ議員資格ノ異議ト題セル中ニ在リ其第一ハ既ニ議員ノ資格ヲ有スル者カ後日ニ至リテ被撰資格ヲ失フニ因リ退職者ト見做サル、事ヲ規定シ第二ハ撰舉ノ當初ヨリ議員ノ資格ニ付キ異議ノ生シタル場合ノコトヲ規定スルモノニシテ前後ノ二者全ク相異ナレリ(第十五章中第七十六條及ヒ第七十七條退職者ニ關シ第七十八條以下乃至第八十條ハ議員ノ資格審査ニ關スル規定ナリト知ルヘシ)而シテ退職者ニ關スル第七十七條ニ被撰ノ資格トアルハ是レ以ヘアリ其レ法

律上退職者ト稱スル以上ハ既ニ一タヒ議員タリシ者カ其職ヲ退クノ義ニシテ其職ヲ退クニ至ルマテハ議員タル正當ノ資格ヲ有セシモノト認定セサルヲ得ス故ニ退職者ニ關シテハ撰舉ノ有效ナルヤ將タ無効ナルヤノ問題ヲ生スルニ由ナシ如何トナレハ撰舉ノ有效無効ハ撰舉ノ當時ニ溯リテ之ヲ判定セサルヘカラス然ルニ當初無効タリシモノカ後日ニ至リテ有效ト爲ルノ理ナク必スヤ有效無効孰レカ其一ニ居ラサルヘカラサルカ故ニ若シ無効ノ撰舉ニ因テ當撰人ト爲リ後日其事ノ發覺シタル場合ノ如キハ是レ退職者ニ非スシテ當初ヨリ其資格ヲ有セサリシモノナレハナリ是レ第七十七條ニ於テハ被撰ノ資格ナル文字ヲ用ヒシ所以ナリトス

(第二十一回)

前述ノ如ク我議院法第七十七條ニ於テ被撰ノ資格ナル文字ヲ用ヒタルハ即チ此文字ヲ用ヒサルヘカラサルノ理由アレハナリ又第七十八條ニ於テ議員ノ資格ナル文字ヲ用ヒタルモ同ク此文字ヲ用フルノ要アレハナリ請フ其然ル所以ヲ陳述セン

凡ソ議員タルノ資格ヲ有セシムルハ必スヤ被撰資格ヲ具ヘ且ツ合法ノ手續ニ因テ當撰シタルヲ要ス是レ既ニ述ヘタル所ナリ故ニ當撰人ニシテ果シテ議員タルノ資格ヲ具備シ議場ニ列席スルヲ得ルヤ否ヤニ付キ異議ノ生スルコトアルハ當ニ被撰資格ニ付テ然ルノミナラス尙ホ撰舉ノ正當ナリヤ否ヤニ付テモ亦然リトス是レ我立法者カ第七十八條ニ於テハ被撰ノ資格ナル文字ヲ用ヒス特クニ議員ノ資格ト明記シタル所以ナラント余ハ信ス論シテ此ニ至レハ第七十七條ノ被撰ノ資格ナル文字モ又第七十八條ノ議員ノ資格ナル文字モ其義明了ニシテ扞ケテ解釋スルヲ須タサルナリ

我衆議院ハ被撰ノ資格ナラデハ審査スルノ權ナシト主張スル論者ノ言ニ曰ク「若シ撰舉ノ當否ニ至ルマテ之ヲ決定スルノ權アリトセハ司法權ト立法權ト相抵觸スルノ恐レアリ且ツ撰舉ノ當否ヲ審査センニハ勢ヒ事實ノ点ニ立入ラサルヘカラス然ルニ立法院ハ時間ヲ有セサルヲ以テ實際之ヲ審査スルコト能ハス」ト此説タル毫モ取ルニ足ラス今其レ論者ノ言ヲシテ若シ正當ナリトセンカ被撰資格ノ審査ニ至テモ亦倅シク爾カ云フヲ得ヘケレハナリ看ヨ司法裁判所

ハ被撰問題ニ付テモ亦之ヲ裁判スルノ權利ヲ有スルニ非スヤ既ニ司法裁判所之ヲ有シ議院亦之ヲ審査スルノ權利アリ然ラハ即チ司法權ト立法權ト相抵觸スルノ辭柄ヲ以テ議院ニ撰舉ノ當否ヲ審査スルノ權利ナシト謂フヲ得サルヤ知ルヘキノミ又被撰問題ニ付テモ猶ホ當撰訴訟ニ於ケルカ如ク勢ヒ事實ノ点ニ立入ラサルヘカラス例ヘハ實際若干ノ税額ヲ納ムルヤ否ヤ又瘋癲白癡ニ非サルヤ否ヤ等ヲ審査セサルヘカラサルカ如シ

彼レ反對論者カ斯ノ如キ議論ヲ爲スハ實ニ撰舉法ニ規定セル所ノ當撰訴訟ト議院法ニ規定セル所ノ資格審査トノ性質ヲ詳カニセサルニ坐ス蓋シ議員ノ資格審査權ヲ衆議院ニ附與シタル所以ノモノハ惟フニ真正ナル代議士ニ非スンハ以テ議事ニ參與セシメサルニ在リ而シテ其正否ヲ識別センニハ單ニ被撰資格ノ有無ノミニ止マラス尙ホ正當ノ手續ニ依テ當撰シタルモノナルヤ否ヤヲモ之ヲ審査決定セサルヘカラス議院若シ此審査權ナシトセンカ議員タルノ資格ヲ具ヘスシテ議場ニ列席スル者アルノ結果ヲ生セン豈慎マサルヘケンヤ然ルニ撰舉法ニ規定セル所ノ當撰訴訟ノ目的タル全ク之レト異ナリ當撰ヲ失

ヒタル一個人ノ權利ヲ保護スルニ在リ即チ當撰訴訟トハ當撰人ト當撰ヲ失ヒタル者トノ間ニ起ル所ノ訴訟ニシテ常ニ當撰人被告タリ當撰ヲ失ヒタル者原告タルヲ以テモ尙ホ之ヲ知ルニ足ランカ(撰舉法第七十八條以下)

右ノ如ク當撰訴訟ト議員ノ資格審査トハ其性質全ク相異ナリ即チ一ハ議院ノ尊嚴ヲ維持センカ爲メニシテ一ハ一個人ノ權利ヲ保護センカ爲メナリ隨テ一ハ三十日ヲ以テ出訴ノ期間ト爲シ且ツ訴訟ヲ起シ得ヘキ人ハ單ニ當撰ヲ失ヒタル者ノミニ限レトモ資格審査ニ至リテハ異議申立ノ期限ナク且ツ議員タル以上ハ何人ト雖トモ異議ヲ申立ツルコトヲ得

尙ホ外國ノ例如何ヲ觀察スルニ唯英國ヲ除ク外悉ク資格審査權ヲ議院ニ附與シタリ又英國ト雖トモ撰舉ニ關スル訴訟ヲ全ク司法裁判所ノ管轄ニ歸シタルハ實ニ近年ノ事ニシテ即チ千八百六十八年以來始メテ此權ヲ司法裁判所ニ與ヘタリ然レトモ我衆議院ノ議決セシカ如ク當撰訴訟ハ司法裁判所ニ於テ裁判シ被撰問題ハ議院ニ於テ審査スト云フカ如キ制度ハ各國未タ曾テ有ラサル所ナリ

之ヲ要スルニ各國ノ實例、法文ノ解釋及ヒ論理上ヨリ之ヲ觀察スルモ我衆議院カ有スル所ノ議員ノ資格審査權ハ曾ニ被撰資格ノ有無ノミニ止マラス進ンテ撰舉ノ當否ニマテ及フモノナリト斷言セサル可カラス故ニ余ハ徹頭徹尾我衆議院ノ議決ニ反對スルモノナリ

終リニ臨ンテ尙ホ一ノ論究スヘキモノアリ何ソヤ曰ク立法上ノ可否如何即チ是ナリ此点ニ付テハ余ハ寧ロ英法ヲ以テ可トスル論者ナリ他ナシ佛國ノ實例ニ徴スルニ議院ハ資格審査ヲ口實トシテ撰舉ヲ無効ニシ以テ反對党ノ議員ヲ斥クルコト徃々之アルヲ以テナリ蓋シ議院ニ資格審査權ヲ附與シタルハ其初メ行政部ノ干涉ヲ恐レタルニ職由セリ然ルニ今ヤ制度大ニ改革シ司法權全ク獨立スル曉ハ舉テ司法裁判所ニ委スルヲ以テ却テ利益アリト信ス

議員ノ數

議員ノ數

議員ノ數ハ通例人口ノ割合ニ應シテ之ヲ定ム我邦ニ於テハ凡ソ人口十二萬人ニ付キ議員一人ノ割合ナリ今之ヲ歐米各國ノ實例ニ比スレハ其數甚タ僅少ナリト謂フヘシ議員ノ數ハ各國相同シカラス茲ニ其重モナル所ノ實例ヲ舉ケレ

(憲法)

ハ米國ハ三百二十五人、西班牙ハ四百三十一人、伊太利ハ五百八人、佛蘭西ハ五百八十四人、英吉利ハ六百七十人ナリ(最近ノ調)又議員ノ數ハ時代ニ由テ甚タ差異アリ今佛國ニ付テ之ヲ着ルニ其最モ多數ナリシハ千七百八十九年革命頃ノ國會ニシテ當時議員ノ數千四百五十人ナリシ又議員ノ數今日ヨリモ尙ホ少數ナリシハ千八百十四年ノ頃ニシテ當時ハ僅カニ二百五十八人ニ過キサリキ斯ノ如ク議員ノ數ハ時ト所トニ隨ヒ甚タ異同アリ且ツ論理上豫メ幾人ト之ヲ概定スルコトヲ得スト雖トモ而モ歐米各國ニ於テ今日マテノ經驗ニ徴スレハ議員ノ數ヲ多クスルハ甚タ弊害アリトス先ツ議員ノ數ヲ多クスレハ隨テ人物全体ニ劣ルコト是ナリ實ニ多數中ニハ英傑俊秀ナル人物アリ得ルモ尙ホ全体ヨリ觀察スレハ智識經驗ノ度ニ於テ遙カニ劣ル所アリ且其レ議員ノ數多キトキハ一種不可思議ナル電氣力、議員ノ腦裡ヲ支配スルモノニヤ非常ニ感情ニ制セラレ、ノ傾向アリ即チ少數ノ人相會スルトキハ虛心平氣ニ事物ヲ考究シ得ヘキ場合ニモ若シ多數ノ人相會スルトキハ往々一時ノ感情ニ制セラレ各、不本意ナル議決ヲ爲スコトアリ而シテ此事實ハ如何ナル理ニ由テ然ルヤト問ハ、之ニ

答フルノ辭ニ苦ム然リト雖トモ是レ今日ニ至ルマテ歐米各國ノ實例ニ徴シテ爭フヘカラサル所ノ事實ナリ現ニ佛國ニ於テ議員ノ最モ多數ナリシハ前示七百八十九年ノ國會及ヒ其後三、四年經テ選舉セラレタル「コンヴェンション」(Convention)即チ千七百九十三年ノ國會等是ナリ而シテ其議會ノ狀況ヲ觀ルニ毫モ實際ノ利害得失ヲ考究スルノ暇ナキカ如ク常ニ一二人ノ雄辨家ニ願便セラレ而シテ若シハ一時ノ感情ニ制セラレテ諸般ノ議決ヲ爲スニ至レルカ如シ是故ニ議員ノ數ハ過多ナラサルヲ以テ可トス學者ノ說ニ依レハ三百人以上四百人以下ヲ以テ程度トセリ今我邦議員ヲ三百人ニ限リシハ蓋シ適當ノ數ナラント信ス

議員ノ任期

議員ノ任期モ猶ホ議員ノ數ニ於ケルカ如ク今日各國ニ行ハル、所ノ規定ヲ通觀スルニ甚タ區々タリ而シテ其短キハ三年、長キハ八年ニシテ其間四年、五年、六年及ヒ七年等ナリ又最モ短キハ二年ノ所モアリ今其實例ヲ舉ケレハ合衆國ハ二年、普魯西ハ三年、葡萄牙、和蘭及ヒ佛蘭西ハ四年、伊太利ハ五年、澳地利ハ六年、英

議員ノ任期

吉利ハ七年、噠馬ハ八年ナリ

今ヤ我撰舉法第六十六條ニ依レハ議員ノ任期ヲ四箇年ト定メタリ而シテ議員ノ任期ハ短キモ又長キモ共ニ弊害アリ若シ其レ議員ノ任期ヲ最モ短クセンカ屢撰舉ヲ行フカ爲メニ人心常ニ動搖シ心靜カニ國務ヲ處理スルコトヲ得ス且議員モ其任期短キカ爲メニ議員タルノ職ニ習熟スルノ遑マナク隨テ其爲ス所往々國益ニ反スルコトアルヲ免レス之ニ反シテ議員ノ任期ヲ甚タ長クセンカ議員ハ其地位ニ安ンシテ充分ノ勉勵ヲ爲サス且輿論ニ如何ナル變動ヲ來タスモ毫モ顧ミルコトナシ即チ往々輿論ニ反スル議決ヲ爲スニ至ル是故ニ後段ニ至リテ論スルカ如ク若シ議員全數ニ改撰スルノ制度ヲ採用スルニ於テハ四年ハ蓋シ適當ノ任期ナリト信ス

(第二十二回)

議員ノ任期ニ關シテ二個ノ問題アリ

第一問 補闕撰舉ノ場合ニ於テ其當撰シタル議員ノ任期如何

我撰舉法ニ於テハ單ニ議員ノ任期ハ四箇年トス_トアリ爾レハ各議員ハ其撰舉

セラレタル時ヨリ四年トスヘキヤ將タ補闕撰舉ノ場合ニ於テハ前議員ノ未タ了ラサリシ期間ヲ以テ其任期トスヘキヤ例ヘハ茲ニ撰舉後二年ニシテ議員ノ職ヲ退キタル者アリ此場合ニ於テ補闕議員ハ殘餘ノ二年ヲ以テ其任期トスヘキヤ將タ全四年ヲ以テ其任期トスヘキヤト云フニ在リ此点ニ付テハ敢テ大ナル議論アルコトナシ即チ前議員ノ殘餘期間ヲ以テ補闕議員ノ任期トス何トナレハ補闕議員ハ乃チ前議員ノ職ヲ承繼シタルモノナレハナリ

第二問 議員ノ任期四年ハ如何ナル時ヨリ起算スヘキヤ

例ヘハ七月ニ撰舉アリタルトキハ其七月ヨリ起算シ四年目ノ六月マテヲ以テ四年トスヘキヤ將タ他ニ計算ノ方法アリヤ通常ハ何等ノ困難ヲモ生セス即チ昨明治二十三年七月ニ撰舉セラレタル議員ハ來ル明治二十七年六月ヲ以テ四年ノ任期了ルモノトス然レトモ茲ニ困難ノ生スルハ議院ノ解散ヲ命セラレタル場合はナリ例ヘハ本年十二月ニ議院ヲ解散シ廿五年一月ニ其改撰ヲ行ヒタリト仮定セン此場合ニ於テ任期四年ハ如何ニ計算スヘキカ議員ハ明治二十五年一月ニ撰舉セラレタルモノナルカ故ニ來ル明治二十九年一月ヲ以テ四年ノ

任期満ツルモノトスヘキヤ若シ其レ撰擧ノ時ヨリ起算シテ四年トセンカ此議員ハ通常會期三回ヨリ經サルコト、爲ルヘシ何トナレハ明治廿五年十一月ニ開始スル會期ヲハ第一會期トスルトキハ二十八年ヨリ二十九年ニ渉ル會期ノ半バニ於テ滿四ケ年ニ達スヘケレハナリ然ラハ則チ此議員ノ任期ハ撰擧ノ時ヨリ起算シテ四年ニ非スシテ四回ノ通常會期ヲ經タル後ニ非サレハ四年ノ任期了ラサルモノナリヤ是レ即チ一問題ナリ

此点ニ付テハ憲法、議院法及ヒ撰擧法等ニ明文ヲ以テ規定スル所ナシト雖トモ余ハ議員ノ任期四箇年トセルハ其實四會期ノ義ナリト信ス憲法第四十一條ニ曰ク帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス同第四十二條ニ曰ク帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トスト是ニ由テ觀レハ憲法上議會ニ關スル一箇年トハ通常三箇月ナルコト猶ホ宛モ學校ニ於ケル一學年トハ休暇日ヲ除キ十箇月乃至十一箇月ヲ以テスルカ如ク通常三ヶ月ヲ以テ議會ノ一年度ト解セサルヲ得ス爾レハ會期ノ半バニ於テ改撰セラレタル議員ニ付テハ實際或ハ四ヶ年ヨリモ長キコト之アルヘキモ右四會期ヲ了ヘタル後ニ非サレハ四ヶ年ノ任期ヲ滿タシタルモノト謂

改撰ノ方 法

ヲヘカラサルヤ以テ推知スヘキノミ
我衆議院議員撰擧法ノ規定ニ依レハ上來述フルカ如ク議員ノ任期ハ四ヶ年ニシテ其期滿ツレハ議員ノ全數ヲ改撰スルノ制度ヲ採用セリ今ヤ此規定ノ是非得失如何

先ツ議員全數ヲ改撰スルヲ以テ是トスル論者ノ言ニ曰ク議會ハ須ラク輿論ト平衡セサルヘガラス而シテ議員ト全國ノ輿論ト果シテ意見ヲ同フスルヤ否ヤヲ驗センカ爲メニハ必スヤ其全數ヲ改撰スルコトヲ要ス然ラスンハ竟ニ議會ト輿論ト相背馳スルニ至ラント

次ニ議員全數ヲ改撰スルノ制度ヲ非トスル論者ハ曰ク若シ其レ議員ノ全數ヲ改撰スルトキハ往々政治上ニ太甚シキ激變ヲ生ヌルコトアリ之ヲ詳言スレハ新撰議員ハ常ニ前議員ヨリモ異ナリタル事ヲ爲サントノ考案ヲ抱持スルハ是レ人情ノ免レ難キ所ナルヲ以テ前議員ノ爲シタル事ヲ廢棄シ更ニ新業ヲ起スノ傾向アリ且ツ其レ議院全体ヲ改選スルトキハ往々輿論ノ激變ニ乘シテ選舉セラレ、モノナルカ故ニ其議院ハ全ク前議員ト反對ノ政畧ヲ施スコトアリ隨

テ一國ノ政治上實ニ激烈ナル變動ヲ生スヘシ而シテ此事タル實ニ國家ノ大計ニアラサルナリ今若シ此弊害ヲ防クノ方法アラハ須ラク之ヲ採ラサルヘカラス其方法トハ何ゾ他ナシ議員ノ一部ヲ改撰スルコト即チ是ナリ例ヘハ議員ノ任期ヲ六ケ年トシテ三年毎ニ其半數ヲ改撰シ又ハ任期ヲ九ケ年トシテ三年毎ニ其三分ノ一ヲ改撰スルカ如シ即チ此方法ヲ用ユルトキハ與論ニ隨ヒ漸次新元素ヲ議院ニ注入スルヲ以テ一國ノ政治上ニ急激ナル變動ヲ來タスノ憂ナシ且ツ其新議員ハ舊議員ノ薰陶ヲ受ケ自ラ議員タルノ職ニ習熟スルノ便ヲ得ヘシ是故ニ議員ヲ養成スル点ヨリ觀ルモ又急變ヲ防禦スル点ヨリ論スルモ一部改撰ノ制度ヲ採用スルハ國家ノ爲メニ大ニ利益アル所ナリト

今日歐米各國ニ行ハル、所ノ制度ヲ觀察スルニ或ハ議員全數ヲ改撰スルノ方法ヲ採ルモノアリ或ハ議員ノ半數乃至三分ノ一ヲ改撰スルノ方法ヲ用ユルモノアリ而モ全數改撰ノ制度ヲ採用スル所最モ多シトス然レトモ余ノ見ル所ニ依レハ議員ノ任期ヲ六ケ年ト爲シ三年毎ニ其半數ヲ改撰スルノ制度ヲ用ユルトキハ蓋シ大過ナカルヘシ

議員ノ歳費

議員ノ歳費

議員ノ歳費ヲ給與スヘキヤ否ヤハ古來歐米各國ニ於テ大ニ議論アリシ所ノ問題ナリ隨テ今日此点ニ關スル各國ノ規定ハ甚タ區々タリ英吉利、獨逸、澳太利及ヒ伊太利ノ如キハ議員ニ歳費ヲ給與セス又白耳義、ルーマニヤノ如キハ唯上院議員ニノミ之ヲ給與セス此他ノ國ニ至リテハ概シテ議員ニ歳費ヲ給與スルノ制度ヲ採レリ我邦ノ如キモ亦然リ

先ツ論理上ヨリ斷定ヲ下セハ其可否果シテ如何

議員ニ歳費ヲ給與スルヲ以テ不可トスル論者ハ曰ク凡ソ議員ト爲リテ國家ノ爲メニ鞠躬尽力スヘキ人物ハ須ラシ不羈獨立ノ精神ナクンハアラス然ルニ今若シ議員ニ歳費ヲ給與スルノ制度ヲ採ルトキハ人々其歳費ニ戀々トシテ議員タランコトヲ熱望シ隨テ撰舉人ニ阿諛スルニ至リ遂ニ議員タルニ最モ必要ナル不羈ノ氣象腐蝕シ去ランノミ是故ニ議員ヲシテ獨立ノ地位ヲ保タシメント欲セハ無私無慾ノ人ヲシテ之ニ任セサルヘカラス彼レ歳費ニ戀々タル者ノ如キハ寧ロ議員タラシメサルニ如カスト

又歳費給與説ヲ主張スル論者ハ曰ク「國家ノ爲メニ盡力スル者ハ貴重ナル時間ト勞力トヲ消費ス果シテ然ラハ其勞力時間ニ對シテ相當ノ報酬ヲ與フルハ實ニ至當ノ事ナリト謂フヘシ且ツ若シ議員ニ歳費ヲ與ヘサルトキハ如何ニ學識アリ經驗アルニモセヨ資産ナキカ爲メニ竟ニ議員タルヲ得サルニ至ラン而シテ此ノ如キハ決シテ國家ノ爲メニ望ムヘキノ事ニ非ス是ヲ以テ議員ニ相當ノ報酬ヲ與フルハ極メテ必要ナリトス又實際上或ハ歳費ノ爲メニ不羈獨立ノ精神ヲ腐蝕セラル、者アルヤモ未タ知ルヘカラスト雖トモ此ノ如キ議員ハ歳費ヲ給與セサルモ尙ホ其獨立心ヲ維持スルコト能ハサル匹夫タルノミ決シテ歳費其物カ獨立心ヲ失ハシムル直接ノ原因タルニ非サルナリ」ト

右ノ如ク兩説各多少ノ理由アリ今ヤ我邦ニ付テ之ヲ論セハ余ハ議員ニ歳費ヲ給與スルヲ以テ適當ノ方法ナリト信ス如何トナレハ我邦今日ノ狀態タル概シテ才學兼備ノ士ハ財産ニ乏シク又財産ヲ有スル者ハ議員タルノ技倆ヲ備ヘサルヲ以テナリ若シ其レ國富増進シ財産ト智識ト相平衡スルニ至ラハ寧ろ議員ニ歳費ヲ給與セサルヲ以テ可トスヘキモ我邦今日ノ如キニ在テハ已ムヲ得ス

之ヲ給與セサルヘカラス

(第二十三回)

第三款 議員ノ特權

議員ノ特權

帝國議會ヲ組成スル所ノ貴族院及ヒ衆議院ノ組織ニ付テハ前來既ニ之ヲ説クセリ今ヨリ進ンテ帝國議會ノ職權ニ論及スルニ先タ茲ニ議員カ有スル所ノ訴權ニ付テ一言セサルヘカラス

凡ソ議員ヲシテ充分ニ其職務ヲ盡サシメンニハ須ラシ議院内ニ於テ自己ノ本心ニ隨ヒ其意見ヲ述ヘ及ヒ表決ヲ爲スノ自由ヲ與ヘサルヘカス又會期中恣ニ行政官ノ干涉ヲ受ケ其身ヲ束縛セラル、カ如クハ到底其職務ヲ充分ニ盡スコト能ハサルナリ是ニ於テカ我憲法第五十二條及ヒ第五十三條ヲ以テ貴衆兩議院ノ議員ニ或ル制限内ニ於テ左ノ二個ノ特權ヲ附與シタリ

第一 議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負ハサルコ

(憲法)

第二 現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中議院ノ許諾ナクシテ逮捕セラレサルコト

右二個ノ特權ハ所謂議員ノ無責任 (irresponsabilité) 及ヒ不可侵權 (inviolabilité) 是ナリ

(附言) 不可侵ノ語適當ナラス其義議員ハ侵スヘカラサル身ト云フニ在リ
今假ニ世上ノ慣用ニ從フ

第一 議員ノ無責任

憲法第五十二條ニ曰ク

兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其言論ヲ演說刊行筆記又ハ其他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

本條ニ關シテ論究スヘキ問題ニアリ第一問 議員ハ如何ナル行爲ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負ハサルヤ

本條ノ規定ニ依レハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ云々トアリ故

議員ノ無責任

ニ議員カ議事中ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付テハ其責ヲ負ハサルコト論ヲ俟タスシテ明カナリ然レトモ此他ニモ尙ホ議員カ責ヲ負ハサル行爲有ラサルナキヤ例ヘハ委員ヨリ議院ニ提出シタル報告書等ノ如シ今若シ本條ヲ文字上ヨリ解釋スルトキハ此ノ如キモノハ前ニ包含セサルカ如シト雖トモ其精神ヨリ論スルトキハ余ハ右報告書ノ如キモ無論同様ニ取扱フヘキモノト信ス又縦シヤ本條ノ文字上ヨリ論スルモ強テ余ノ見ルカ如ク解釋スルコトヲ得サルニ非ス何トナレハ本條ニ所謂議院ニ於テトハ必スシモ議場ノミニ限ラス委員會モ亦議院ト看テ可ナルヘシ又發言シタル意見トハ其實表彰シタル意見ノ義ニシテ必スシモ口頭ヲ以テ述ヘタル意見ノミニ限ラス書面ヲ以テ述ヘタル意見ヲモ亦包含スルモノト解シテ可ナルヘケレハナリ況ンヤ歐米各國ノ先例ニ徵スルモ亦此ノ如クナルヲヤ

議院ニ於テ一個人ヲ誹毀スル所ノ言論ヲ發シタルトキハ其言論ニ付キ議員ハ院外ニ於テ責ヲ負フヤ否ヤ此問題ニ付テハ本邦ノ議會ニ於テ未タ先例アルヲ知ラス唯彼ノ後藤大臣事件ノ如キハ議題トナラスシテ消失シ去レリ佛國ニ於

テモ此問題ハ曾テ大ニ議論アリシ所ナリ然レトモ余ノ見ル所ニ依レハ縱シヤ
誹毀讒謗ニ涉ルノ言論ト雖トモ議員ハ院外ニ於テ其責ヲ負ハサルモノト決ス
セサルヲ得ズ如何トナレハ右第五十二條ハ唯汎シ一般ノ原則ヲ規定スルニ止
マリ院外ニ於テ責ヲ負フヘキ言論ト否トヲ區別セサレハナリ又此ノ如キ區別
ヲ爲スニ於テハ弊害最モ生シ易シトス何トナレハ院外ニ於テ責ヲ負フヘキ言
論ト否トノ標準ヲ設クルコト實ニ至難ナレハナリ且其レ讒謗誹毀ノ如キハ院内
ニ於テ十分ニ之ヲ制スルコトヲ得ヘシ即チ議院ノ以テ之ニ制裁ヲ附スレハ可
ナリ是故ニ余ハ如何ナル言論ト雖トモ議員ハ院外ニ於テ責ヲ負フコトナシト
斷言セシ

第二問 議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ如何ナ
ル場合ニ其責ヲ負フヤ

此点ニ付テハ第五十二條ノ但書ヲ以テ規定セリ此規定ニ依レハ議員カ議會ニ
於テ爲シタル言論ヲ自ラ世上ニ弘メンカ爲メニ其言論ヲ或ハ演說シ刊行シ又
ハ筆記シ其他新聞紙雜誌等ニ掲載シテ之ヲ公布シタルトキハ通常一般ノ法律

ニ依テ處分セラル、モノトス例ハ議院ニ於テ他人ヲ誹毀スルカ如キ言論ヲ
發シ而シテ自ラ公然之ヲ演說シタルトキハ刑法上誹毀罪ヲ以テ論セラルヘク
又朝憲ヲ紊亂スルカ如キ言論ヲ發シ自ラ之ヲ刊行シテ世ニ公布シタルトキハ
亦刑法上ノ責ヲ負フヘシ但シ茲ニ注意スヘキハ議員自ラノ語是ナリ故ニ他人
カ其言論ヲ公布スルモ議員其責ヲ負フコトナキ勿論タリ然レトモ此制限ハ實
際上ノ適用ニ至リテハ其効力甚タ薄弱ナルモノナラント信ス

此点ニ關シ歐米各國ノ法律ハ其規定甚タ區々ニ涉レリ佛國ノ如キハ議員カ院
内ニ於テ爲シタル言論ヲ種々ノ方法ヲ以テ之ヲ公布スルモ毫モ妨ケアルコト
ナシ曾テ千八百十四年ノ憲法ノ下ニ在リテハ議院ニ於テ演說ノ刊行ヲ命シタ
ルト否トニ因テ區別セシコトアリ諸君モ知ラル、如ク歐米各國ノ議院ニ於テ
ハ或ル議員ノ爲シタル演說ニシテ特ニ國民一般ニ知ラシムルノ必要アリト認
ムルトキハ往々其刊行ヲ命スルコトアリ國務大臣ノ演說ノ如キハ殊ニ然リト
ス右ノ區別ハ即チ之ヲ爲メナリ

又英國ノ如キハ其規定全ク本邦ト同一ナリ惟フニ我憲法第五十二條ノ但書ハ

其源ヲ英國憲法ニ汲ミシモノナランカ

前既ニ一言シタルカ如ク各國ノ憲法ニ於テ議員カ院内ニ於テ發言シタル所ノ意見及ヒ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負フコトナシト云ヘル原則ヲ設クルニ至リタル理由ハ實ニ議員ヲシテ充分ニ自己ノ意見ヲ開陳シ以テ眞ニ國民ノ代議士タル職務ヲ盡サシメンカ爲メナリ若シ其レ然ラス院内ニ於テ爲シタル演説又ハ表決ニ付キ外院ニ於テ責ヲ負フトキハ彼レ後難ヲ恐レテ充分ノ意見ヲ表セサルヘシ況ンヤ此ノ如ク無責任タルモ猶ホ種々ノ情實ニ纏綿セラレ爲メニ自己ノ本心ヲ控クル者アルヲヤ是レ各國ノ憲法ニ於テ此原則ヲ採用スルニ至リレ所以ナリ

斯ノ如ク今日ニ在テハ何レノ國ノ憲法ニ於テモ舉テ議員無責任ノ原則ヲ採用セサルハ莫シト雖トモ抑モ世ニ立憲政体ノ生レシ當初ヨリシテ此ノ如クナリシニハ非サルナリ代議政体ノ母國ト稱セラル、所ノ英吉利ニ於テハエリサバス女王ノ時代ニ至ルマテハ尙ホ前會期ノ始メニ於テ豫メ議員ノ爲メニ言論ノ自由ヲ許與セラレンコトヲ女王ニ請求スルノ慣例ナリシ其後議院ノ權力漸ク

増進スルニ及ンテ竟ニ議員無責任ノ原則ヲ確定スルニ至レリ

又佛國ニ於テモ此議員無責任ノ原則ヲ確定スルニ至ルマテハ幾多ノ周旋ヲ經タリキ同國ニ於テハ千七百八十九年革命ノ頃ニ及ンテ漸ク此原則確固ト爲レリ即チ同年六月二十三日ミラボー氏ノ發言ニ因リ此原則ヲ可決シタリ諸君モ知ラル、ナラン千七百八十九年ノ六月二十三日ト云ヘルハ佛國革命史中最モ有名ナル日ナルコトヲ實ニ此日ハ佛國ノ議院カ其權力ヲ確定シタルノ日ナリ當時議院ノ舉動タル動モスレハ王室ニ反對セントスル徵候アルヨリシテ王室ニ於テハ乃チ議院ノ權力ヲ滅殺センカ爲メニ從來貴族僧侶及ヒ國民ノ三種族相集合シテ會議ヲ開キタリシニ此際各別個ニ會議ヲ開クヘキ旨ヲ命シタリ然ルニミラボー氏ハ此命令ヲ傳ヘ齎ラス所ノ王使ニ向テ曰ク(吾輩ハ人民ノ命ニ依リ此處ニ參集シタルモノナリ故ニ佛國ニ確乎タル憲法ヲ制定シタル後ニ非ズンハ決シテ離散セサルヘシ乞フ足下ヲ派遣シタル者ニ告ケヨ)ト佛國革命ノ基礎ヲ確立シ專制政体ノ衰滅ヲ來シタルハ實ニ此時ニ在リ言論無責任ノ原則ノ如キモ即チ此日ニ確定シタルナリ

之ヲ要スルニ英國ニ於ケルモ又佛國ニ於ケルモ言論無責任ノ原則ノ起源ハ甚
タ困難ナリシモ今日ニ在リテハ何レノ立憲國於ニテモ皆此原則ヲ採用スルニ
至レリ

(第二十四回)

議員ノ不
可侵

第二 議員ノ不可侵

憲法第五十三條ニ曰ク

兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内乱外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其院ノ許諾

ナクシテ逮捕セラル、コトナシ

本條ニ關シテ論究スヘキ問題亦ニアリ

第一問 此特權ハ如何ナル場合ニ適用スヘキモノナリヤ

本條ノ規定ニ依レハ「現行犯罪又ハ内乱外患ニ關ル罪ヲ除ク外云々」トアリ爾レ
ハ議員ハ現行犯罪又ハ内乱外患ニ關ル罪ヲ除ク外其犯罪ノ重罪タルト輕罪タ
ルトヲ問ハス苟モ會期中ハ議院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシト謂ハ
サルヲ得ス而シテ本條中現行犯罪ニ付テノ規定ハ各國ノ憲法ニ於テ多ク見ル

所ナレトモ内亂及ヒ外患ニ關スル罪ニ付テノ規定ニ至リテハ各國憲法上概シ
テ見サル所ナリ唯其レ英國ニ於テハ國家ニ對スル反逆ヲ犯シタル者ハ議院ノ
許諾ナクシテ逮捕セラル、ヲ得惟フニ我憲法ノ規定モ亦英國憲法ヨリ來リシ
モノナランカ

本條ニ所謂ル逮捕トハ單ニ逮捕其物ヲ指シタルヤ又ハ議員ニ對シテ公訴ヲ起
スコトヲ得サル義ヲモ尙ホ含ムヤ蓋シ公訴ヲ起スニ付テハ必スシモ犯罪者ヲ
逮捕スルヲ要セス故ニ外國ノ憲法等ニ於テハ概シテ逮捕シ又ハ公訴ヲ起スコ
トヲ得スト明記セリ然ルニ我憲法ニ依レハ前示ノ如ク單ニ逮捕セラル、コト
ナシトアルヲ以テ犯罪者タル議員ヲ逮捕スルニハ議院ノ承諾ヲ要ス、雖トモ
公訴ヲ提起スルニハ敢テ之ヲ要セサルヤ憲法ノ精神ヨリ之ヲ論スルトキハ公
訴ヲ提起スルニモ尙ホ議院ノ許諾ヲ得サル可カラサルカ如シト雖トモ憲法ノ
明文ニ「逮捕セラル、コトナシ」トアル以上ハ公訴ヲ提起スルニハ敢テ議院ノ許
諾ヲ要セスト斷定セサル可ラス(余ハ蓋シ公訴ヲ提起スルニモ議院ノ許諾ヲ要
スル旨ヲ主張シタリト雖トモ前説ノ非ナルヲ發見シタルヲ以テ茲ニ改ム)。

本條ノ規定ニ依レハ其院ノ許諾ナクモテ云々トアリ故ニ議院ノ許諾アラハ乃チ議員ヲ逮捕スルコトヲ得ヘキヤ勿論タリ然ラハ則チ議院ノ許諾ハ如何シテ之ヲ得ヘキヤ此點ニ付テハ未ダ特別ナル規定アルヲ見ス憶フニ檢事ヨリ司法大臣ヲ經テ議長ニ請求書ヲ差出シ議長ハ議院ノ議ニ附シテ之カ許否ヲ決スルモノナルヘシ

第二問 會期前既ニ逮捕セラレタル議員ハ帝國議會ヲ開クト同時ニ當然之ヲ放免セサルヘカラサルヤ

諸君モ知ラル、如ク此點ハ現ニ昨午ノ會期中衆議院内ニ於テ森時之助氏ニ付キ起リタル世ニ有名ナル一ノ問題ニシテ今日猶ホ未タ決セサル所ノモノナリ當時衆議院ノ多數者ハ憲法第五十三條ニ會期中其院ノ許諾ナクモテ云々トアレトモ此條ノ精神ヨリ論スルトキハ會期前既ニ逮捕セラレタル者ハ無論開會ト共ニ之ヲ放免シ議院ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ其逮捕ヲ繼續スルコトヲ得トノ意見ナリシ而シテ政府ハ之ニ對シテ明確ナル意見ヲ表示セズ唯僅カニ裁判所ニ於テ法律ニ從テ行フタル所爲ニ付テハ司法大臣ノ干涉スヘキモノニ非

スト答ヘタルノミ竟ニ其何レトモ決着スルニ至ラズシテ立消トハナレリ(衆議院先例彙纂第一頁參看)

此問題ニ關シテ余ノ信スル所ヲ述フルノ前先ツ歐洲諸國ノ例ヲ示スハ蓋シ無要ノ業ニ非サルヘシ此點ニ關スル歐洲諸國ノ憲法ノ規定ハ甚タ區々ニ涉レリ佛蘭西ニ於テ今日行ハル、所ノ憲法ニ依レハ會期前ニ逮捕セラレタル者ハ當然其逮捕ヲ繼續スルノ規定ナリ然レトモ若シ議院ニ於テ放免ヲ請求シタルトキハ會期中ノミ其逮捕ヲ中止セサルヘカラス是レ亦同憲法ノ規定スル所ナリ白耳義獨逸帝國及ヒ普魯西等ノ如キモ亦之ト同様ノ規定ヲ設ケタリ又英吉利ニ於テハ會期中並ニ會期ノ前後四十日間ハ議員ヲ逮捕スルコトヲ得サルモノ、如クナレリ又伊太利ニ於テハ縱ヒ會期前ニ逮捕シタル者ト雖トモ開會ニ至レハ更ニ議院ノ許諾ヲ得サルヘカラス但シ憲法ノ文面上ヨリ論スルトキハ甚ク疑ヒナキニ非サレトモ同國ニ於テハ千八百四十八年以來議院ノ權力漸ク強ク隨テ右ノ如キ先例ヲ作り今日ニ至ルマテ之ヲ遵守セリ然ラハ今ヤ我邦ニ於テハ如何ニ之ヲ決スヘキヤ帝國憲法第五十三條ノ文面ヨ

リ論スルトキハ或ハ會期前既ニ逮捕セラレタル議員ハ開會ト同時ニ當然之ヲ
 放免セサルヘカラス或ハ其逮捕ヲ繼續センニハ更ニ議院ノ諾許ヲ得サルヘカ
 ラスト云フカ如キ解釋ハ到底爲スコト能ハサルモノ、如ク蓋シ其條文簡明ニ
 シテ亦一點ノ疑ヒヲ容ルヘキニ非ス曰ハスヤ兩議院ノ議員ハ云々會期中其院
 ノ許諾ナクシテ逮捕セラレ、コトナシト爾レハ會期ノ前後ハ議院ノ許諾ナク
 シテ逮捕セラレ、コトアルヘキヤ了然タル所ニシテ又會期前ニ於テ議院ノ許
 諾ヲ得ント欲スルモ手續上固ヨリ爲シ能ハサル所ナリ且ツ其レ憲法制定者ノ
 精神ニシテ若シ會期前ニ逮捕シタル者ニ付テハ會期至レハ乃チ議院ノ許諾ヲ
 得サルヘカラスト云フニ在ランカ必スヤ其旨ヲ明示セサルヘカラス然ルニ本
 條中絶テ此等ノ明文ナキ所ヲ以テ之ヲ觀レハ會期前ニ逮捕シタル者ハ會期至
 ルモ敢テ之ヲ放免スルニ及ハサルヤ必セリ
 却説立法上ヨリ論スルトキハ果シテ如何余ハ右憲法第五十三條ハ聊カ不完全
 タルノ譏リヲ免レサルモノト信ス其レ我憲法ニ於テ兩議院ノ議員ハ會期中其
 院ノ許諾ナクシテ逮捕セラレ、コトナシト云ヘル原則ヲ明掲シタル所以ノモ

ノハ前段既ニ余ノ一言シタルカ如ク行政官ノ專横ヲ防カンカ爲メナリ今若シ
 行政官カ或ル重大ナル問題ノ起ルニ當リ政府ニ反對スル所ノ有力ナル議員若
 干名ニ對シテ犯罪ヲ捏造シ隨意ニ逮捕スル事ヲ得彼レ議員ヲシテ發言セシメ
 サルカ如キ事アランカ議員ノ獨立得テ維持スヘカラス竟ニ議院ハ政府ノ奴隸
 ト爲リ了ランノミ各國憲法ニ於テモ亦右ト同様ノ原則ヲ規定シタル理由ハ實
 ニ此一點ニ在リ憲法ノ精神果シテ斯ノ如クナリトセハ右第五十三條ノミヲ以
 テハ甚タ不完全ナリト謂ハサルヲ得ス是故ニ余ノ見ル所ニ依レハ將來若シ本
 條ヲ改正スルコトヲ得ハ須ラク佛獨及白國等ノ規定ノ如ク爲スヘシ即チ會期
 前ニ逮捕シタル者ハ議院ニ於テ其放免ヲ請求セサル間ハ逮捕ヲ繼續スルコト
 ナ得是ナリ其レ此ノ如クシハ敢テ司法權ヲ侵害スルコトナク又タ立法權ニ障
 害ヲ來タスコト勿ルヘク且ツ議院ヨリ請求スレハ直チニ放免セサルヘカラス
 ルヲ以テ議院ニ於テモ毫モ不完全ナル所ナク又政府モ縱マニ有力ナル議員ヲ
 逮捕シ會期中彼レヲシテ發言セシメサルカ如キ等ノ虞レアルコトナシ
 之ヲ要スルニ憲法第五十三條ノ解釋論トシテハ會期前ニ逮捕シタルモノニ付

テハ會期至ルモ議院ノ許諾ヲ得ルノ必要アルコトナシ然レトモ立法上ヨリ之ヲ論スルトキハ甚タ不完全ナリト評セサルヲ得ス

第二節 帝國議會ノ職權

歐米諸國ノ憲法ヲ通觀スルニ往々上下兩院ノ職權ヲ異ニスルモノアリ立法上財政上ノ點ニ付テハ兩院ニ略ホ同一ノ權利ヲ與フルト雖トモ或ル國ニ於テハ上院ニ一種特別ナル高等裁判權ヲ委テタル所アリ例ヘハ國ノ首長國務大臣其他重要ナル高等官ノ國事犯等ニ關シテハ上院ニ於テ之ヲ裁判スルカ如シ英佛ノ如キ即チ是レナリ又或ル國ニ於テハ上院ヲシテ行政事務ノ一部分ニ關與セシムルコトアリ北米合衆國及ヒ獨逸帝國ノ如キ即チ是ナリ諸君モ知ラル、如ク北米合衆國等ニ於テハ外國ヘ派遣スル公使ハ上院ノ承認ヲ得ルニ非ザレハ之ヲ任命スルコトヲ得ス又條約ノ如キハ必ス上院ノ承認ヲ得サルヘカラス此他尙ホ歐米諸國ノ憲法ヲ仔細ニ吟味スルトキハ財政上ノ事ニ至テモ亦上下兩院ノ間ニ權力ノ相等シカラサル所アリ例ヘハ上院ニ於テハ豫算案ノ全體ヲ可

否スルコトヲ得ヘキモ之ヲ修正スルコトヲ得サルカ如キ即チ是ナリ

斯ノ如ク上下兩院ノ職權ニ關シ歐米諸國ノ憲法ハ其規定種々ナレトモ我帝國憲法ニ於テハ貴族衆議兩院ノ職權ニ付テハ殆ト差異ナシト謂テ可ナリ唯貴族院ニ於テハ選舉ニ關スル爭訟ヲ裁判スルノ權利アリテ衆議院ニ之ヲ提出スルルノミ(貴族院第九條)此他豫算議定權ニ關シ豫算ハ先ツ衆議院ニ之ヲ提出スルコト、爲レリ但シ此點ニ付テハ多少衆議院ヲ重シタルカ如キ感想アレトモ其權利上ニ至テハ毫モ兩院ノ間ニ差異アルコトナシ尙ホ憲法第三十七條第三十八條第四十條及ヒ第六十四條等ヲ通讀スレハ重要ノ點ニ付テハ貴族衆議兩院ノ權力毫モ差等ナキコト明了ナラン

今ヤ學理上ヨリ論スルトキハ上下兩院ノ權力ヲ同等ニ爲シタルハ極メテ善良ナル制度ナリト謂ハサルヲ得ス會テ一局議院二局議院ノ利害得失ヲ論シタルトキ述ヘタルカ如ク(元來上下兩院ヲ設クル所以ノモノハ一議院ニ於テ爲シタル過誤ヲ他ノ議院ニ於テ矯正シ互ニ相監督シテ以テ良結果ヲ得シカ爲メナリ果シテ然ラハ兩院ノ權力ヲ同等ニシ同一ノ事業ニ參與セシムルハ實ニ至當ノ

(憲法)

事ト謂フヘシ是故ニ我帝國憲法ニ於テ貴族衆議兩院ノ權力ヲ同等均一ニ爲シタルハ蓋シ其當ヲ得タルモノナリト信ス然レトモ既ニ兩院ノ權力ヲ同一ニスルニ於テハ之ト同時ニ須テク上院ノ組織ニ注意セサルヘカラス此點ニ付テハ前段既ニ詳述シタルヲ以テ復タ贅セス

却說我憲法ガ帝國議會ニ與ヘタル所ノ職權如何今若シ帝國議會ニ關スル憲法ノ條文ヲ連閱スレハ其職權種々アルヘキモ就中其最モ重大ナルモノハ法律案ヲ議定スル權利財政上ニ關スル權利及ヒ政府ヲ監督スルノ權利即チ是ナリ而シテ此等ノ各權利ヲ論究スルニ當リ或ハ外交條約ニ關シテハ如何ナル權利ヲ有スルヤ即チ之ニ容喙スルノ權利ナキヤ否ヤ又政府監督ニ關シテハ政府ニ對シテ信任投票ヲ爲スノ權利ヲ有スルヤ否ヤ等種々至難ナル問題アリ殊ニ財政ニ關シ豫算問題ニ至テハ現ニ第一期ノ帝國議會ニ呈ハレタル問題中甚々困難ナルモノアリタリ

余ハ本節ヲ分テ四款トナス第一款法律案議定權第二款豫算案議定權第三款政務監督權第四款議會ニ屬スル其他ノ權利

第一款 法律案議定權

我帝國憲法第五條第三十七條及ヒ第三十八條等ノ諸條ニ依レハ帝國議會ハ法律案ヲ議定スルノ權利ヲ有セリ此職權ニ關シ研究スヘキ問題ニアリ曰ク法律案ノ議定權トハ何ソヤ曰ク議會カ此權利ヲ實行スルニ當リテハ如何ナル原則ニ依ルヘキカ即チ是ナリ

○ 第一問 法律案議定權トハ何ソヤ

議會ニ屬スル法律案ノ議定權ハ之ヲ三種ノ權利ニ區別スルコトヲ得第一法律案提出權第二法律案修正權第三法律案可否決權是ナリ而シテ第三ノ法律案可否決權即チ議會ニ於テ法律案ノ全體ヲ或ハ可決シ或ハ否決スルノ權利ニ付テハ何レノ國ノ憲法ト雖トモ概テ之ヲ議會ニ附與シタリ故ニ此點ニ付テハ敢テ論辯スルノ要ナシ然レトモ第一第二ノ權利ニ至テハ時ト處トニ因テ大ニ異ナル所アルカ故ニ以下此二點ニ付キ聊カ辯セントス

第一 法律案提出權

(憲法)

法律案提出權トハ佛語之ヲ Droit Initiative ト云ヒ即チ法律案ヲ起草シテ議會ニ提出スルノ權利ナリ此法律案提出權カ議會ニ屬スルト否トハ議會ノ職權ニ關シテ甚タ大ナル影響ヲ及ボスモノトス如何トナレハ若シ議會ニ此權利ナキトキハ議會ニ於テ或ル一ノ法律ヲ制定セント欲スルモ之ヲ議ニ付スルコトヲ得サレハナリ是故ニ議會ノ權利ヲ狹縮セントスル精神ノ憲法ニ於テハ往々法律案提出權ヲ議會ニ與ヘス又之ニ反シテ立法上ニ關シ可及的行政部ノ權利ヲ制限セント欲スル憲法ニ於テハ此權利ヲ行政部ニ與ヘサルナリ

佛國ニ於テハ千八百十四年ノ憲法及ヒ千八百五十二年ノ憲法ハ法律案提出權ヲ議會ニ與ヘス其千八百十四年ノ憲法第十六條ニ依リハ議會ハ法律案ヲ提出スルノ權利ヲ有セス唯議會ニ於テ一ノ法律ヲ制定スルノ必要アリト認メタルトキハ君主ニ法律案ノ提出ヲ建議スルコトヲ得ヘキノミ故ニ此二ノ憲法ノ下ニ在テハ議會ハ唯政府ヨリ提出シタル所ノ議案ヲ議決スルノ權利ノミヨリ有セザリキ是レ議會ノ權利ヲ制限スル憲法ニシテ又行政部ノ權利ヲ制限スル憲法モアリ同國ニ於テハ千七百九十一年ノ憲法千七百九十三年ノ憲法及ヒ共和

第三年ノ憲法等此三ノ憲法ノ下ニ在テハ法律案提出權ハ専ラ議會ニノミ屬シ政府ハ此權利ヲ有セザリシナリ

又米國ニ於テハ今日ト雖トモ尙ホ政府ハ法律案提出權ヲ有セス諸君モ知ラル、如ク米國ハ立法權ト行政權トノ分離甚タ嚴格ニシテ行政部ハ毫モ立法事業ニ權力ヲ有セサルナリ

斯ノ如ク法律案提出權ヲ或ハ議會ノ一方ノミニ與ヘ或ハ行政部ノ一方ノミニ與フル憲法アリ然レトモ此點ニ付テハ如何ナル法則ヲ用フルヲ以テ最モ適當ナリトナスヤ余ノ見ル所ニ依レハ法律案提出權ハ之ヲ立法部又ハ行政部ノ一方ニ專屬セシメ又行政部及ヒ立法部ヲシテ共ニ此權利ヲ有セシムルヲ以テ最モ適當ナラント信ス何トナレハ如何ナル法律カ國家ニ必要ナリヤ否ヲ認定スルニ最モ良地位ヲ占ムルモノハ實際國家ノ政治ニ與カル所ノ者即チ行政部ノ人々ナリ故ニ行政部ニ法律案提出權ヲ與ヘサルハ實際國家ノ爲メニ甚タ不利益タリ又前示佛國千八百十四年及ヒ千八百五十二年ノ憲法ノ如ク法律案提出權ヲ唯政府ノミニ制限スル、同ヨリ其當ヲ得ス何トナレハ前述ノ如ク政府ノ

ミニ属スルトキハ議會ニ於テ如何ナル法律ヲ制定セント欲スルモ其望ム所ノ法律案ヲ議會ノ議ニ付スルコトヲ得サレハナリ

我帝國憲法ニ依レハ法律提出權ハ議會及ヒ政府共ニ之ヲ有セリ其第三十八條ニ曰ク

兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及ヒ各法律案ヲ提出スルコトヲ得ト是ニ由テ觀レハ我憲法ハ彼ノ佛國ニ於テ欽定憲法ノ行ハレタル時代ニ比スレハ大ニ自由制度ニ近キモノナリト評セサルヲ得ス

第二 法律案修正權

法律案修正權モ憲法ノ精神如何ニ因テ種々相異ナレリ即チ憲法ノ精神ニシテ若シ議會ノ權利ヲ擴張セントスルニ在レハ自由ニ法律案ヲ修正スルノ權利ヲ議會ニ附與シ又議會ノ權利ヲ可及的狹縮セントスル憲法ニ在テハ法律案修正權モ尙ホ之ヲ制限シタリ

佛國千八百十四年ノ憲法ニ於テハ政府ヨリ提出シタル法律案ヲ修正セント欲スルトキハ豫メ君主ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ議會ノ議ニ付スルコトヲ得

サリキ又千八百五十二年ノ憲法ニ於テハ修正案アルトキハ先ツ之ヲ委員會ノ議ニ付シ若シ委員會ニ於テ可決シタルトキハ次ニ之ヲ參事院ニ廻シ而シテ參事院ニ於テ之ヲ可決シタル上ニ非サレハ議會ノ問題ト爲スコトヲ得サルノ規定ナリシナリ

我帝國憲法ニ於テハ法律案修正權ノ事ニ關シテハ特別ノ規定ナキモ議院法ニ依レハ議會ニ此權利アルコト瞭然タリ其第二十九條ニ曰ク凡テ議案ヲ發議シ及ヒ議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スル者ハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得スト是ニ由テ觀レハ賛成者二十人以上アルニ於テハ修正案ヲ提出シテ之ヲ議會ノ議ニ付スルコトヲ得

第二問 議會ハ如何ナル原則ニ依テ法律案議定權ヲ實行スルヤ

此問題ニ付テハ先ツ法律案ヲ議會ノ議ニ付スルマテノ手續ト既ニ議事ニ着手シタル以後ノ事トヲ説明セサルヘカラス凡テ法律案ハ議會ノ議ニ付スルノ前豫メ委員ニ於テ之ヲ審査スルコトヲ要ス議院法第二十八條ニ曰ク政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場

合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此限ニ在ラスト此條ニ依レハ委員ノ審査ヲ經ヘキモノハ單ニ政府ヨリ提出シタル議案ノミニ限ルカ如シト雖トモ然ラス議員ヨリ提出シタル議案ニ付テモ猶ホ政府提出ノ議案ニ於ケルカ如ク通常委員ノ審査ニ付テ委員會ニ於テ之ヲ審査シタル後委員長ヨリ委員會ノ經過ト其結果トヲ議會ニ報告シ議會ハ其報告アリタル後議事ニ着手スルモノトス但シ右第二十八條ノ但書ニ云ヘルカ如ク緊急ノ場合ニ於テハ委員ノ審査ヲ經サルコトアリト知ルヘシ

右委員會ニ關スル大體ノ規則ハ委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ許サス又或ル場合ニ於テハ議員ト雖トモ尙ホ傍聽ヲ禁スルコトアリ(議院法第二十三條及ヒ第二十四條)此他委員會ニハ全院委員常任委員特別委員等ノ別アレトモ其詳細ハ之ヲ畧ス

次ニ議事ニ着手シテヨリ以後ノ原則ニ付キ一言セシ

第一 帝國議會ノ議事ハ必ス之レヲ公開セサルヘカラス憲法第四十八條ニ曰ク

兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

ト此原則モ亦自由制度ヲ採用スルノ精神ヨリ出テタルモノナリ蓋シ代議政體ノ行ハレタル初メニ在リテヤ往々議會ハ之ヲ公開セサリシカ漸ク代議政體ノ發達スルニ隨ヒ可及的國家ノ秩序安寧ノ許ス限リハ公ケニ國家ノ事務ヲ取扱フノ趣旨ヨリシテ議會ノ議事モ亦必ス之ヲ公開セサルヘカラストノ説行ハレ今日ニ在テハ何レノ國ニ於テモ概シテ議會ノ議事ハ之ヲ公開ス本邦ハ即チ此原則ヲ採用シタルナリ

然レトモ或ハ議事ニ付キ之ヲ公開スルトキハ或ハ國家ノ秩序安寧ニ或ハ風俗ニ害アルコトアリ而シテ此等ノ場合ニ於テハ必ス秘密會ヲ開クノ方法ヲ設ケサルヘカラス所謂ル國家ノ秩序安寧ニ關スル者トハ例ヘハ外交問題ノ如キ是ナリ即チ此種ノ議事ヲ公開スルトキハ秘密漏洩シ國家ノ爲メニ甚タ有害ナルカ故ニ必スヤ其議事ヲ秘密ニセサルヲ得ス又或ル種ノ法律案ニ至リテハ其議事ヲ公ニスルトキハ却テ風俗ヲ害スルノ恐アルコトアリ現ニ昨年第一期ノ議

會ニ於テ海外出稼醜業婦女ニ關スル法律案ノ如キハ議事頗ル猥褻ニ涉ルノ恐
レアルカ故ニ之ヲ秘密會ニセリ右憲法第四十八條ノ但書ハ蓋シ之カ爲メナリ

第三 法律ノ議案ハ必ス三讀會ヲ經ルヲ要ス(議院法第二十七條)

此原則ヲ規定シタル所以ノモノハ他ナシ議事ヲ鄭重ニシ可及的法律ヲ完全ニ
制定センカ爲メナリ然レトモ或ル場合ニ於テ三讀會ヲ經ルトキハ爲メニ緊急
ノ必要ニ應スルコト能ハサルノ恐レアルヲ以テ時ニ之ヲ省略スルコトヲ得サ
ルヘカラス同條但書ニ政府ノ要求若クハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於
テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省畧
スルコトヲ得トアルハ即チ此理由ニ出ツ

第三 議會ノ議事ハ必ス出席員ノ過半数ヲ以テ決スルヲ要ス 是レ憲法ノ原
則ニシテ法律ヲ以テ之ヲ動カスヘカラス憲法第四十七條ニ曰ク

兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニ依ル
ト此原則モ亦多辯ヲ俟タスマテ明カナラン凡ソ議決ノ方法ニ種々アリ或ル一
ノ議題ニ付キ數説出ラタルトキ或ハ過半数ヲ以テスルコトアリ或ハ最多數制

ヲ用フルコトアリ而シテ我憲法ニ於テ過半数制ヲ採用シタルハ蓋シ議會ヲ議
事ヲ鄭重ニスルノ精神ニ出ツ

議事ニ關シ猶ホ少シク論究スヘキモノアリ貴族院ト衆議院トノ關係是ナリ今
茲ニ一ノ法律案ヲ政府又ハ議員ヨリ提出シテ而シテ前段既ニ述ヘタル手續ニ依
テ議事ニ着手シタルトキハ法律案ノ結局如何

第一 法律案ノ提出セラレタル議院ニ於テ其法律案ヲ否決シタルトキハ乃チ
廢案トナルカ故ニ此場合ニ於テハ他ノ議院ヘ通知スルニ及ハサルハ勿論其法
律案ハ同會期中再ヒ提出スルコトヲ得ス是レ憲法第三十九條ノ明定スル所ナ
リ曰ク

兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ
得ス

第二 若シ法律案ノ提出セラレタル議院ニ於テ其法律案ノ通過スルトキハ之
ヲ他ノ議院ニ移シテ其議院ニ於テ更ニ之ヲ討議セサルヘカラス

第三 此ノ如ク甲議院ニ於テ可決シタル一ノ法律案ヲ乙議院ニ移シタル場合

(憲法)

ニ於テ乙議院ニ於テ全ク甲議院ノ議決ニ同意シタルトキハ乙議院ヨリ其旨ヲ
上奏スヘク若シ又乙議院ニ於テ政府ヨリ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ
其旨ヲ上奏スルト同時ニ最初ニ議決シタル甲議院ニ通知スヘキナリ(議院法第
五十四條)

右ノ如ク甲議院ニ於テ議決シタル法律案ヲ乙議院ニ於テ全ク可決シ又ハ否決
シタルトキハ別ニ論スヘキ所ナシト雖トモ一ノ法律案ニ付キ貴衆兩院ノ職權
ハ同一ナルヲ以テ或ハ甲議院ニ於テ可決シタル法律案ヲ乙議院ニ於テ修正ス
ルコトアリ此場合ニ於テハ其修正案ヲ乙議院ヨリ更ニ甲議院ニ回付シ而シテ
甲議院ニ於テ若シ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ是亦煩雜ナルコトナク即
チ其修正ニ同意シタル議院ヨリ其旨ヲ上奏シ以テ陛下ノ裁可ヲ請フヘキナリ
然ルニ若シ一法律案ノ修正ニ付キ貴衆兩院ノ議相協ハサルトキハ如何スヘキ
ヤ我議院法ノ規定スル所ニ依レハ此場合ニ於テハ兩院協議會ヲ開キ以テ之ヲ
調和スルモノトス(議院法第五十五條)

此兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十名以下同數ノ委員ヲ撰擧シ其委員ノ協議案成

立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取リタルカ又ハ議案ヲ提出シタル甲議院ニ於
テ先ツ其協議案ヲ議シ次ニ乙議院ニ移シテ之ヲ議セムルモノトス(議院法第
五十六條第一項)而シテ若シ協議會ニ於テ調成シタル議案カ甲乙兩院ニ於テ可
決シタルトキハ之ヲ第二ノ議院ヨリ上奏シテ裁可ヲ請フヘク若シ又其協議案
ヲ甲乙兩院ノ一ニ於テ否決シタルトキハ乃チ廢案トナルヘシ
右協議會ニ於テ調成シタル議案ヲ甲乙兩院ニ於テ議スルニ當リ通常ノ法律案
ヲ議スルト異ナル所ハ通常ノ場合ニ於テハ一ノ法律案ニ付キ如何ナル修正説
ヲ提出スルモ毫モ妨ケナシト雖トモ之ニ反シテ協議案ニ對シテハ更ニ修正ノ
動議ヲ爲スコトヲ得サルコト是ナリ(議院法第五十六條第二項)
法律案ノ議事規則ニ關シテハ尙ホ論究スヘキモノ多々アレトモ今之ヲ畧ス

第二款 豫算議定權

我帝國憲法第六十四條ニ依レハ乃チ曰ク

國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

(憲法)

ト國民ヨリ撰出シタル議員ヲ以テ組織スル所ノ議會ニ豫算議定權ヲ附與シタルハ實ニ我邦空前ノ一大美事ト謂フヘシ今憲法ノ規定スル所ニ依レハ豫算議定權ニ關シ種々ノ制限アレトモ充分ニ之ヲ利用スル曉ニハ以テ國民ノ權利ヲ伸暢スルコトヲ得ヘシト信ス

凡ソ豫算議定權ヲ議會ニ附與スル所以ノモノハ第一國家ノ財政ヲ整理センカ爲メナリ第二行政官ノ行爲ヲ監督センカ爲メナリ故ニ此豫算議定權ノ國民ヨリ撰出シタル所ノ代議士ニ有ルト無キトハ實ニ專制政治ト自由政治トノ因テ以テ相分ル、所ノ境界タリ

我邦ニ於テ豫算ノ起源ハ明治六年ニ在リ即チ同年始メテ歲出入見込會計表ナルモノ出テ其後明治七年ヨリ豫算會計ナルモノヲ作リ明治十四年ニ至リテ會計法頒布セラレ漸ヤ豫算整頓ノ緒ニ就キシカ降テ明治十七年ニ歲出入豫算條規ナルモノ行ハレ尋テ明治十九年遂ニ勅令ヲ以テ豫算ヲ發布スルニ至レリ然リト雖トモ憲法制定以前ニ在リテヤ行政官カ自己一個ノ考案ニ由リ隨意ニ之ヲ調製シタルモノナルカ故ニ未タ以テ被治者タル國民ニ十分ノ安全ヲ與フル

コト能ハカリキ然ルニ明治二十三年憲法實施以來此ニ始メテ眞乎タル豫算出テ以テ國民ニ安全ヲ與フルコト、ハナレリ

豫算議定權ノ事ニ關シ論究スヘキモノ數多アレトモ今先ッ憲法其他議院法及ヒ會計法等ノ規定ヨリ出ツル所ノ最重要ナル二三ノ原則ヲ舉示スレハ即チ左ノ如シ

- 第一 歲出入ノ豫算ハ毎年之ヲ帝國議會ニ提出シ以テ其協贊ヲ經サルヘカラス毎年之ヲ提出スルハ是レ豫算案ノ特質タリ
 - 第二 帝國議會ノ協贊ヲ經テ確定シタル豫算ハ國務大臣ニ於テ其各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス(會計法第十二條)諸君モ知ラル、如ク凡ソ豫算ハ之ヲ款項目ニ區分シ而シテ帝國議會ノ議ニ附スルハ唯款項ノミ
 - 第三 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ用フ(憲法第七十一條)
 - 第四 豫算案ハ先ッ之ヲ衆議院ニ提出ス(憲法第六十五條)
- 以上舉示セン原則ニ付キ以下聊カ之ヲ論辨セン

(憲法)

第一 豫算ハ毎年帝國議會ニ提出シ其協賛ヲ經ルヲ要ス

豫算ハ毎年帝國議會ノ協賛ヲ經ヘントノ規定ヲ憲法中ニ特書シタル立法上ノ理由ハ抑モ那邊ニ在ルカ是レ一ハ經濟上ノ必要一ハ政治上ノ必要ヨリ來ル請フ之ヲ述ヘン

第一 豫算ヲ毎年帝國議會ノ議ニ附スルハ經濟上ノ必要ヨリ來ル夫レ國家經濟上ノ實勢ハ社會ノ進歩ト共ニ日々變遷シ行クモノナリ故ニ歲出ニセヨ又歲入ニセセヨ數年ニマタカリ之ヲ豫定スルハ策ノ得タルモノニアラス是レ豫算ヲ毎年議會ノ議ニ附スル理由ノ一ナリ

第二 豫算ヲ毎年帝國議會ノ議ニ附スルハ政治上ノ必要ヨリ來ル夫レ帝國議會ハ行政官ヲ監督スルノ職權ヲ有ス然ルニ今若シ數年ノ間國家ノ財政ヲ行政部ニ放任スルトキハ政府監督ノ職權ハ殆ト有名無實ニ歸スヘシ是レ各國共ニ豫算ハ毎年議會ノ議ニ附スルノ原則ヲ規定シタル所以ナリ

右ノ如ク豫算ハ毎年帝國議會ノ議ニ附セサルヘカラスト雖トモ實用上ヨリ之ヲ觀察スルトキハ此原則ハ歲出ノ部ニ於テ其効用最モ多シ何トナレハ歲出ニ付

テハ行政部ハ必ス議會ニ於テ議決シタル豫算ニ準據セサル可カラサレハナリ歲入ニ付テハ憲法第六十三條ニ現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限リハ舊ニ依リ之ヲ徵收ストアルヲ以テ歲入モ毎年議會ノ議ニ附セサル可カラストハ雖トモ其實徒タ一ノ手數ニ過キス何トナレハ豫算成立スルニ至ラサルモ收稅官ハ法律ニ因リ之ヲ徵收シ得可ケレハナリ是レ帝國憲法ノ歐米諸國ノ憲法ト大ニ異ナル所ナリ何トナレハ歐米立憲諸國ニ於テハ豫算成立セサルトキハ政府ハ租稅ヲ徵收スルノ權ナケレハナリ

又歲出歲入ノ豫算ハ毎年帝國議會ノ議ニ附セサルヘカラスト雖トモ或ル場合ニ於テハ數年ニマタガ爾繼續費ナルモノヲ設クルコトアリ憲法第六十八條ニ特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得トアルハ即チ是レナリ

豫算ハ毎年議會ニ提出セサル可カラサルトノ原則ニ對シ最モ大ナル例外四アリ曰ク皇室費憲法第六十六條曰ク憲法第六十七條ノ歲出曰ク緊急歲出同第七十條曰ク豫算不成立ノ場合同第七十一條即チ是ナリ請フ以下此等ノ點ニ付キ

皇室費

聊カ所見ヲ開陳セン
第一 皇室費

皇室費ノ事ニ付テハ敢テ論辨ヲ要セス憲法第六十六條ニ曰ク
皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場
合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

既定ノ歳出

皇室費現在ノ定額ハ即チ三百萬圓ナリ此三百萬圓ハ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ
敢テ帝國議會ノ協贊ヲ要セス然レトモ將來若シ三百萬圓以上ノ支出ヲ要スルトキハ
其増加額ニ對シテハ帝國議會ノ協贊ヲ要ス是レ憲法第六十六條ノ規定スル所ナリ
第二 憲法第六十七條ノ歳出
同條ノ歳出ニ至リテハ論スヘキモノ頗ル多シ諸君モ知ラレ、如ク此點ニ付テ
ハ既ニ昨年來世上ニ於テ種々ノ議論起リ且ツ將來幾多ノ問題ノ生シ得ヘキ所
ナルヲ以テ茲ニ詳細ニ之ヲ論究スルノ必要アリト信ス憲法第六十七條ニ曰ク
憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及ヒ法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府
ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減ス

ルコトヲ得ス

本條ニ關シテハ種々ノ問題アリ請フ逐次之ヲ論究セン

第一問 本條ニ所謂歳出ハ如何ナル種類ノ費用ナルヤ

先ツ本條ニ規定セル所ノ歳出ニ三種アリ曰ク憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ
歳出曰ク法律ノ結果ニ由ル歳出曰ク法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出是ナリ而
シテ憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出トハ例ヘハ文武官ノ俸給、賞勳、年金若
クハ扶助費等ノ如キモノ是レナリ此等ノ費用ハ總テ 天皇陛下カ其大權ニ依
テ定メ給フ所ナリ(憲法第十條第十二條及ヒ第十五條參看唯茲ニ疑ノ存スルハ
既定ノ歳出トハ前年度ノ豫算ニ於テ既ニ定マリタル金額ヲ指示スルモノナル
ヤ將テ豫算提出前既ニ勅令ヲ以テ定メタル諸般ノ歳出ナリヤ如何ノ點是ナリ
但シ此點ニ付テハ後段第四問ニ至リテ詳論スヘシ
法律ノ結果ニ由ル歳出トハ例ヘハ帝國議會裁判所及ヒ會計檢査院ノ經費又ハ
徴兵費若クハ徴稅費等ノ如キモノ是レナリ此等ノ費用ハ法律ノ結果トシテ生
スル所ノモノナリ

又法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出トハ例ヘハ公債償還ノ利子及ヒ手数料、法律上ノ賠償及ヒ訴訟費預金ノ利子又ハ備外國人ノ俸給及ヒ恩給等ノ如キモノ是レナリ此等ハ實ニ法律上政府ノ義務ニ屬スル所ノ費用ナリ
右三種ノ歳出ノ費目ハ明治二十三年法律第五十七號會計法補則ニ於テ規定セラレタルカ故ニ其詳細ハ同法ニ就テ看ルヘシ但シ其規定セル所ノ費目ハ果シテ皆憲法第六十七條ノ明文ニ適合スルヤ否ヤニ至リテハ多少異論ナキニ非サレトモ事細密ニ涉ルヲ以テ之ヲ畧ス

(第二十七回)

第二問 本條ニ規定セル所ノ歳出ニ付キ帝國議會ハ如何ナル點ニマテ議及スルコトヲ得ルヤ換言スレハ帝國議會ハ唯政府ノ同意ヲ得ハ如何ナル費目ト雖トモ廢除削減ヲ爲シ得ルヤ
諸君モ尙ホ記憶セラルハナラン此點ニ付テハ第一期ノ議會ニ於テ殊ニ議論ノ熾然タリシ所ナルヲ而シテ或ル一派ノ議員ハ曰ク憲法第六十七條ニ規定セル所ノ歳出ハ或ハ 天皇ノ大權ニ基キ或ハ法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ

義務ニ屬スル所ノモノナルヲ以テ議會ニ於テ之ヲ廢除又ハ削減セント欲セハ必ス先ツ政府ノ同意ヲ得サルヘカラス次ニ政府ノ同意ヲ得テ之ヲ廢除削減スルニ當テモ亦タ必ス法律勅令ノ範圍内ニ於テヒサルヘカラス換言スレハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ廢除削減ヲ請求シ得ヘキモ其以外ノ廢除削減ヲ請求スルコトヲ得ス如何トナレハ議會ハ官制又ハ俸給令等ニ侵入シテ議決スルノ權利ナキヲ以テナリト余ハ此說ニ服スルコト能ハス

實ニ論者ノ言ヘルカ如ク官制ヲ定メ俸給令ヲ發スルハ 天皇ノ大權ニ屬スルヲ以テ其制定ニ付テハ議會ハ毫モ之レニ隊ヲ容ル、コトヲ得サルヤ勿論タリ然リト雖モ議會ニ於テ憲法第六十七條ノ歳出ニ關シテ政府ニ其廢除又ハ削減ヲ請求スルハ決シテ官制俸給令其物ノ制定ニ干渉スルモノニ非ラス本條ニ曰ハズヤ(上畧)政府ノ同意ナクシテ云々(下略)ト然レハ議會ハ唯政府ノ同意サヘ得レハ如何ナル廢除如何ナル削減ト雖モ之ヲ爲シ得ヘク其廢除削減ノ程度費用ノ種類ニ至リテハ毫モ制限スル所ナキナリ又此ノ如クスルモ敢テ 天皇ノ大權ヲ侵害スルモノニ非ス如何トナレハ其廢除削減ニ對シテ同意スルト否トハ